2026年度
教育課程

岐阜県立下呂看護専門学校

目　　次

１．教育理念・教育目的・教育目標　・・・・・・Ｐ１
２．教育課程構造図と考え方　・・・・・・Ｐ２
３．カリキュラムポリシー　・・・・・・Ｐ３・４
４．各分野の考え方・科目の設定及び設定理由　・・・・・・Ｐ５・６
５．主要概念の定義・学校の特性　・・・・・・Ｐ７
６．教育課程　・・・・・・Ｐ８・９
７．カリキュラムマップ・カリキュラムツリー　・・・・・・Ｐ１０・１１
８．基礎分野
　１）論理学　・・・・・・Ｐ１２
　２）物理学　・・・・・・Ｐ１３
　３）情報科学　・・・・・・Ｐ１４
　４）英会話　・・・・・・Ｐ１５
　５）医用英語　・・・・・・Ｐ１６
　６）中国の言語と文化　・・・・・・Ｐ１７
　７）哲学　・・・・・・Ｐ１８
　８）人間関係論　・・・・・・Ｐ１９
　９）心理学　・・・・・・Ｐ２０
　１０）社会学　・・・・・・Ｐ２１
　１１）家族関係論　・・・・・・Ｐ２２
　１２）文化人類学　・・・・・・Ｐ２３
　１３）倫理学　・・・・・・Ｐ２４
　１４）教育学　・・・・・・Ｐ２５
　１５）地域の歴史と文化　・・・・・・Ｐ２６
９．専門基礎分野
　１）人間発達学　・・・・・・Ｐ２７
　２）形態機能学Ⅰ　・・・・・・Ｐ２８
　３）形態機能学Ⅱ　・・・・・・Ｐ２９
　４）形態機能学Ⅲ　・・・・・・Ｐ３０
　５）形態機能学Ⅳ　・・・・・・Ｐ３１
　６）生化学　・・・・・・Ｐ３２
　７）栄養学　・・・・・・Ｐ３３
　８）微生物学　・・・・・・Ｐ３４
　９）病理学　・・・・・・Ｐ３５
　１０）疾病治療学Ⅰ　・・・・・・Ｐ３６
　１１）疾病治療学Ⅱ　・・・・・・Ｐ３７
　１２）疾病治療学Ⅲ　・・・・・・Ｐ３８
　１３）疾病治療学Ⅳ　・・・・・・Ｐ３９
　１４）疾病治療学Ⅴ　・・・・・・Ｐ４０
　１５）薬理学　・・・・・・Ｐ４１
　１６）臨床栄養学　・・・・・・Ｐ４２
　１７）総合医療論　・・・・・・Ｐ４３
　１８）公衆衛生学　・・・・・・Ｐ４４
　１９）社会保障総論　・・・・・・Ｐ４５
　２０）社会保障各論　・・・・・・Ｐ４６
　２１）社会福祉援助技術　・・・・・・Ｐ４７
　２２）関係法規　・・・・・・Ｐ４８

１０．専門分野

基礎看護学
１）基礎看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ４９
２）基礎看護学構成図　・・・・・・Ｐ５０～５２
３）看護学概論　・・・・・・Ｐ５３
４）コミュニケーション　・・・・・・Ｐ５４
５）フィジカルアセスメント　・・・・・・Ｐ５５
６）看護過程　・・・・・・Ｐ５６
７）日常生活を支える技術　環境　・・・・・・Ｐ５７
８）日常生活を支える技術　活動・休息　・・・・・・Ｐ５８
９）日常生活を支える技術　食事・排泄　・・・・・・Ｐ５９
１０）日常生活を支える技術　清潔・衣生活　・・・・・・Ｐ６０
１１）呼吸・循環を整える技術　・・・・・・Ｐ６１
１２）治療・処置に伴う技術　・・・・・・Ｐ６２
１３）臨床看護総論　・・・・・・Ｐ６３
地域・在宅看護論
１）地域・在宅看護論考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ６４
２）地域・在宅看護論構成図　・・・・・・Ｐ６５
３）生活者を知る　・・・・・・Ｐ６６
４）生活を支える看護Ⅰ　・・・・・・Ｐ６７
５）生活を支える看護Ⅱ　・・・・・・Ｐ６８
６）地域療養を支える技術　・・・・・・Ｐ６９
７）地域療養を支える看護実践プロセス　・・・・・・Ｐ７０
健康状態別看護
１）健康状態別看護考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ７１
２）健康状態別看護の考え方に基づく科目と専門領域別単位数　・・・Ｐ７２
３）健康状態別看護構成図　・・・・・・Ｐ７３
４）健康状態別看護　テキスト・文献一覧　・・・・・・Ｐ７４
５）ライフサイクルと健康　・・・・・・Ｐ７５
６）保健指導論　・・・・・・Ｐ７６
７）健康回復支援論　・・・・・・Ｐ７７
８）薬物療法と看護　・・・・・・Ｐ７８
９）周手術期と看護　・・・・・・Ｐ７９
１０）終末期と看護　・・・・・・Ｐ８０
１１）臨床判断能力　・・・・・・Ｐ８１
成人看護学
１）成人看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ８２
２）成人看護学構成図　・・・・・・Ｐ８３
３）成人看護学概論　・・・・・・Ｐ８４
４）クリティカルケア看護　・・・・・・Ｐ８５
５）健康学習支援方法論　・・・・・・Ｐ８６
老年看護学
１）老年看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ８７
２）老年看護学構成図　・・・・・・Ｐ８８
３）老年看護学概論　・・・・・・Ｐ８９
４）老年生活支援方法論　・・・・・・Ｐ９０
５）老年期を支える看護実践プロセス　・・・・・・Ｐ９１
小児看護学
１）小児看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ９２
２）小児看護学構成図　・・・・・・Ｐ９３
３）小児看護学概論　・・・・・・Ｐ９４
４）小児疾患の理解と看護　・・・・・・Ｐ９５
５）子どもと家族を支える看護実践プロセス　・・・・・・Ｐ９６
母性看護学
１）母性看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ９７
２）母性看護学構成図　・・・・・・Ｐ９８
３）母性看護学概論　・・・・・・Ｐ９９

４）周産期における母子の健康と看護　・・・・・・Ｐ１００
５）周産期における母子を支える看護実践プロセス　・・・・・・Ｐ１０１
精神看護学
１）精神看護学考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ１０２
２）精神看護学構成図　・・・・・・Ｐ１０３
３）精神看護学概論　・・・・・・Ｐ１０４
４）精神障がいの理解と看護の基礎　・・・・・・Ｐ１０５
５）精神看護の実際　・・・・・・Ｐ１０６
看護の統合と実践
１）看護の統合と実際考え方・目的・目標　・・・・・・Ｐ１０７
２）看護の統合と実際構成図　・・・・・・Ｐ１０８
３）看護管理　・・・・・・Ｐ１０９
４）多職種理解と連携　・・・・・・Ｐ１１０
５）看護の探求Ⅰ　・・・・・・Ｐ１１１
６）看護の探求Ⅱ　・・・・・・Ｐ１１２
７）医療安全　・・・・・・Ｐ１１３
８）災害看護・国際看護　・・・・・・Ｐ１１４
看護技術マトリックス　・・・・・・Ｐ１１５・１１６

１．教育理念・教育目的・教育目標

理念

本校は、生命の尊厳と人間愛を基盤として、対象を思いやる豊かな人間性を育み、専門知識・技術を教授し、社会のニーズに応え得る能力を養い、安全で安心な医療を担う、専門職業人を育成します。

目的

本校の教育は、保健師助産師看護師法に基づき、看護に必要な基礎知識、技術、および態度を習得し、豊かな人間性を備え、社会のニーズに対応できる看護師の育成を目的とする。

目標

１）人間への関心や思いやりをもち、高い倫理観に基づき相手の意思を尊重する能力を養う。

２）看護の対象を幅広い視野でとらえ、統合された存在として理解する能力を養う。

３）科学的根拠に基づき、対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる基礎的能力を養う。

４）保健医療福祉システムを理解し、多職種と協働する能力を養う。

５）課題解決に向けて、主体的に看護を探求し続ける力を身に付ける。

ディプロマポリシー

１）高い倫理観及びコミュニケーション能力を身につけ、異なる価値観を持つ人々をかけがえのない人間として尊重することができる。

２）看護の対象を幅広い視野でとらえ、統合された存在として理解できる。

３）科学的根拠に基づき対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる。

４）保健医療福祉システムにおける各専門職の役割・機能を理解し、看護専門職として協働するための基礎的能力を身につけている。

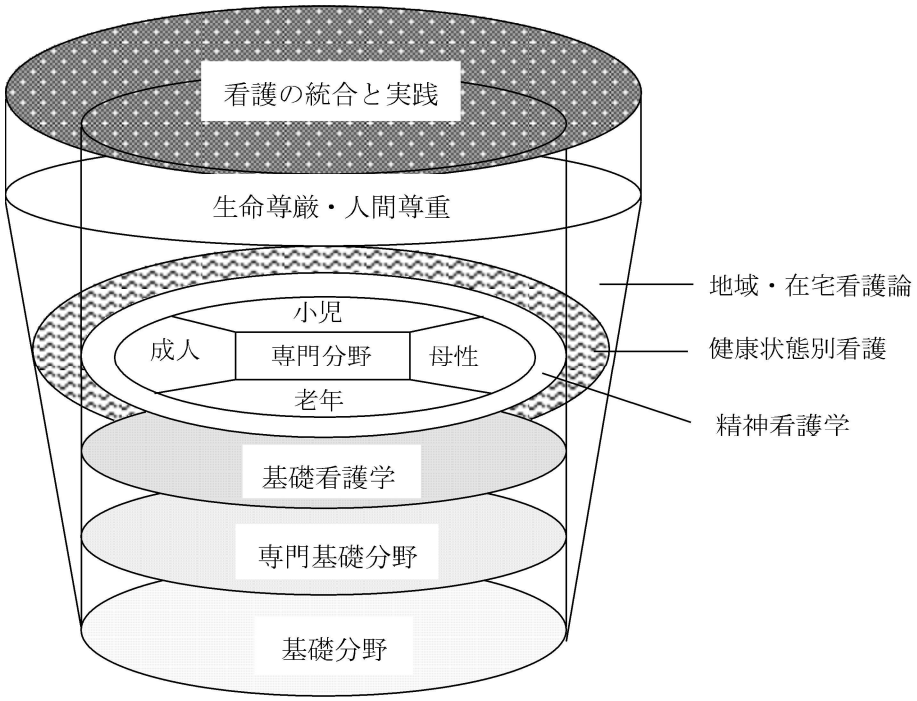
５）看護専門職として、課題解決に向けて主体的・継続的に自己研鑽ができる。

２．教育課程構造図と考え方

本校の教育は生命の尊厳と人間の尊重を基盤としている。すなわち、看護に必要な豊かな人間性と知識・技術・実践力を修得し、地域社会に貢献できる看護師の育成を目的としている。そのため、以下のような教育課程を構築した。

基礎分野は科学的思考の基礎を養い、社会的視点で自己を含む人間理解を深め、チーム医療の中で、自己表現できる基礎的能力を学ぶ内容であり、看護教育の根底に位置づけた。専門基礎分野は看護の基盤となる知識を学ぶことを目的に、基礎分野の上に位置づけた。

専門分野は基礎分野・専門基礎分野で学んだ知識・考え方を基に、あらゆる健康状態・生活の場に応じた看護実践のための科目である。地域・在宅看護論は、地域で生活するすべての人間が看護の対象であり、その他の専門科目の対象すべてを含むため、基礎分野、専門基礎分野、およびその他の専門分野を取り囲む形で位置づけた。基礎看護学は、各専門領域に共通する基礎的理論・知識・技術・態度として捉え、その他の専門分野である成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学は、人間のライフサイクルの側面から成立する科目として位置づけた。精神看護学は、どのライフサイクルにある人に対しても関わる科目であるため、専門科目を取り囲むように位置付けた。また、健康状態別看護は、各領域を横断的に学ぶ科目であるため、専門領域すべてを取り囲むよう位置付けた。看護の統合と実践は、専門分野の中でも他の科目の学びから看護学を総括する科目と捉え、専門分野の上に位置づけた。知識・技術・態度を修得し、倫理に基づいた看護が実践できるように組み立てた。



３．カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

当校のディプロマポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」に区分し、それぞれの教育が連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて学年進行とともに段階的に学修できるようにカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。

１）人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った看護師を育成するために、１年次から３年次まで、人間理解、人間関係構築、倫理観の育成のための授業科目を段階的に配置します。

２）１年次には地域社会で生活する人々を理解し、科学的根拠に基づいた看護を実践するために必要な基礎的知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的に配置します。

３）２年次には地域社会で生活する多様な対象者への看護を実践するために、さまざまな発達段階・健康レベルにある対象の特徴を踏まえた個別的な看護を実践するための授業科目を配置します。また、公衆衛生や社会保障制度、多職種との連携に関する幅広い知識を身に付けることで、包括的な視点から看護を捉える視点を身に付けます。

４）対象への看護実践能力を身に着けるための授業科目を１年次から段階的に配置し、３年次には臨床判断能力を活かした対象への統合された看護実践につなげるためのカリキュラムを提供します。

５）学生の主体的な学習と、理解状況や関心に合わせた授業の展開を目指して、学生同士が交流する学習方法を大切にします。また、グループワークやディスカッションによる演習を含む科目や実習を通して、他者と関わる力や協調性、倫理的態度、リーダーシップを身に付けるための科目を配置します。

６）看護専門職として自己研鑽の必要性を理解し、看護を探求し続けるために必要な知識や技術を学ぶための授業科目を配置します。

７）学修成果の評価は、筆記試験・レポート、技術試験、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

段階別到達目標

	ＤＰ	１年次	２年次	３年次
1	高い倫理観及びコミュニケーション能力を身につけ、異なる価値観を持つ人々をかけがえのない人間として尊重することができる。	１）看護師の役割、倫理綱領について知ることができる。 ２）他者の立場に立ち、物事を考えることができる。 ３）他者の意見を受け入れ、自己の考えを述べることができる。	１）看護師としての倫理観について考え、行動できる。 ２）その人にとっての尊厳を守るために行動ができる。 ３）他者の意見を受け入れ省察することができる。	１）看護師としての責任を自覚し、高い倫理観を持って行動できる。 ２）尊厳を守るためのより良い行動を考え、実践できる。 ３）他者の意見を受け入れ、自己の傾向を理解し建設的意見を述べることができる。
2	看護の対象を幅広い視野でとらえ、統合された存在として理解できる。	１）生活と健康の概念を知り、双方が及ぼす影響を考えることができる。 ２）人間を身体的・精神的・社会的側面から理解する必要性がわかる。	１）生活の流れの中、健康との関連性を考えることができる。 ２）人間を身体的・精神的・社会的側面を持つ統合体として理解できる。	１）あらゆる生活の場において、健康と生活がどう関連しているか考えることができる。 ２）人間を多様な価値観を持つ統合体として理解できる。
3	科学的根拠に基づき、対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる。	１）問題解決のための手法を知ることができる。 ２）看護に必要な専門的基礎知識を習得できる。 ３）基本的な看護技術を実践できる。	１）看護に必要な専門的基礎知識を活用し、よりよい生活へ導くための手法を用いて看護を実践できる。 ２）その人に応じた看護技術を実践できる。	１）看護に必要な専門的な知識を活用し、臨床判断ができる基礎的能力が身につく。 ２）あらゆる場面に応じた看護技術を創意工夫することができる。
4	保健医療福祉システムにおける各専門職の役割・機能を理解し、看護専門職として協働するための基礎的能力を身につけている。	１）生活や健康を守るための法律や制度を知ることができる。 ２）保健・医療・福祉に関わる職種とその役割を知ることができる。 ３）グループ活動を通して自己の役割を果たすことができる。	１）対象を通して法律や制度の運用の実際を知ることができる。 ２）多職種が連携する必要性を理解できる。 ３）多職種の役割を踏まえ、自分自身の役割を明確にできる。	１）対象を通して法律や制度の必要性を考えることができる。 ２）多職種の独自性を尊重し多様な場で生活する人々を支援するために協働する必要性が理解できる。
5	看護専門職として、課題解決に向けて主体的・継続的に自己研鑽ができる。	１）支援を受けて課題を見出すことができる。 ２）課題解決の方法を知ることができる。 ３）自己の傾向がわかる。	１）自ら課題を見つけることができる。 ２）課題解決に向けて、様々な方法（あらゆる角度から）を考えることができる。	１）課題解決が困難であっても、最後まで諦めず解決方法を考えることができる。 ２）困難な課題でも自らの持てる力を最大限発揮し、取り組むことができる。 ３）学び続ける必要性が理解できる。

４．各分野の考え方、科目の設定及び設定理由

基礎分野では、 科学的思考の基礎を養い、社会的視点で自己を含む人間理解を深める内容とした。科学的思考を客観的、普遍的、実証的なデータ―に基づく知識、理解、思考過程ととらえ、これらの基礎的知識を身につけるために、物理学、情報科学、外国語に加え、新たに論理的思考を養えるよう論理学を科目立てした。社会的視点とは集団（地域、家族）の比較、変化から物事を捉える視点とし、これらの基礎的知識を身につけるために科目を追加した。家族関係論、文化人類学に加え、特に地域に根差した看護の展開を目指すため、社会学、地域の歴史と文化を新たに科目立てした。また、倫理的な視点を養うため、これまで各専門領域の中で倫理的側面を踏まえながら教授していたものを、系統的に学べるよう倫理学を科目立てした。自己を含む人間理解については、哲学、心理学、教育学に人間関係論を新たに加え、より深く人間理解及び人間関係を学べるようにした。

専門基礎分野では、看護の基盤となる知識を学ぶこと、すなわち人体を系統立てて理解し、健康、疾病、障害に関する観察力、判断力の基礎を身につける。人体の理解は単に解剖生理を学ぶだけでなく、人体の解剖及び生理を形態的に理解し看護につなげられるよう形態機能学とした。また、健康や疾病に影響を及ぼす、生化学、栄養学、微生物学、病理学、薬理学を学ぶ。疾病については、疾病治療学とし各疾病の病態から治療まで人体の構造から系統的に学べるよう科目を構成した。

さらに、人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うために、公衆衛生、社会保障論、関係法規、社会福祉援助技術を科目立てした。

専門分野は基礎分野・専門基礎分野で学んだ知識・考え方を基に、あらゆる健康状態・生活の場に応じた看護実践のための科目である。

基礎看護学では、看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、看護実践の基礎能力を習得できる内容とした。

地域・在宅看護論は各専門領域のすべてにおいて地域で生活する人間を理解し看護実践するものであるとし、基礎看護学の次に位置付けた。生活者を知ることから始め、地域で生活する人間を支える看護、地域療養を支えるための看護を実践するための能力を養うための科目立てをした。

健康状態別看護は、領域を横断する形で各領域の時間を組み合わせて科目を構成した。内容は、各領域に共通し一つの科目として教授する方が効果的な内容を科目立てした。ライフサイクルと健康では、発達段階における特徴を一人の人間の誕生から死まで通して一つの科目の中で学ぶ。保健指導論、健康回復支援論、薬物療法と看護、周手術期と看護、終末期と看護は、各領域の特徴を踏まえた内容で構成した。臨床判断能力は新たに科目立てし、各領域の特徴を踏まえた臨床判断を行うための能力が養える内容とした。

各領域の科目においては、科目の内容がわかりやすいよう具体的な科目名に変更した。

また、看護過程の展開を行う科目については、看護実践プロセスと表現を統一した。

成人看護学で、成人期にある対象の特徴や健康問題を捉え、健康の保持・増進の重要性を理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護を実践できる能力を養えることのできる内容とした。急性期に対応できるようクリティカルケア看護、成人期の特徴を踏まえた学習支援を学ぶ健康学習支援方法論を科目立てした。

老年看護学では老年期にある対象の健康レベル・諸機能低下・社会背景の違いを理解し、対象のセルフケア能力向上への支援・自立への看護の在り方を学ぶことのできる内容とした。

小児看護学では、あらゆる健康レベルにある子どもおよび親・家族に対して、個別的な看護を実践するために必要な疾患の理解、子どもと家族を支えるための看護実践における基礎的知識・技術・態度を学ぶことのできる内容とした。

母性看護学では、性と生殖に関する健康と権利の概念を学び、種族保存だけでなく母性の役割を広くとらえ、女性が健全なライフサイクルをおくるための看護を学ぶ内容とした。

精神看護学ではあらゆるライフステージにある人間の健全なこころの発達と、それに影響を与える要因を理解し、現代社会における精神的健康の保持増進及び危機的状態への援助に必要な知識・技術を学習する内容とした。

看護の統合と実践では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野での学びをより臨床実践に近い形で学習し、知識・技術を統合できる内容とした。チーム医療、および多職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解し、看護をマネンジメントできる基礎的能力を身につけるための科目とした。医療安全は実践的な学習ができるようこれまでの知識や技術を統合させて学ぶ内容とした。また、常に自己の看護を振り返り、質の高い看護を提供できるよう研究的視点の基礎を学ぶための科目を看護の探求Ⅰ、自己の看護観を養い、看護実践においてさらに看護を探求する土台とするための科目を看護の探求Ⅱとした。災害看護・国際看護においては様々な視点で災害時の看護を学ぶための基礎的知識を学ぶ内容とし、また諸外国の医療や看護の現状を知り、諸外国の保健・医療・福祉における課題を理解できるよう科目立てした。

５．主要概念の定義・学校の特性

１）主要概念の定義

人間とは

環境との相互作用のなかで成長と発達をし続ける唯一でかけがいのない存在。
自らの意思を持ちニードを満たしながら自己実現に向けて努力する生活者である。

環境とは

変化に適応でき、持続的かつ相互に作用し合うすべての内的・外的環境であり、成長と発達や健康に影響を及ぼす。

健康とは

生から死に至るまで環境に影響され、連続的かつ流動的に変化するもので、身体的・精神的・社会的に調和しバランスがとれている状態。

看護とは

人間の尊厳と権利を基盤とし、様々な専門職や地域の人々と共に、対象となる「個人」「家族」「学校や職場などの集団」「地域社会全体」に、専門知識と科学的根拠に基づいた実践活動を行い、その人らしく生を全うできるよう生活を支援すること。

生活とは

人間の生命活動を基盤に、自らの意思に基づいて、生命維持・活動や余暇・学業・職業・社会との関わりを行い、対象の価値・信条によって自己実現を目指して活動することである。

２）学校の特性

自然が豊かな環境の中、定員 30 名と小規模校であり、一人ひとりにきめ細やかな指導を行なっている。
岐阜県立下呂温泉病院でほとんどの実習を行なうことができ、指導者と専任教員と協力し合い、学生が安心して実習できる環境となっている。

6．教育課程　　別表１

教育課程（学則第8条関係）

分野	教育内容	科目名	単位数	時間	当校単位
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	小計15単位
		物理学	1	30	
		情報科学	1	30	
		英会話	1	15	
		医用英語	1	30	
		中国の言語と文化	1	15	
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30	
		人間関係論	1	15	
		心理学	1	30	
		社会学	1	15	
		家族関係論	1	15	
		文化人類学	1	15	
		倫理学	1	20	
		教育学	1	30	
		地域の歴史と文化	1	15	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人間発達学	1	15	小計22単位
		形態機能学Ⅰ	1	30	
		形態機能学Ⅱ	1	30	
		形態機能学Ⅲ	1	15	
		形態機能学Ⅳ	1	30	
		生化学	1	30	
		栄養学	1	15	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1	30	
		病理学	1	15	
		疾病治療学Ⅰ	1	30	
		疾病治療学Ⅱ	1	20	
		疾病治療学Ⅲ	1	30	
		疾病治療学Ⅳ	1	15	
		疾病治療学Ⅴ	1	30	
		薬理学	1	30	
		臨床栄養学	1	15	
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	
		公衆衛生学	1	15	
		社会保障総論	1	30	
		社会保障各論	1	15	
		社会福祉援助技術	1	15	
		関係法規	1	15	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	
		コミュニケーション	1	30	
		フィジカルアセスメント	1	30	
		看護過程	1	30	
		日常生活を支える技術　環境	1	30	
		日常生活を支える技術　活動・休息	1	30	
		日常生活を支える技術　食事・排泄	1	30	
		日常生活を支える技術　清潔・衣生活	1	30	
		呼吸・循環を整える技術	1	30	
		治療・処置に伴う技術	1	30	
		臨床看護総論	1	30	
	地域・在宅看護論	生活者を知る	1	15	
		生活を支える看護Ⅰ	1	30	
		生活を支える看護Ⅱ	1	15	
		地域療養を支える技術	1	30	
		地域療養を支える看護実践プロセス	1	30	

分野	教育内容	科目名	単位数	時間	当校単位
専門分野	健康状態別看護	ライフサイクルと健康	2	45	小計45単位
		保健指導論	1	30	
		健康回復支援論	1	30	
		薬物療法と看護	1	30	
		周手術期と看護	1	30	
		終末期と看護	1	30	
		臨床判断能力	1	30	
	成人看護学	成人看護学概論	1	15	
		クリティカルケア看護	1	30	
		健康学習支援方法論	1	30	
	老年看護学	老年看護学概論	1	15	
		老年生活支援方法論	1	30	
		老年期を支える看護実践プロセス	1	30	
	小児看護学	小児看護学概論	1	15	
		小児疾患の理解と看護	1	30	
		子どもと家族を支える看護実践プロセス	1	30	
	母性看護学	母性看護学概論	1	15	
		周産期における母子の健康と看護	1	30	
		周産期における母子を支える看護実践プロセス	1	30	
	精神看護学	精神看護学概論	1	15	
		精神障がいの理解と看護の基礎	1	30	
		精神看護の実際	1	30	
	看護の統合と実践	看護管理	1	30	
		多職種理解と連携	1	15	
		看護の探求Ⅰ	1	30	
		看護の探求Ⅱ	1	15	
		医療安全	1	30	
		災害看護・国際看護	1	30	
臨地実習	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	30	小計24単位
		基礎看護学実習Ⅱ	2	60	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30	
		地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	30	
		地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	60	
	成人看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	60	
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	60	
		成人・老年看護学実習Ⅲ	3	90	
	老年看護学	老年看護学実習	1	30	
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ	1	30	
		小児看護学実習Ⅱ	1	30	
	母性看護学	母性看護学実習	2	60	
	精神看護学	精神看護学実習	2	60	
	看護の統合と実践	統合実習	3	90	
合計			106	2740	

備考

講義は15から30時間を１単位とし、臨地実習は30から45時間を１単位とする。

教育課程

【講義】

分野	教育	科目名	1学年 単位数（時間）	2学年 単位数（時間）	3学年 単位数（時間）	科目単位数	時間	当校単位
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1（30）			1	30	15
		物理学	1（30）			1	30	
		情報科学		1（30）		1	30	
		英会話	1（15）			1	15	
		医用英語			1（30）	1	30	
		中国の言語と文化			1（15）	1	15	
	人間と生活・社会の理解	哲学	1（30）			1	30	
		人間関係論	1（15）			1	15	
		心理学	1（30）			1	30	
		社会学	1（15）			1	15	
		家族関係論		1（15）		1	15	
		文化人類学			1（15）	1	15	
		倫理学			1（20）	1	20	
		教育学			1（30）	1	30	
		地域の歴史と文化	1（15）			1	15	
	小　計		8（180）	2（45）	5（110）	15	335	15
専門基礎分野	人体の構造と機能	人間発達学	1（15）			1	15	16
		形態機能学Ⅰ	1（30）			1	30	
		形態機能学Ⅱ	1（30）			1	30	
		形態機能学Ⅲ	1（15）			1	15	
		形態機能学Ⅳ	1（30）			1	30	
		生化学	1（30）			1	30	
		栄養学	1（15）			1	15	
	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	1（30）			1	30	
		病理学	1（15）			1	15	
		疾病治療学Ⅰ	1（30）			1	30	
		疾病治療学Ⅱ	1（20）			1	20	
		疾病治療学Ⅲ	1（30）			1	30	
		疾病治療学Ⅳ	1（15）			1	15	
		疾病治療学Ⅴ		1（30）		1	30	
		薬理学	1（30）			1	30	
		臨床栄養学		1（15）		1	15	
	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1（15）			1	15	6
		公衆衛生学		1（15）		1	15	
		社会保障総論		1（30）		1	30	
		社会保障各論		1（15）		1	15	
		社会福祉援助技術			1（15）	1	15	
		関係法規			1（15）	1	15	
	小　計		15（350）	5（105）	2（30）	22	485	22

分野	教育内容	科目名	1学年 単位数（時間）	2学年 単位数（時間）	3学年 単位数（時間）	科目単位数	時間	当校単位
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1（30）			1	30	11
		コミュニケーション	1（30）			1	30	
		フィジカルアセスメント	1（30）			1	30	
		看護過程	1（30）			1	30	
		日常生活を支える技術　環境	1（30）			1	30	
		日常生活を支える技術　活動・休息	1（30）			1	30	
		日常生活を支える技術　食事・排泄	1（30）			1	30	
		日常生活を支える技術　清潔・衣生活	1（30）			1	30	
		呼吸・循環を整える技術	1（30）			1	30	
		治療・処置に伴う技術	1（30）			1	30	
		臨床看護総論	1（30）			1	30	
	地域・在宅看護論	生活者を知る	1（15）			1	15	5
		生活を支える看護Ⅰ		1（30）		1	30	
		生活を支える看護Ⅱ		1（15）		1	15	
		地域療養を支える技術		1（30）		1	30	
		地域療養を支える看護実践プロセス			1（30）	1	30	
	健康状態別看護	ライフサイクルと健康	2（45）			2	45	8
		保健指導論		1（30）		1	30	
		健康回復支援論		1（30）		1	30	
		薬物療法と看護		1（30）		1	30	
		周手術期と看護		1（30）		1	30	
		終末期と看護		1（30）		1	30	
		臨床判断能力			1（30）	1	30	
	成人看護学	成人看護学概論	1（15）			1	15	3
		クリティカルケア看護		1（30）		1	30	
		健康学習支援方法論		1（30）		1	30	
	老年看護学	老年看護学概論	1（15）			1	15	3
		老年生活支援方法論	1（30）			1	30	
		老年期を支える看護実践プロセス		1（30）		1	30	
	小児看護学	小児看護学概論		1（15）		1	15	3
		小児疾患の理解と看護		1（30）		1	30	
		子どもと家族を支える看護実践プロセス		1（30）		1	30	
	母性看護学	母性看護学概論		1（15）		1	15	3
		周産期における母子の健康と看護		1（30）		1	30	
		周産期における母子を支える看護実践プロセス			1（30）	1	30	
	精神看護学	精神看護学概論		1（15）		1	15	3
		精神障がいの理解と看護の基礎		1（30）		1	30	
		精神看護の実際			1（30）	1	30	
	看護の統合と実践	看護管理			1（30）	1	30	6
		多職種理解と連携			1（15）	1	15	
		看護の探求Ⅰ		1（30）		1	30	
		看護の探求Ⅱ			1（15）	1	15	
		医療安全			1（30）	1	30	
		災害看護・国際看護			1（30）	1	30	
	小　計		17（450）	19（510）	9（240）	45	1200	45
合　計			40(980)	26(660)	16(380)	82	2020	82

【実習】

分野	教育内容	科目名	1学年 単位数（時間）	2学年 単位数（時間）	3学年 単位数（時間）	科目単位数	時間	当校単位
専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ－1	1（30）			1	30	3
		基礎看護学実習Ⅰ－2						
		基礎看護学実習Ⅱ	2（60）			2	60	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ		1（30）		1	30	4
		地域・在宅看護論実習Ⅱ			1（30）	1	30	
		地域・在宅看護論実習Ⅲ			2（60）	2	60	
	成人看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ		2（60）		2	60	7
		成人・老年看護学実習Ⅱ		2（60）		2	60	
		成人・老年看護学実習Ⅲ			3（90）	3	90	
	老年看護学	老年看護学実習		1（30）		1	30	1
	小児看護学	小児看護学実習Ⅰ		1（30）		1	30	2
		小児看護学実習Ⅱ			1（30）	1	30	
	母性看護学	母性看護学実習			2（60）	2	60	2
	精神看護学	精神看護学実習			2（60）	2	60	2
	看護の統合と実践	統合実習			3（90）	3	90	3
合　計			3(90)	7(210)	14(420)	24	720	24
総　合　計			43(1070)	33(870)	30(800)	106	2740	106

7. カリキュラムマップ

学年	ディプロマ・ポリシー／科目名		1．高い倫理観及びコミュニケーション能力を身につけ、異なる価値観を持つ人々をかけがえのない人間として尊重することができる。	2．看護の対象を幅広い視野でとらえ、統合された存在として理解できる。	3．科学的根拠に基づき、対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる。	4．保健医療福祉システムにおける各専門職の役割・機能を理解し、看護専門職として協働するための基礎的能力を身につけている。	5．看護専門職として、課題解決に向けて主体的・継続的に自己研鑽ができる。
1年次	論理学		◎	○			
	物理学				◎		
	英会話			◎			
	哲学		◎	○			
	人間関係論		◎	○			
	心理学		○	◎			
	社会学		○	◎			
	地域の歴史と文化		○	◎			
	人間発達学		○	◎	○		
	形態機能学Ⅰ			◎	○		
	形態機能学Ⅱ			◎	○		
	形態機能学Ⅲ			◎	○		
	形態機能学Ⅳ			◎	○		○
	生化学			◎	○		
	栄養学			◎	○		
	微生物学				◎		
	病理学				◎		
	疾病治療学Ⅰ				◎		
	疾病治療学Ⅱ				◎		
	疾病治療学Ⅲ				◎		
	疾病治療学Ⅳ				◎		
	薬理学				◎		
	総合医療論					◎	
	看護学概論		○	◎	○		
	コミュニケーション		◎				○
	フィジカルアセスメント				◎		
	看護過程				◎		
	日常生活を支える技術	環境	○		◎		○
		活動・休息	○		◎		○
		食事・排泄	○		◎		○
		清潔・衣生活	○		◎		○
	呼吸・循環を整える技術				◎		
	治療・処置に伴う技術				◎		
	臨床看護学総論				◎		
	生活者を知る		○	◎		○	
	ライフサイクルと健康		○	◎			
	成人看護学概論		○	○	◎		
	老年看護学概論		○	◎	○		
	老年生活支援方法論			○	◎		
	基礎看護学実習Ⅰ－1		○				
	基礎看護学実習Ⅰ－2		◎				○
	基礎看護学実習Ⅱ			○	◎		○
2年次	情報科学						◎
	家族関係論			◎	○		
	疾病治療学Ⅴ				◎		
	臨床栄養学				◎		
	公衆衛生学					◎	
	社会保障総論					◎	
	社会保障各論					◎	
	生活を支える看護Ⅰ				○	◎	
	生活を支える看護Ⅱ				○	◎	
	地域療養を支える技術				◎	○	○
	保健指導論		○	◎	○		
	健康回復支援論			○	◎		
	薬物療法と看護				◎		
	周手術期と看護			○	◎		
	終末期と看護		○	◎			
	クリティカルケア看護		○	○	◎		
	健康学習支援方法論		○	○	◎		
	老年期を支える看護実践プロセス			○	◎		○
	小児看護学概論		○	◎		○	
	小児疾患の理解と看護		○	○	◎		
	子どもと家族を支える看護実践プロセス		○	○	◎		
	母性看護学概論		◎	○	○		
	周産期における母子の健康と看護		○	○	◎		
	精神看護学概論			◎	○	○	
	精神障がいの理解と看護の基礎			○	◎		
	看護の探求Ⅰ						◎
	地域・在宅看護論実習Ⅰ		○	◎			
	成人・老年看護学実習Ⅰ		○	○	◎		
	成人・老年看護学実習Ⅱ		○	○	◎		
	老年看護学実習		○	◎			
	小児看護学実習Ⅰ		◎	○	○		
3年次	医用英語			◎			
	中国の言語と文化		◎	○			
	文化人類学		◎	○			
	倫理学		◎				○
	教育学		○				◎
	社会福祉援助技術					◎	
	関係法規					◎	
	地域療養を支える看護実践プロセス				◎	○	○
	臨床判断能力				◎	○	○
	周産期における母子を支える看護実践プロセス		○	○	◎		
	精神看護の実際		◎	○			○
	看護管理					◎	○
	多職種理解と協働		○			◎	
	看護の探求Ⅱ						◎
	医療安全		○		◎		○
	災害看護・国際看護				◎	○	○
	地域・在宅看護論実習Ⅱ				○	◎	○
	地域・在宅看護論実習Ⅲ				○	◎	○
	成人・老年看護学実習Ⅲ				◎	○	○
	小児看護学実習Ⅱ			◎	○	○	
	母性看護学実習		○		◎		○
	精神看護学実習		◎	○			○
	統合実習				○	○	◎

カリキュラムツリー

AP

①看護への関心があり、看護を学ぶために必要な基礎学力を有し、論理的に考えられる人。

②学習習慣が身についており、意欲と探求心が旺盛である人。

③人に関心と思いやりを持ち、自他を大切にできる人。

④感性豊かで多様な人とコミュニケーションをとることができ、仲間と共に助け合うことができる人。

⑤地域社会に関心を持ち、自らすすんで人の役に立ちたいと思う人。

教育内容		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期
専門分野	地域生活支援領域			小児看護学実習Ⅰ	看護の探求Ⅰ		
				老年看護学実習	成人・老年看護学実習Ⅱ		看護の探求Ⅱ
				地域・在宅看護論実習Ⅰ	成人・老年看護学実習Ⅰ		統合実習
				精神看護学概論	精神障がいの理解と看護の基礎	地域・在宅看護論実習Ⅱ	地域・在宅看護論実習Ⅲ
				母性看護学概論	周産期における母子の健康と看護	成人・老年看護学実習Ⅲ	小児看護学実習Ⅱ
				小児看護学概論	子どもと家族を支える看護実践プロセス	母性看護学実習	精神看護学実習
				老年期を支える看護実践プロセス	小児疾患の理解と看護	看護管理	
				健康学習支援方法論	クリティカルケア	医療安全	
		基礎看護学実習Ⅰ		周手術期と看護	終末期と看護	臨床判断能力	
		ライフサイクルと健康	基礎看護学実習Ⅱ	薬物療法と看護	健康回復支援論	精神看護の実際	
		成人看護学概論	老年生活支援方法論	保健指導論	地域療養を支える技術	周産期における母子を支える看護実践プロセス	災害看護・国際看護
		生活を知る	老年看護学概論	生活を支える看護Ⅰ	生活を支える看護Ⅱ	地域療養を支える看護実践プロセス	多職種理解と協働
	基礎看護領域		臨床看護総論				
			基礎：治療・処置に伴う技術				
			基礎：呼吸・循環を支える技術				
		基礎：活動・休息	基礎：清潔・衣生活				
		基礎：環境	基礎：食事・排泄				
		コミュニケーション	看護過程				
		基礎看護学概論	フィジカルアセスメント				
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度				社会保障各論		関係法規
		総合医療論		公衆衛生学	社会保障総論		社会福祉援助技術
	疾病の成り立ちと回復の促進		薬理学				
		疾病治療学Ⅱ	疾病治療学Ⅳ				
		疾病治療学Ⅰ	疾病治療学Ⅲ				
		病理学	微生物学				
	人体の構造と機能		栄養学				
		生化学	形態機能学Ⅳ				
		形態機能学Ⅰ	形態機能学Ⅲ	疾病治療学Ⅴ			
		人間発達学	形態機能学Ⅱ	臨床栄養学			
基礎分野	人間と生活・社会の理解		社会学				
		地域の歴史と文化	心理学				文化人類学
		哲学	人間関係論	家族関係論		教育学	倫理学
	科学的思考の基盤	英会話					
		物理学				中国語の言語と文化	
		論理学			情報科学	医用英語	

DP

1．高い倫理観及びコミュニケーション能力を身に付け、異なる価値観を持つ人々をかけがえのない人間として尊重することができる。

2．看護の対象を幅広い視野でとらえ、統合された存在として理解できる。

3．科学的根拠に基づき、対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる。

4．保健医療福祉システムにおける各専門職の役割・機能を理解し、看護専門職として協働するための基礎的能力を身に付けている。

5．看護専門職として、課題解決に向けて主体的・継続的に自己研鑽ができる。

８．基礎分野

基礎分野

授業科目	論理学	担当教員	外部講師 金子　佳弘	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	看護実践では、科学的根拠を追及した上で、論理的な思考力を効果的に活かすことが必要である。本授業では、論理的な思考力を向上させるための基本的な知識を身に付け、活用できるように演習する。そうすることで、論理的な思考力を高め、看護実践の向上に資することを目的とする。
テキスト 文献	基礎からの国語表現の実践（2訂版京都書房）　自己評価できる「レッスン」解説編（付録）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	論理的な思考力と三段論法	講義	外部講師 （金子）
2	誤った前提・危険な飛躍と認知再構成法	講義・演習	
3	逆さまの論理と接続表現（「だから」に反論する）	講義・演習	
4	水掛け論と暗黙の論理（思考ツールの活用とアイメッセージ）	講義・演習	
5	仮説形成と否定の論理	講義・演習	
6	類比論法（アナロジーを使った説明）	講義・演習	
7	合意形成（話の聴き方とDESC法）	講義・演習	
8	見かけの根拠と推測の確かさ	講義・演習	
9	因果関係（相関関係と因果関係）	講義・演習	
10	ニセモノの説得力（説得力のある文章）	講義・演習	
11	事実・推論・意見とリフレーミング	講義・演習	
12	問題を整理する（思考ツールの活用と認知行動療法の視点）	講義・演習	
13	横並び論法とずれた反論（反論を入れた文章）	講義・演習	
14	異なる意見を尊重する（異なる意見から学ぶ姿勢）	講義・演習	
15	筆記試験（課題論文）・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	1. 前時の学習の振り返り（復習）をして、次時の学習に臨むこと 2. 事前の指示に従って課題に取り組むこと
評価方法	筆記試験、課題提出による総合評価：100点

基礎分野

授業科目	物理学	担当教員	外部講師 安藤　雅夫	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	自然科学の基礎学問として物理学の基本を理解し、人体や医療・看護に関連する物理現象の理解へと結びつける。さらに、一つの現象を興味をもって観察し、物理的に思考できる能力を身に付ける。
テキスト 文献	随時資料を配布する

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	物理学とは何か　物理学史	講義	外部講師 （安藤）
2	単位系　速度と加速度　メートルの定義　自由落下の演示実験	講義	
3	ニュートンの法則　運動の3法則について	講義	
4	力学的エネルギーの法則　力学的エネルギー保存則の演示実験	講義	
5	剛体の力学　力のモーメント	講義	
6	剛体の力学（2）　重心、体位変換	講義	
7	流体　浮力　ベルヌーイの法則	講義	
8	圧力　血圧	講義	
9	電磁気　静電気　回路　摩擦電気の演示実験	講義	
10	電磁気（2）磁気　電気と磁気の相互作用　渦電流の演示実験	講義	
11	熱力学　比熱、熱の移動　熱気球の演示実験	講義	
12	音　音の基礎的知識　共鳴　共鳴現象の演示実験	講義	
13	光　光の性質　レンズ　　虹と回折の演示実験	講義	
14	放射線　X線　放射線の単位	講義	
15	筆記試験・まとめ	試験・講義	

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	情報科学	担当教員	外部講師 深井　英和	単位数	1	開講年次	2年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	情報化社会に伴い、医療の現場では適切な情報収集・処理能力、および判断能力が求められる。また、ICT機器の運用スキルが求められる。本講義では、西洋医学の基礎である確率・統計学、論理演算、デジタル機器の数理、情報リテラシーやPCの基本的使用法を学ぶ。
テキスト 文献	随時資料を配布する

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	科学的方法と確率統計概説、確率計算の基礎	講義	外部講師 （深井）
2	記述統計学（代表値、平均、分散、度数分布、ヒストグラム）	講義	
3	記述統計学（標準偏差、偏差値、多変量データ、共分散と相関）	講義	
4	統計的推測（母集団と標本、パラメータと推定量）	講義	
5	統計的推測（正規分布表を使った計算）	講義	
6	集合論と論理演算、論理回路	講義	
7	二進法と十六進法、デジタルによる情報表現	講義	
8	情報リテラシー	講義	
9	情報倫理	講義	
10	Microsoft　Word　の使い方	演習	
11	Microsoft PowerPoint の使い方	演習	
12	Microsoft　Excel の使い方（1）	演習	
13	Microsoft　Excel の使い方（2）	演習	
14	HTML によるウェブページの編集	演習	
15	筆記試験・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと 第10回～14回は計算機使用のため準備すること
評価方法	筆記試験、レポート、演習課題を合わせて評価：100点

基礎分野

授業科目	英会話	担当教員	外部講師 下房　実千代	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	海外旅行での基本的な会話のマスター、外国人の考え方を理解する。
テキスト 文献	Let's Read Alound & Lean English

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	自己紹介、入国審査	講義、Listening Speaking	1
2	税関審査、道案内	講義、Listening Speaking	
3	観光地、遺失物取扱所	講義、Listening Speaking	
4	アミューズメントパーク、ホームパーティー	講義、Listening Speaking	
5	ショッピング、空港での見送り	講義、Listening Speaking	
6	リスニングテスト、音読テスト	テスト	
7	面接テスト	テスト	
8	空港での出迎え	講義、Listening Speaking	

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	①Listening　②音読　③面接　合わせて100点

基礎分野

授業科目	医用英語	担当教員	外部講師 北條　由美	単位数	1	開講年次	3年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	医療現場で使われる用語、表現を理解する。また会話能力、文法等を有効に活用し、医療現場での英語力を高める。
テキスト 文献	Nursing English in Action　～Lnvest in your future　第2版(IPEC)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	U1　Greetings（自己紹介）	講義	外部講師 （北條）
2	U1　Greetings（自己紹介）	講義	
3	U2　Symptons　（症状）	講義	
4	U3　Patient profile　（患者のプロフィール）	講義	
5	U3　Patient profile　（患者のプロフィール）	講義	
6	U4　Medical history　（病歴）	講義	
7	U4　Medical history　（病歴）	講義	
8	U5　Unit orientation（病棟内のオリエンテーション）	講義	
9	U6　ADL（日常生活動作）	講義	
10	U7　Vital signs　（バイタルサイン）	講義	
11	U8　Test and procedures（検査と処置）	講義	
12	U9　Medication（処方薬）	講義	
13	U10 Discharge（退院）	講義	
14	Intaview test（インタビューテスト）	講義	
15	Test（筆記試験・まとめ）	講義	

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	中国の言語と文化	担当教員	外部講師 庄　暁暉	単位数	1	開講年次	3年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	中国の基本的な日常会話をとおし、中国の文化を理解する。
テキスト 文献	講義中に指示します

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	中国語入門 （中国の文化、中国語の発音、文法など） 翻訳機能アプリの活用	講義	外部講師 （庄）
2	日常的な基礎会話「こんにちは」「おはようございます」「さようなら」	講義	
3	日常的な基礎会話「ありがとう」「すみません」「ごめんなさい」	講義	
4	日常的な基礎会話　自己紹介、相手の名前を聞く	講義	
5	年月と曜日の数え方・尋ね方	講義	
6	身体の部位、症状、程度の表し方	講義	
7	中国人が病院に受診に来たら・・・	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書（資料）を事前に読んで臨むこと
評価方法	リスニング、スピーキング、筆記試験を合わせて評価：100点

基礎分野

授業科目	哲学	担当教員	外部講師 天池　洋介	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	看護の対象である人間とその社会環境のあり方を理解するため、北欧諸国の様々な福祉政策を参考に、人間の幸せとその支援のしかたについてアクティブ・ラーニングの手法を通じて、哲学的に考えます。
テキスト 文献	なし（教員作成のスライド）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	幸せとは何か	講義	外部講師 （天池）
2	幸せを支えるとはどういうことか	講義	
3	幸せな家族とはどういうものだろうか	講義	
4	誰もが安心して暮らせる社会に必要なものは何か	講義	
5	教育は何のためにするのだろうか	講義	
6	子どもや若者の立場が低いのはなぜだろうか	講義	
7	利用者のためになる福祉とはどのようなものか	講義	
8	なぜ女性ばかりが家事や子育てをしないといけないのか	講義	
9	人間らしい医療とはどのようなものか	講義	
10	どうして犯罪は起きるのか	講義	
11	誰とでも平等に接するべきか	講義	
12	どうして仕事はつらいのか	講義	
13	まともな政治とはどういうものか	講義	
14	争いのない世界は可能か	講義	
15	筆記試験・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	人間関係論	担当教員	外部講師 増山　雅美	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	人間関係の理解を深め、看護に必要な対人関係構築への基礎を学ぶ。
テキスト 文献	人間関係論　（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	人間関係の中の自己と他者　～人間関係とは～	講義	外部講師 （増山）
2	自己認知	講義	
3	対人認知	講義	
4	対人関係の成立	講義	
5	対人関係の維持と崩壊	講義	
6	態度と対人行動	講義	
7	集団と個人	講義	
8	筆記試験（1時間 ）		

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	心理学	担当教員	外部講師 水野　友有	単位数	1	開講年次	1年次11月
				時間数	30		

授業のねらい	心理学とは何だろうか。心理学を学べば人の心が「わかる」のだろうか。人の心を理解するとは、一体どのようなことを言うのだろうか。本講義は、心理学の一般的・基礎知識を得るために行われる。心理学には様々な領域があるが、広範囲にわたってその知見を紹介する。日常生活における具体例を掲げながら、「心理学を看護の世界に援用する」という目標のもと、心理学とは何かを考える機会としたい。
テキスト 文献	はじめて出会う心理学　第3版　有斐閣アルマ

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	心理学とは何か	講義	外部講師 （水野）
2	知覚（第11章）	講義	
3	記憶（第12章）	講義	
4	学習（第13章）	講義	
5	欲求・動機づけ（第5章）	講義	
6	防衛機制（第8章・第9章）	講義	
7	ストレスとメンタルヘルス（第8章・第9章）	講義	
8	知能（第7章）	講義	
9	思考（第14章）	講義	
10	性格（第6章）・感情(第5章）	講義	
11	発達1（第3章・第4章）	講義	
12	発達2（第3章・第4章）	講義	
13	社会1（第17章・第18章）	講義	
14	社会2（第17章・第18章）	講義	
15	筆記試験・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	該当する箇所を読んでおくこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	社会学	担当教員	外部講師 神戸　博一	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	社会学が成立した近代社会の特徴や社会学の基礎概念について学ぶ。広範囲な社会学の中から、患者ー医療者関係とコミュニケーション、健康・病気の社会格差の諸相、対策などについて理解する。
テキスト 文献	社会学（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	社会学の意義　近代社会と社会学の成立	講義	外部講師 （神戸）
2	社会学の基礎概念　行為、社会的行為、社会関係	講義	
3	患者ー医療者関係とコミュニケーション　コミュニケーションの基礎	講義	
4	患者ー医療者関係	講義	
5	健康・病気の社会格差　社会格差と平等	講義	
6	社会格差の諸相	講義	
7	社会格差の発生のメカニズム　その是正	講義	
8	筆記試験（1時間）		
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験、出席時間を総合的に評価：100点

基礎分野

授業科目	家族関係論	担当教員	外部講師 神戸　博一	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	15		

授業のねらい	家族とは何か、家族の構造・機能、家族機能の変化や多様性と現代家族の課題について理解し、看護の対象である家族の看護実践へ発展させるための基礎的な学びとする。
テキスト 文献	家族看護学（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	家族のとらえ方　①　隣接学問　　②　看護学	講義	外部講師 （神戸）
2	家族の構造　ジェノグラム、エコマップ	講義	
3	家族機能（育児機能、セルフケア機能）	講義	
4	家族機能の変化	講義	
5	現代家族の多様性	講義	
6	現代家族の課題	講義	
7	家族看護が目指すもの	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	文化人類学	担当教員	外部講師 石井　祥子	単位数	1	開講年次	3年次7月
				時間数	15		

授業のねらい	文化が人間のものの見方や感じ方、日常の行動、人間関係等にいかに大きな影響を及ぼしているかを考える。異文化の理解を試みることが、自分自身の文化のより深い理解につながり、さまざまな文化の持つ普遍性・共通性の認識に役立つことを学ぶ。
テキスト 文献	資料配布

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	文化人類学とは何か	講義	外部講師 （石井）
2	採集狩猟民のくらし・社会・文化・変化（1）　ｱﾒﾘｶ・ｲﾝﾃﾞｨｱﾝ	講義	
3	採集狩猟民のくらし・社会・文化・変化（2）　アイヌ	講義	
4	採集狩猟民のくらし・社会・文化・変化（3）　サン（ブッシュマン）	講義	
5	牧畜民のくらし・社会・文化・変化　　モンゴル	講義	
6	農耕民のくらし・社会・文化・変化（1）　　ネパール	講義	
7	農耕民のくらし・社会・文化・変化（2）　インド・ナヤール	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

基礎分野

授業科目	倫理学	担当教員	外部講師 塚田　敬義 谷口　泰弘 岩﨑　美幸	単位数	1	開講年次	3年次7月
				時間数	20		

授業のねらい	・看護師として必要な基礎的倫理的教養を身につけ、生命の尊さを理解し、人間尊重の態度を養う。 現代社会の生命倫理の諸問題を倫理的な観点から理解する。 ・医療における倫理的、社会医学的な問題をとおし、生命倫理について考える。 ・職業倫理を学び、看護師としての倫理観を養う基礎とする。
テキスト 文献	生命倫理・医事法（医療科学社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	生命倫理学（歴史的背景）	講義	外部講師 （塚田）
2	生命倫理学（倫理原則）	講義	
3	生命倫理学（患者の権利、インフォームド・コンセント）	講義	
4	生命倫理学（脳死・臓器移植）	講義	
5	生命倫理学（生殖技術）	講義	外部講師 （谷口）
6	生命倫理学（胎児・小児・遺伝子をめぐる諸問題）	講義	
7	生命倫理学（尊厳死・安楽死）	講義	
8	生命倫理学（看護研究の倫理）	講義	
9	看護における倫理（看護師が直面する臨床倫理、組織で取り組む臨床倫理）	講義	外部講師 （岩﨑）
10	看護における倫理（事例検討）	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点(1回～4回：50点、5回～8回：50点）

基礎分野

授業科目	教育学	担当教員	外部講師 橋本　洋治	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	人間の成長・発達や社会の発展に果たす教育の意義や役割について理解する。また、生涯を通しての教育や学習の必要性を理解し、看護師としての専門性教育とは何かを考える基礎とする。
テキスト 文献	講師資料 授業中に適宜紹介

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	教育とは	講義・演習	外部講師 （橋本）
2	自己変遷史1	講義・演習	
3	自己変遷史2	講義・演習	
4	教育とは何か1　自己変遷史より	講義・演習	
5	教育とは何か2　人間の発達と教育①	講義・演習	
6	教育とは何か3　人間の発達と教育②	講義・演習	
7	教育とは何か4　人間の発達と教育③	講義・演習	
8	教育とは何か5　人間の発達と教育④	講義・演習	
9	教育とは何か6　人間の発達と教育⑤	講義・演習	
10	学校教育1　教育を受ける権利①	講義・演習	
11	学校教育2　教育を受ける権利②	講義・演習	
12	学校教育3　公教育	講義・演習	
13	生涯学習と教育	講義・演習	
14	看護師の専門性と教育	講義・演習	
15	筆記試験・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで臨むこと
評価方法	授業への参加状況や最終試験などを総合的に判断する:100点

基礎分野

授業科目	地域の歴史と文化	担当教員	外部講師 渡邉　丈展 岩田　修	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	飛騨地域の歴史と文化を学び、看護の対象（個人・家族・地域）の生活に関心を寄せるとともに自分自身の生活について考える。また、地域の人々や文化と触れ合うことにより、コミュニケーション能力の育成と豊かな人間性を養う。
テキスト 文献	講義中に資料を配布します

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	レクリエーションをとおして下呂温泉の歴史と文化を学ぶ	講義	外部講師 （渡邉）
2	レクリエーションをとおして下呂温泉の歴史と文化を学ぶ	講義	
3	天領下の飛騨と高山陣屋	講義	外部講師 （岩田）
4	飛騨の自然・地形・環境・生活・文化財	講義	
5	飛騨の歴史・文化	講義	
6	飛騨の人物・産業	講義	
7	高山市内フィールドワーク（高山陣屋ほか）	講義	
8	高山市内フィールドワーク（高山陣屋ほか）（1時間）	講義	

事前準備や 受講要件等	講義に必要な物品を各自準備し臨むこと
評価方法	課題：100点（3回～8回）

９．専門基礎分野

専門基礎分野

授業科目	人間発達学	担当教員	外部講師 水野　友有	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	人間の生涯発達を理解することを目的とし、発達に関する諸理論の理解をもとに、人間の生涯を身体・心理・社会的側面から捉え、看護のための人間理解を深める。
テキスト 文献	看護のための人間発達学 （医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	人間と発達	講義	外部講師 （水野）
2	発達理論の理解　　エリクソン、ボウルビィ、レビンソン、ハヴィガースト	講義	
3	人間の発達段階と発達課題1　胎児期～幼児期の心と身体の特徴	講義	
4	人間の発達段階と発達課題2　学童期の心と身体の特徴	講義	
5	人間の発達段階と発達課題3　思春期・青年期の心と身体の特徴	講義	
6	人間の発達段階と発達課題4 成人期の心と身体の特徴	講義	
7	人間の発達段階と発達課題5 老年期の心と身体の特徴	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験 ： 100点

専門基礎分野

授業科目	形態機能学Ⅰ	担当教員	外部講師 佐竹　裕孝	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	ヒトの身体が正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本構造と関連づけて統合的に学習し、解剖学的構成・機能的役割を学ぶ。形態機能学Ⅰでは、骨・筋系、消化器系・呼吸器系を体系的に学習し、看護学を学ぶ為に必要となる基礎知識を習得することを目標とする。
テキスト 文献	人体の構造と機能［1］ 解剖生理学 （医学書院）

回数	学習内容		授業方法	担当教員
1	形態機能学総論Ⅰ	形態からみた人体	講義	外部講師 （佐竹）
2	形態機能学総論Ⅱ	細胞・組織	講義	
3	骨・筋系Ⅰ	人体の骨格、骨格筋、体幹の骨格と筋	講義	
4	骨・筋系Ⅱ	上肢の骨格と筋	講義	
5	骨・筋系Ⅲ	下肢の骨格と筋	講義	
6	骨・筋系Ⅳ	頭頸部の骨格と筋、筋の収縮	講義	
7	消化器系Ⅰ	口・咽頭の構造と機能	講義	
8	消化器系Ⅱ	食道・胃の構造と機能	講義	
9	消化器系Ⅲ	小腸・大腸の構造と機能	講義	
10	消化器系Ⅳ	栄養素の消化と吸収	講義	
11	消化器系Ⅴ	肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能，腹膜	講義	
12	呼吸器系Ⅰ	呼吸器の構造	講義	
13	呼吸器系Ⅱ	呼吸生理①　呼吸運動，呼吸気量	講義	
14	呼吸器系Ⅲ	呼吸生理②　ガス交換とガスの運搬	講義	
15	呼吸器系Ⅳ	呼吸生理③　肺の循環，呼吸運動の調節	講義	
	筆記試験（1時間）			

事前準備や 受講要件等	高校・生物で学習した人体に関する知識を再確認して、講義に臨むようにする。
評価方法	筆記試験、学習態度を総合的に評価：100点

専門基礎分野

授業科目	形態機能学Ⅱ	担当教員	外部講師 佐竹　裕孝	単位数	1	開講年次	1年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	ヒトの身体が正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本構造と関連づけて統合的に学習し、解剖学的構成・機能的役割を学ぶ。形態機能学Ⅱでは、血液・循環器系、腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌系を体系的に学習し、看護学を学ぶ為に必要となる基礎知識を習得することを目標とする。
テキスト 文献	人体の構造と機能［1］ 解剖生理学 （医学書院）

回数	学習内容		授業方法	担当教員
1	血液Ⅰ	血液の組成と機能，血球	講義	外部講師 （佐竹）
2	血液Ⅱ	血漿、凝固線溶系、血液型	講義	
3	体温	体温，体温調節の機序	講義	
4	循環器系Ⅰ	心臓の構造と機能	講義	
5	循環器系Ⅱ	末梢循環系の構造	講義	
6	循環器系Ⅲ	血液循環の調節①	講義	
7	循環器系Ⅳ	血液循環の調節②，リンパ系の構造と循環	講義	
8	腎・泌尿器系Ⅰ	腎の構造と機能	講義	
9	腎・泌尿器系Ⅱ	クリアランス，排尿路の構造と機能	講義	
10	腎・泌尿器系Ⅲ	体液とその調節	講義	
11	生殖器系	生殖器の構造と機能	講義	
12	内分泌器系Ⅰ	自律神経による調節、内分泌による調節	講義	
13	内分泌器系Ⅱ	視床下部―下垂体系、甲状腺と副甲状腺	講義	
14	内分泌器系Ⅲ	膵臓，副腎，性腺	講義	
15	内分泌器系Ⅳ	ホルモン分泌の調整	講義	
	筆記試験（1時間）			

事前準備や 受講要件等	高校・生物で学習した人体に関する知識を再確認して、講義に臨むようにする。
評価方法	筆記試験、学習態度を総合的に評価：100点

専門基礎分野

授業科目	形態機能学Ⅲ	担当教員	外部講師 佐竹　裕孝	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	ヒトの身体が正常時にどのように働いて恒常性が維持されているかを、人体の基本構造と関連づけて統合的に学習し、解剖学的構成・機能的役割を学ぶ。形態機能学Ⅲでは、神経系、感覚器系を体系的に学習し、看護学を学ぶ為に必要となる基礎知識を習得することを目標とする。
テキスト 文献	人体の構造と機能［1］ 解剖生理学 （医学書院）

回数	学習内容		授業方法	担当教員
1	神経系Ⅰ	神経系の構造と機能	講義	外部講師 （佐竹）
2	神経系Ⅱ	脊髄と脳	講義	
3	神経系Ⅲ	脊髄神経と脳神経	講義	
4	神経系Ⅳ	自律神経とその調節機能	講義	
5	神経系Ⅴ	脳の高次機能、運動機能と感覚機能	講義	
6	感覚器系Ⅰ	眼の構造と視覚	講義	
7	感覚器系Ⅱ	耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚と嗅覚、痛み	講義	
8	感覚器系Ⅲ	皮膚の構造と機能 （1時間）	講義	
	筆記試験（1時間）			

事前準備や 受講要件等	高校・生物で学習した人体に関する知識を再確認して、講義に臨むようにする。
評価方法	筆記試験、学習態度を総合的に評価：100点

専門基礎分野

授業科目	形態機能学Ⅳ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	健康上の課題があっても日常生活が送れるよう手助けをするため、日常生活行動の視点から看護において必要な人体の形態機能を学ぶ。また、学生自身が行っている生活行動の視点から、身体のつくり、はたらきを理解することは、対象への関心や看護への意欲の向上となり効果的なグループ学習の成果となることをねらいとする。
テキスト 文献	看護形態機能学　生活行動からみるからだ （日本看護協会出版会） 人体の構造と機能［1］ 解剖生理学（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護における形態機能学 何のための生活行動か	講義	専任教員 （　）
2	恒常性維持のための物質の流通	講義	
3	恒常性維持のための調整機構	講義	
4	看護形態機能学における学び方ガイダンス 生活と身体の構造と機能1 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
5	生活と身体の構造と機能2 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
6	生活と身体の構造と機能3 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
7	生活と身体の構造と機能4 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
8	生活と身体の構造と機能5 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
9	生活と身体の構造と機能6 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
10	生活と身体の構造と機能7 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
11	生活と身体の構造と機能8 動く・食べる・息をする・トイレに行く・話す・聞く・眠る・お風呂に入る	講義・演習	
12	生活を支えるための形態機能学	講義・演習	
13	生活を支えるための形態機能学	講義・演習	
14	生活を支えるための形態機能学	講義・演習	
15	生活を支えるための形態機能学　まとめ	講義・演習	

事前準備や 受講要件等	教科書および形態機能学Ⅰ～Ⅲの復習など準備し臨むこと
評価方法	小テスト：30点、リフレクションレポート：50点、グループ学習取り組み状況：20点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	生化学	担当教員	外部講師 臼井　茂之	単位数	1	開講年次	1年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	生命の最小単位である細胞の中で営まれている様々な化学反応（代謝）と、その巧妙な調節の仕組みから生命現象を理解する。また、疾病と代謝・栄養との関係を理解し、どのように看護につながるかを考える。
テキスト 文献	人体の構造と機能②　臨床生化学（MCメディカ出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	代謝総論	講義	外部講師 （　臼井　）
2	生命維持に必要な栄養素の構造と性質1（細胞、糖類）	講義	
3	生命維持に必要な栄養素の構造と性質2（脂質、アミノ酸とタンパク質）	講義	
4	生命維持に必要な栄養素の構造と性質3（核酸とヌクレオチド）	講義	
5	酵素	講義	
6	糖質代謝1	講義	
7	糖質代謝2	講義	
8	脂質代謝1	講義	
9	脂質代謝2	講義	
10	タンパク質とアミノ酸の代謝	講義	
11	核酸・ヌクレオチドの代謝	講義	
12	エネルギー代謝の統合と制御	講義	
13	遺伝情報	講義	
14	先天性代謝異常	講義	
15	免疫概論	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

専門基礎分野

授業科目	栄養学	担当教員	外部講師☆ 加藤　登恵子	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	栄養素の種類、体内での役割と代謝、食生態・食糧事情・衛生上の問題などについて学び、食と健康とのかかわりについて理解する。
テキスト 文献	人体の構造と機能 ［3］ 栄養学　（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	人間栄養学と看護	講義	外部講師 （ 加藤 ）
2	栄養状態の評価・判定	講義	
3	栄養素の種類とはたらき　　エネルギー代謝	講義	
4	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義	
5	栄養ケア・マネジメント	講義	
6	ライフステージと栄養ー小児、成人、母性	講義	
7	ライフステージと栄養－高齢者	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	管理栄養士として医療機関で勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	微生物学	担当教員	外部講師 田中　香お里	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	微生物は我々が生活する環境の一部である。近年、必ずしも病気を起こさない微生物も、医学的に問題となる場合が比較的多くなっている。病原微生物に限らず、微生物学の基礎を理解し、看護の対象理解、看護実践、自らを守るために学習する。
テキスト 文献	疾病の成り立ちと回復の促進[4]　微生物学　（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	微生物学の基礎 　微生物の種類・特徴・歴史	講義	外部講師 （田中）
2	細菌の性質と遺伝	講義	
3	真菌・ウイルスの性質	講義	
4	感染とその防御 　感染の成立から発症・治癒	講義	
5	感染に対する生体防御機構（自然免疫・獲得免疫、粘膜免疫）　1	講義	
6	感染に対する生体防御機構（自然免疫・獲得免疫、粘膜免疫）　2	講義	
7	感染源・感染経路から見た感染症の成り立ち	講義	
8	滅菌と消毒	講義	
9	感染症の検査と診断、感染症の治療	講義	
10	病原細菌と細菌感染症　1	講義	
11	病原細菌と細菌感染症　2	講義	
12	病原ウイルスとウイルス感染症　1	講義	
13	病原ウイルスとウイルス感染症　2	講義	
14	病原ウイルスとウイルス感染症　3	講義	
15	病原真菌と真菌感染症、病原原虫と原虫感染症	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験 ： 100点

専門基礎分野

授業科目	病理学	担当教員	外部講師 家池　勤	単位数	1	開講年次	1年次6月
				時間数	15		

授業のねらい	一般的に病理学総論とよばれる炎症・循環障害・腫瘍など、臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、原因や病気の成り立ちについて学ぶ。また病変カテゴリー（先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍）について具体的に学ぶ。
テキスト 文献	疾病の成り立ちと回復の促進［1］ 病理学 （医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護と病理学、病因、疾病の分類、細胞・組織の損傷と修復（1時間）	講義	外部講師 （家池）
2	炎症、免疫とアレルギー、自己免疫疾患、移植と再生医療、感染症	講義	
3	循環障害（全身性と局所性）、高血圧症、DIC,ショックと臓器不全	講義	
4	脂質代謝障害、タンパク質代謝障害、糖質代謝異常、その他の代謝障害	講義	
5	個体の老化と老年症候群、老化のメカニズム、個体の死と終末期医療	講義	
6	先天異常と遺伝性疾患（遺伝子異常と染色体異常）、腫瘍の定義と分類	講義	
7	腫瘍の発生機序、転移・進行度、腫瘍の診断と治療	講義	
8	生活習慣と環境因子による生体の障害	講義	
	筆記試験(1時間)		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

専門基礎分野

授業科目	疾病治療学Ⅰ	担当教員	外部講師☆ ①細江　雅彦 ②近藤　史郎 ③山尾　裕	単位数	1	開講年次	1年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	呼吸器の構造および機能をふまえ、主な呼吸器疾患の原因・症状・診断・治療・予後などを学習する。 心臓の構造および機能、血管の構造、循環のしくみをふまえ、主な循環器疾患の病態・症状・診断・治療を学習する。 腎・泌尿器の形態、位置、構造と機能、役割、それらの異常によって発現する症状と病態がもたらす生理機能の変化を学習する。また、代表的な疾患の原因・症状・治療を学習する。
テキスト 文献	成人看護学[2]呼吸器　[3]循環器　[8]腎・泌尿器（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	症状と病態生理 （喀痰・血痰・喀血・咳嗽・胸痛・呼吸困難・チアノーゼ・ばち指・喘鳴・呼吸の異常）	講義	外部講師 （細江）
2	検査・治療・処置	講義	
3	疾患の理解　肺疾患	講義	
4	疾患の理解　気管支疾患	講義	
5	疾患の理解　呼吸器系腫瘍	講義	
6	症状と病態生理　（胸痛・動悸・呼吸困難・浮腫・チアノーゼ・めまい・ショック）	講義	外部講師 （近藤）
7	検査・治療・処置	講義	
8	疾患の理解　虚血性心疾患、心不全、血圧異常	講義	
9	疾患の理解　不整脈・弁膜症・心膜炎・心筋疾患	講義	
10	疾患の理解　先天性心疾患・動脈系疾患	講義	
11	疾患の理解　静脈系疾患・リンパ系疾患	講義	
12	症状と病態生理　（尿の異常・排尿に関連した症状、水と電解質異常、尿毒症）	講義	外部講師 （山尾）
13	検査・治療・処置	講義	
14	疾患の理解　上部尿路系の疾患・下部尿路系の疾患	講義	
15	疾患の理解　腎不全・腎炎・腎障害	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～5回：30点、6回～11回：40点、12回～15回：30点）
☆担当教員の 実務経験	①②③医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	疾病治療学Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①鈴木　康 ②藤本　亮汰 ③竹中　勝信	単位数	1	開講年次	1年次6月
				時間数	20		

授業のねらい	運動器と脳・神経各部の構造と機能の基礎知識をふまえ、主な症状と病態生理について学習する。また、主要な疾患の分類・原因・症状・検査法・治療法について学ぶ。
テキスト 文献	成人看護学[7]脳・神経　[10]運動器（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	症状とその病態生理 （疼痛・形態の異常・関節運動の異常・神経の障害・異常歩行）	講義	外部講師 （鈴木） （藤本）
2	疾患の理解（骨折・脱臼）	講義	
3	疾患の理解（先天性疾患・炎症性疾患）	講義	
4	疾患の理解（骨腫瘍・脊椎の疾患）	講義	
5	症状とその病態生理 （意識障害・高次脳機能障害・運動機能障害・感覚機能障害）	講義	外部講師 （竹中）
6	検査・治療・処置	講義	
7	疾患の理解（脳疾患）	講義	
8	疾患の理解（脊髄疾患）	講義	
9	疾患の理解（末梢神経障害・筋疾患・神経筋接合部疾患）	講義	
10	疾患の理解（脳・神経の感染症、てんかん）	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～4回：40点、5回～10回：60点）
☆担当教員の 実務経験	①②③医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	疾病治療学Ⅲ	担当教員	外部講師☆ ①天岡　望 ②飯田　美奈子 ③本田　幹徳	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	消化器・血液造血器・内分泌器官を構成する器官の種類・位置・構造および機能を踏まえ、主な疾患の分類・原因・症状・診断・治療などについて学習する。
テキスト 文献	成人看護学[4] 血液・造血器 [5]消化器[6]内分泌・代謝（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	消化器疾患の症状と病態生理（嚥下困難、腹水）	講義	外部講師（天岡）
2	消化器疾患の症状と病態生理（黄疸、脳症）	講義	
3	消化器疾患の理解（食道、胃、十二指腸、腸）①、検査と治療	講義	
4	消化器疾患の理解（食道、胃、十二指腸、腸）②	講義	
5	消化器疾患の理解（食道、胃、十二指腸、腸）③	講義	
6	消化器疾患の理解（腸、肝、胆、膵）	講義	
7	血液・造血器疾患の症状と病態生理	講義	外部講師（飯田）
8	血液・造血器疾患の理解(免疫異常・エイズ）	講義	
9	血液・造血器疾患の理解（赤血球系の異常・造血器系腫瘍）	講義	
10	血液・造血器疾患の理解（出血性疾患）	講義	
11	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理　（内分泌器官の構造と機能）	講義	外部講師（本田）
12	内分泌・代謝疾患の症状と病態生理	講義	
13	内分泌・代謝疾患の検査と疾患の理解①	講義	
14	内分泌・代謝疾患の検査と疾患の理解②	講義	
15	内分泌・代謝疾患の理解	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～6回：40点、7回～10回：30点、11回～15回：30点）
☆担当教員の 実務経験	①②③医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	疾病治療学Ⅳ	担当教員	外部講師☆ 松友　寛和 日野　眞子	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	15		

授業のねらい	外科的治療の特徴と、臨床で必要とされる外科学の知識・技術について学ぶ。
テキスト 文献	臨床外科看護総論（医学書院） 臨床外科看護各論(医学書院)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	外科医療の基礎（炎症・感染症・創傷管理）	講義	外部講師 （松友）
2	外科的治療を要する疾患・症状（腫瘍・外傷・熱傷・ショック）	講義	
3	外科的治療の実際（外科的基本手技・低侵襲手術）	講義	
4	外科的治療の実際①肺および胸部	講義	外部講師 （日野）
5	外科的治療の実際②心臓および脈管系	講義	外部講師 （松友）
6	外科的治療の実際③消化器および腹部1	講義	
7	外科的治療の実際④消化器および腹部2	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の実務経験	医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	疾病治療学Ⅴ	担当教員	外部講師☆ ①澤田　明　②宮本　謙 ③松塚　崇　④神谷秀喜 ⑤松居志洋 ⑥黒木尚之	単位数	1	開講年次	2年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	人間の感覚器および女性生殖器の構造と働きをふまえ、何らかの異常によって発現する主な症状とその病態生理を理解する。また代表的な疾患における検査と治療について学習し、疾患のある患者への看護を実践するための基礎的知識を養う。
テキスト 文献	成人看護学　[9]女性生殖器[12]皮膚[13]眼[14]耳鼻咽喉[15]歯・口腔（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	眼科疾患の症状、病態生理、検査、治療（部位別の疾患）	講義	外部講師（澤田）
2	眼科疾患の症状、病態生理、検査、治療（外傷、全身疾患との関連）	講義	
3	歯・口腔疾患の症状、病態生理、検査、治療（歯の異常および歯周組織の疾患）	講義	外部講師（宮本）
4	歯・口腔疾患の症状、病態生理、検査、治療（口唇・口蓋・顎・唾液腺の疾患）	講義	
5	歯・口腔疾患の症状、病態生理、検査、治療（外傷）	講義	
6	耳鼻咽喉疾患の症状、病態生理、検査、治療（耳の疾患、鼻の疾患）	講義	外部講師（松塚）
7	耳鼻咽喉疾患の症状、病態生理、検査、治療（口腔・咽頭疾患）	講義	
8	耳鼻咽喉疾患の症状、病態生理、検査、治療（気管・食道・頸部疾患と音声・言語障害）	講義	
9	皮膚科疾患の症状、病態生理、検査、治療（表在性皮膚疾患、帯状疱疹）	講義	外部講師（神谷）
10	皮膚科疾患の症状、病態生理、検査、治療（熱傷）	講義	外部講師（松居）
11	女性生殖器疾患の症状、病態生理、検査、治療（性分化疾患）	講義	外部講師（黒木）
12	女性生殖器疾患の症状、病態生理、検査、治療（臓器別疾患1）	講義	
13	女性生殖器疾患の症状、病態生理、検査、治療（臓器別疾患2）	講義	
14	女性生殖器疾患の症状、病態生理、検査、治療（機能的疾患1）	講義	
15	女性生殖器疾患の症状、病態生理、検査、治療（機能的疾患2）	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や受講要件等	教科書を読んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点 （1回・2回:15点、3回～5回:20点、6回～8回:20点、9回・10回:15点、11回～15回:30点）
☆担当教員の実務経験	①③④⑤⑥医師として勤務している経験を活かした授業展開をする ②歯科医師として勤務している経験を活かした授業展開をする

専門基礎分野

授業科目	薬理学	担当教員	外部講師☆ 関谷　猛	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	薬理作用の基礎的知識を学び、主な薬物の特徴、作用機序、薬物への人体への影響や正しい取り扱いについて理解する。 疾患・症状に対する薬品の薬理作用を学び、治療の方向性、対象への影響などについて考える基礎とする。
テキスト 文献	疾病の成り立ちと回復の促進 ［3］ 薬理学　（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	薬理学総論　薬物とはなにか、使用目的、薬の歴史 薬が作用するしくみ、作用機序、投与経路	講義	外部講師 （関谷）
2	薬理学の基礎知識 個人差に影響する因子（小児・妊婦・高齢者） 薬物使用の有益性と危険性、薬と法律	講義	
3	薬理学各論　　抗感染症薬	講義	
4	抗がん薬	講義	
5	免疫治療薬	講義	
6	アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
7	末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
8	中枢神経系に作用する薬物	講義	
9	心臓・血管系に作用する薬物	講義	
10 11	呼吸器・消化器・生殖器・泌尿器系に作用する薬物（3時間）	講義	
12	物質代謝に作用する薬物	講義	
13	皮膚科用薬・眼科用薬	講義	
14	救急の際に使用される薬物	講義	
15	漢方薬　　消毒薬	講義	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	薬剤師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	臨床栄養学	担当教員	外部講師☆ 加藤　登恵子	単位数	1	開講年次	2年次5月
				時間数	15		

授業のねらい	さまざまな疾患と栄養の関係を理解し、それぞれの疾患に対する栄養管理について学ぶ。 食事療法で患者の治療効果をあげることができ、食事療法や栄養について気を配ることで、健康を取り戻したり、生活の質を向上させることができることを学ぶ。
テキスト 文献	疾病の成り立ちと回復の促進④　臨床栄養学　（MCメディカ出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	栄養食事療法とは（NST含む） 栄養食事療法の実際	講義	外部講師 （加藤）
2	肺炎患者の食事療法（嚥下障害を含む）	講義	
3	高血圧症患者の食事療法　　心不全患者の食事療法	講義	
4	胃の摘出手術患者の食事療法 肝硬変患者の食事療法	講義	
5	腎不全患者の食事療法	講義	
6	糖尿病患者の食事療法	講義	
7	褥瘡患者の食事療法 がん患者の栄養食事療法	講義	
8	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	管理栄養士として医療機関で勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	総合医療論	担当教員	外部講師☆ ①安村　幹央 ② 阿部 慎太朗	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	医療や看護の原点である命や健康・病について考え、人々の命や健康を守るために医療人としてどうあるべきか考えるきっかけとする。また、医療の変遷や現代医療の課題について学び、これから看護を学ぶ上で幅広い視野を持ち時代に求められる看護師像について考えることをねらいとする。
テキスト 文献	総合医療論（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	医療と看護の原点ー病と癒しー	講義	外部講師 （安村）
2	医療の変遷	講義	
3	生活と医療①	講義	
4	生活と医療②	講義	
5	現代医療における課題	講義	外部講師 （阿部）
6	保健・医療・福祉を取り巻く社会環境	講義	
7	下呂市の医療の現状と課題	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点(1回～4回：60点、5回～7回：40点）
☆担当教員の 実務経験	①病院管理者として勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②医師として勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	公衆衛生学	担当教員	外部講師☆ ①神谷　民代 ②浜田 淳 ③坂井田　雅士 ④宮ノ腰恵子	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	15		

授業のねらい	疾病を予防し、人々の健康を保持増進させていくために活用される、科学的な手法である公衆衛生学を学ぶ。そして、看護の対象・自分自身の健康づくり、家族・職場の健康づくり、地域での統合的な健康づくりを推進する方法論を学ぶ。
テキスト 文献	わかりやすい公衆衛生学（ヌーベルヒロカワ） 国民衛生の動向

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	公衆衛生の概念 （健康教育のヘルスプロモーション・健康と環境・疫学的方法）	講義	外部講師 （神谷）
2	健康の指標・医療の制度	講義	外部講師 （浜田）
3	食品保健と栄養・生活環境の保全	講義	外部講師 （坂井田）
4	感染症とその予防	講義	外部講師 （宮ノ腰）
5	精神保健福祉・難病	講義	
6	母子保健・学校保健・産業保健	講義	外部講師 （神谷）
7	地域保健活動・生活習慣病	講義	外部講師 （神谷）
8	筆記試験（1時間）		外部講師 （神谷）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（　1・6・7回　40点、2回　15点、3回　15点、4・5回　30点　）
☆担当教員の 実務経験	①保健師として保健センターで勤務している経験を活かした授業展開を行う。 ②厚生労働省にて経済学士としての実務経験を活かした授業展開をする。 ③保健センター長として勤務している経験を活かした授業展開を行う。 ④保健師として保健所で勤務している経験を活かした授業展開を行う。

専門基礎分野

授業科目	社会保障総論	担当教員	外部講師 大藪　元康	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	保健・医療・福祉の連携に向けて、社会保障制度と社会福祉についての基礎知識を学ぶ。現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を理解したうえで、医療保障・介護保険・所得保障・公的扶助について学習する。
テキスト 文献	健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉 （医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	現代社会の変化	講義	外部講師 （大藪）
2	社会保障制度の全体像	講義	
3	社会福祉の法制度	講義	
4	医療保障①	講義	
5	医療保障②	講義	
6	医療保障③	講義	
7	介護保障①	講義	
8	介護保障②	講義	
9	介護保障③	講義	
10	所得保障①	講義	
11	所得保障②	講義	
12	公的扶助①	講義	
13	公的扶助②	講義	
14	社会福祉の歴史	講義	
15	筆記試験・まとめ	講義	

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 新聞やテレビで社会保障に関する情報を得るとわかりやすくなります。
評価方法	筆記試験：100点

専門基礎分野

授業科目	社会保障各論	担当教員	外部講師☆ ①杉山　立士 ②中沢　泰 ③井口　フキ子	単位数	1	開講年次	2年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	社会福祉制度を通して提供されるサービスの実際や課題を知り、どのような施策が展開されているか学ぶ。 各サービス・社会資源・制度を利用し看護者として対象にどんな支援が必要か考える。
テキスト 文献	健康支援と社会保障制度[3]　社会保障・社会福祉（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	医療保障・所得保障・公的扶助・社会福祉実践と医療看護の実際	講義	外部講師 （杉山）
2	介護保障・高齢者福祉の実際	講義	
3	所得保障・公的扶助の実際	講義	
4	児童家庭福祉の実際①	講義	外部講師 （中沢）
5	児童家庭福祉の実際②	講義	
6	障がい者福祉の実際①	講義	外部講師 （井口）
7	障がい者福祉の実際②	講義	
8	筆記試験　（1時間）		外部講師 （杉山）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～3回：40点、4回・5回：30点、　6回・7回：30点）
☆担当教員の 実務経験	①社会福祉士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②介護支援専門員、介護福祉士として障がい者福祉に勤務している経験を活かして授業展開をする。 ③社会福祉士として福祉施設に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	社会福祉援助技術	担当教員	外部講師☆ 千葉　忠道	単位数	1	開講年次	3年次11月
				時間数	15		

授業のねらい	本授業では、以下の3点を目的とする。 1. 相談援助の基盤となる概念、価値、倫理、視点を理解する。 2. 人と環境との交互作用の中で起きる生活問題を理解し、総合的かつ包括的にその解決を図る相談援助の知識、技術、実践方法を学ぶ。 3. 看護専門職として、保健・医療・福祉の多職種連携の実践をコーディネートできる実践力を醸成する。
テキスト 文献	健康支援と社会保障制度〔3〕 社会保障・社会福祉（医学書院） その他、授業中に適宜資料を配布する。

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	①オリエンテーション・授業の進め方 ②自己理解・他者理解、コミュニケーション技法、本人及び家族との援助関係の形成 ③面接技法、受容・共感・傾聴 ④バイステックの7原則	講義・演習	外部講師 （千葉）
2	①相談援助の概念、理念、価値と倫理 ②権利擁護、アドボカシー、エンパワメント、自己選択、自己決定 ③地域自立生活支援、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂） ④パーソン・センタード・アプローチ（PCA）	講義・演習	
3	①ソーシャルワークの歴史 ②相談援助専門職（ソーシャルワーカー）の範囲 ③ソーシャルワーク実践事例（児童、障がい者、高齢者、生活困窮者等の各分野の実践事例からソーシャルワークの基礎的知識・技術を学ぶ）	講義	
4	①ケアマネジメント ②スーパービジョン（管理的機能、教育的機能、支持的機能） ③コンサルテーション ④ネットワーク、ネットワーキング	講義	
5	①集団援助技術（グループワーク）の理論と実践 ②集団援助技術（グループワーク）の展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期） ③セルフヘルプグループ	講義・演習	
6	①コミュニティソーシャルワーク ②マッピング技法（ジェノグラム、エコマップ） ③ソーシャルワーク実践事例検討	講義・演習	
7	①総合的かつ包括的なソーシャルワーク、ジェネラリストソーシャルワークの理解 ②多職種連携（チームアプローチ）の意義と内容を学ぶ。 ③ソーシャルサポートネットワーク構築の必要性 ④地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築 ⑤地域包括ケアの理解	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	『健康支援と社会保障制度〔3〕社会保障・社会福祉』（医学書院）の第8章を事前学習しておくこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	社会福祉士としての実務経験を活かした授業展開をする。

専門基礎分野

授業科目	関係法規	担当教員	外部講師 坂本　一也	単位数	1	開講年次	3年次11月
				時間数	15		

授業のねらい	国民の健康を守る制度が、様々な法律と関係者の連携・協力で成り立っていることを理解する。 看護職として与えられた職務を正しく遂行するために、関連する法規の理解を深める。
テキスト 文献	健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	法の概念	講義	外部講師 （坂本）
2	看護法；保健師助産師看護師法　看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	
3	医事法：医師法　医療法　医療を支える法	講義	
4	保健衛生法：地域保健法　分野別保健法	講義	
5	薬務法：医薬品、医療機器等に関する法	講義	
6	環境法	講義	
7	社会保険関連法 労働法と社会基盤整備	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点

10. 専門分野

基礎看護学

考え方

基礎看護学は基礎分野、専門基礎分野を学んだうえで、専門分野の各領域に発展するための土台として位置づけられ、初めて看護を学ぶ学習者が、看護の対象である人間、健康、環境について学び、看護の役割・機能のあり方、看護とはなにかについて探求し続けるための基本的な考え方を学ぶ。また、看護の対象である人間の尊厳、人格の尊重について学び、高い倫理観とコミュニケーション能力を身につける。基本的な看護技術を学び、科学的根拠に基づいた、対象の健康状態や生活の場に応じた看護実践ができる能力を養う。

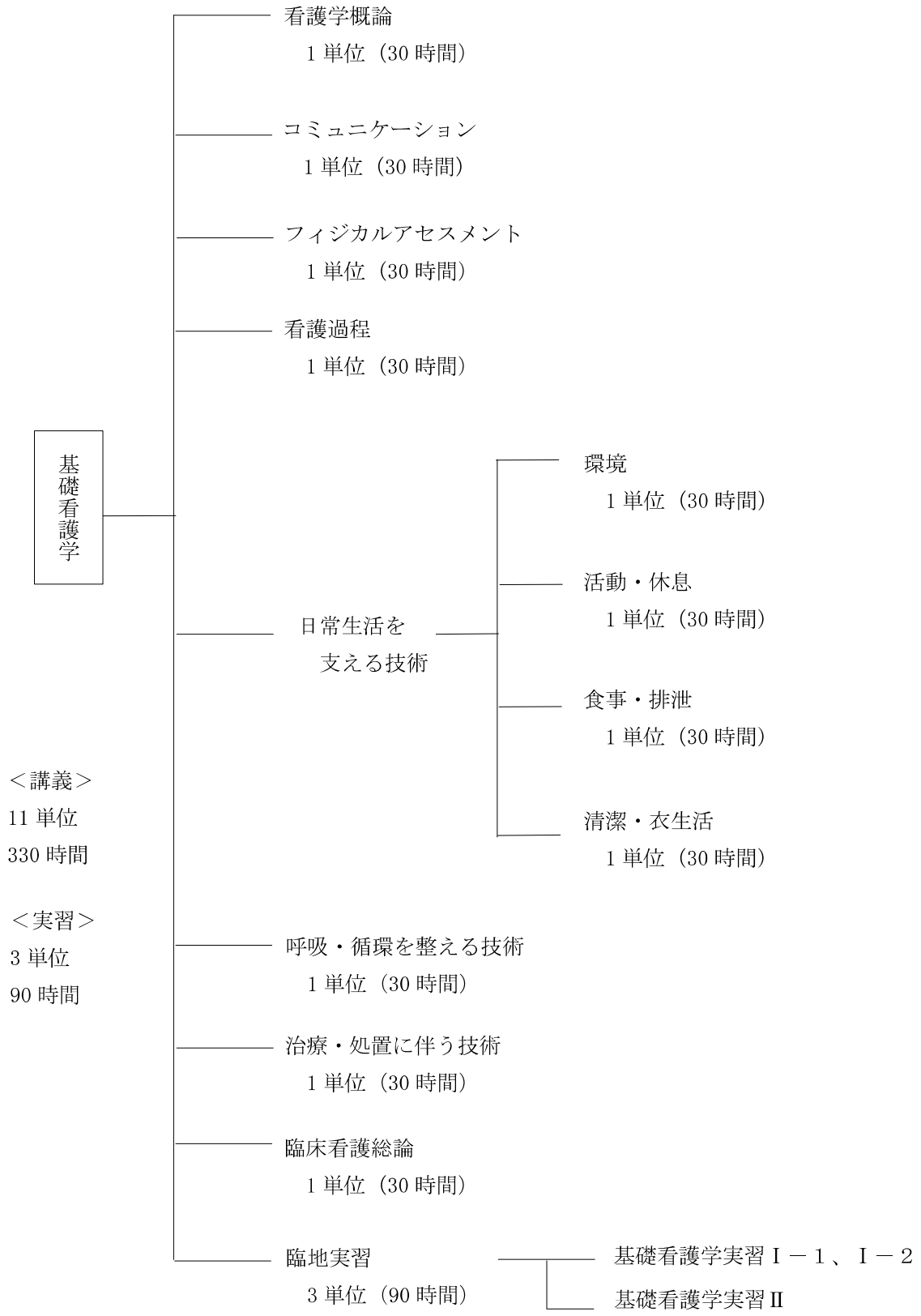
目的

看護の概念を理解し、看護の役割を認識し、看護実践の基礎的能力を修得する。

目標

１．看護の概念を理解する。
２．専門職業人としての態度やコミュニケーション能力を身につけ、倫理に基づいた行動ができる能力を修得する。
３．看護を実践する上での基礎となる知識と安全・安楽な援助技術を修得する。
４．人間の健康上の問題を解決するため、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を修得する。

基礎看護学構成図（全体）


基礎看護学
＜講義＞
11 単位
330 時間
＜実習＞
3 単位
90 時間
看護学概論
1 単位（30 時間）
コミュニケーション
1 単位（30 時間）
フィジカルアセスメント
1 単位（30 時間）
看護過程
1 単位（30 時間）
日常生活を
支える技術
環境
1 単位（30 時間）
活動・休息
1 単位（30 時間）
食事・排泄
1 単位（30 時間）
清潔・衣生活
1 単位（30 時間）
呼吸・循環を整える技術
1 単位（30 時間）
治療・処置に伴う技術
1 単位（30 時間）
臨床看護総論
1 単位（30 時間）
臨地実習
3 単位（90 時間）
基礎看護学実習Ⅰ－１、Ⅰ－２
基礎看護学実習Ⅱ

基礎看護学構成図（１）

基礎看護学

- 看護学概論
  1 単位（30 時間）
  - １，看護を学ぶにあたって　２，看護の変遷、ナイチンゲールの功績、アメリカと日本の看護
  - ３，看護の定義、メタパラダイム　４，５，ナイチンゲール「看護覚え書」の要約と考察
  - ６，ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の要約と考察
  - ７，看護の機能と役割、看護ケアとは、看護実践とその質の保証に必要な要件
  - ８，看護の対象の理解、人間の暮らしの理解　９，健康のとらえ方　１０，国民の健康状態
  - １１，看護における倫理　１２，倫理原則と倫理的ジレンマ
  - １３，看護サービスの提供の場、看護の継続性と連携　１４，１５，医療安全とは、医療事故防止対策
- コミュニケーション
  1 単位（30 時間）
  - １，コミュニケーションとは　２，コミュニケーションの構成要素
  - ３．５，効果的なコミュニケーション　４．コミュニケーション障害への対応
  - ６，７，効果的なコミュニケーションの実際　８・９・１０看護におけるコミュニケーション
  - １１，１２，１３コミュニケーションを振り返る　１４，看護における効果的なカンファレンス
  - １５，看護における意図的なコミュニケーション
- フィジカルアセスメント
  1 単位（30 時間）
  - １，ヘルスアセスメントとは　フィジカルアセスメントとは　２，フィジカルアセスメントの技術
  - ３，４，５，６，バイタルサイン測定の実際　７，身体計測とは
  - ８，９，１０，１１，１２，身体機能別のアセスメント
  - １３，１４，１５，症状・徴候からのアセスメント
- 看護過程
  1 単位（30 時間）
  - １，看護過程の概要　２，看護過程を展開する際に基盤となる考え方
  - ３，４，５，６，７，８，９，１０，看護過程の各段階 アセスメント
  - １１，１２，看護過程の各段階　問題の明確化　１３，看護過程の各段階　看護計画
  - １４，看護過程の各段階　実施・結果　１５，看護過程の各段階　評価・修正
- 日常生活を支える技術
  - 環境
    1 単位（30 時間）
    - １，看護技術を学ぶにあたって　２，感染防止の技術　スタンダードプリコーション
    - ３，感染経路別予防策　４，感染性廃棄物の取り扱い　５，生活環境・病床環境とは
    - ６，病床に必要な条件　７，病床環境のアセスメント　８，９，環境整備の実際
    - １０，１１，１２，１３，１４，ベッドメーキングの実際　１５，臥床患者のシーツ交換
  - 活動・休息
    1 単位（30 時間）
    - １，２，活動・運動の意義、基礎知識　３，活動・運動に関するアセスメントと援助方法
    - ４，５，６，７，８，活動・運動のための援助方法（歩行介助・同一体位の弊害・移乗・体位変換）
    - ９，１０，活動・運動のための援助方法（車椅子・ストレッチャー、スライディングシートの活用）
    - １１，ボディメカニクスを活用した体位変換、移乗　１２，睡眠・休息の意義、基礎知識
    - １３，睡眠・休息に関するアセスメント　１４，１５，睡眠・休息に関する援助方法
  - 食事・排泄
    1 単位（30 時間）
    - １，食事の意義とアセスメント　２，食事・栄養の援助：基礎知識
    - ３，４，食事・栄養の援助の実際（食事介助）　５，食事・栄養の援助：経管栄養法・高カロリー輸液　６，食事・栄養の援助の実際（経管栄養法、高カロリー輸液）　７，排泄の意義とメカニズム　８，排泄の援助：基礎知識・アセスメント　９，排泄の援助の実際：自然排泄を促す援助
    - １０，１１，１２，１３，排泄の援助の実際（尿器・便器、おむつ、摘便、浣腸）
    - １４，１５，排泄の援助の実際（一時的導尿、持続的導尿）
  - 清潔・衣生活
    1 単位（30 時間）
    - １，清潔・衣生活を整える意義　２，整容・顔の清拭　３，口腔ケア
    - ４，５，６，更衣・全身清拭　７，８，手浴・足浴　９，１０，洗髪　１１，陰部洗浄
    - １２，入浴・シャワー　１３，１４，１５，援助の実際

基礎看護学構成図（２）

基礎看護学

- **呼吸・循環を整える技術**
  1 単位（30 時間）
  １，呼吸・循環機能を観察することの重要性　２，３，意識状態の観察 BLS
  ４，急変時における初期対応５，酸素療法６，排痰ケアの基礎知識
  ７，９，１０，排痰ケアの実際　８，吸入　１１，人工呼吸療法　１２，胸腔ドレナージ
  １３，体温管理の技術　　１４，１５，末梢循環促進ケア

- **治療・処置に伴う技術**
  1 単位（30 時間）
  １，２，感染防止の技術　３，感染防止のための技術の実際　４，包帯法・創傷処置
  ５，包帯法・創傷処置の実際　６，薬物と看護　７，薬物適用（注射以外）の種類と基礎知識
  ８，与薬方法・援助方法　９，注射と看護　１０，筋肉注射　１１，皮下・皮内注射
  １２，１３，静脈内注射・採血　１４，１５，輸血と点滴静脈内注射、中心静脈カテーテル

- **臨床看護総論**
  1 単位（30 時間）
  １，２，健康状態（健康レベル）の経過に基づく看護　３，ショック
  ４，認知や知覚に関連する症状　５，活動や休息に関連する症状　６，安楽に関連する症状
  ７，８，治療・処置を受ける対象者への看護　９～１５，事例による看護実践の展開

専門分野

授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	はじめて看護学を学ぶ学生が、看護とはなにかについて探求し続けるための基本的な考え方を学ぶ。また、看護が人間の健康・環境・生活にかかわっていることを理解し、看護者の役割について理解を深める。
テキスト 文献	基礎看護学[1]　看護学概論（医学書院） よくわかる看護職の倫理綱領（照林社） 看護覚え書（現代社）　　看護六法（新日本法規） やさしく学ぶ看護理論（日総研）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護を学ぶにあたって～看護師とは何をする職業なのだろうか～	講義	専任教員 （　　）
2	看護の変遷、ナイチンゲールの功績、アメリカと日本の看護	講義	
3	看護の定義、看護学のメタパラダイム	講義	
4	ナイチンゲール「看護覚え書」の要約と考察1	講義・演習	
5	ナイチンゲール「看護覚え書」の要約と考察2	演習	
6	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の要約と考察	講義・演習	
7	看護の機能と役割、看護ケアとは、看護実践とその質保証に必要な要件	講義	
8	看護の対象の理解、人間の暮らしの理解	講義	
9	健康のとらえ方	講義	
10	国民の健康状態～公的統計結果を用いて～	講義・演習	
11	看護における倫理（職業倫理としての看護倫理、歴史的経緯、倫理綱領）	講義	
12	倫理原則と倫理的ジレンマ　事例をとおして考えよう	講義・演習	
13	看護サービス提供の場、看護の継続性と連携	講義	
14 15	医療安全とは、医療事故防止対策（ヒヤリハット報告書）（3時間）	講義	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	事前に教科書を読み授業に臨むこと 事前課題に確実に取り組み、提出期限を守ること
評価方法	筆記試験90点、レポート10点 　レポート：看護学概論の授業を終えて（第15次後）10点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	コミュニケーション	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	コミュニケーション技術の理論について学び、その実践への活用方法を習得する。.効果的な聴き方や自己表現力を高めていくことで、心の通い合うコミュニケーションスタイルの基礎を身につける。また、自己理解や他者理解を深めることで、自分のコミュニケーションにおける課題を明確にし、良好な対人関係構築のヒントをつかむ。
テキスト 文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	コミュニケーションとは	講義	専任教員 （　）
2	コミュニケーションの構成要素	講義	
3	効果的なコミュニケーションとは	講義	
4	コミュニケーション障害への対応	講義・演習	
5	効果的なコミュニケーションを考える	演習	
6 7	効果的なコミュニケーションの実際 （3時間）	演習	
8	看護におけるコミュニケーション アサーティブネス	講義	
9	看護におけるコミュニケーション 初めて出会う患者とのコミュニケーションを考える	講義・演習	
10	看護におけるコミュニケーション 初めて出会う患者とのコミュニケーションの実際（ロールプレイング）	講義・演習	
11	コミュニケーションを振り返る プロセスレコードとは	講義・演習	
12	コミュニケーションを振り返る プロセスレコード①	講義	
13	コミュニケーションを振り返る プロセスレコード②（基礎Ⅰ－2後）	講義・演習	
14	看護における効果的なカンファレンス（基礎Ⅰ－2後）	演習	
15	看護における意図的なコミュニケーション（基礎Ⅰ－2後）	演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	フィジカルアセスメント	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次7月
				時間数	30		

授業のねらい	フィジカルアセスメントの概念を理解し、フィジカルイグザミネーションを習得する。 身体各部の形態や身体機能を正しく測定し、評価できる。
テキスト 文献	フィジカルアセスメントガイドブック(医学書院) フィジカルアセスメントワークブック(医学書院) 基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント(学研メディカル) 疾患別看護過程の展開(学研メディカル) ビジュアル臨床看護技術ガイド(照林社)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	ヘルスアセスメントとは フィジカルアセスメントとは	講義	専任教員 (　)
2	フィジカルアセスメントの技術(問診・視診・触診・聴診・打診)	講義・演習	
3	バイタルサインの観察とアセスメント バイタルサイン測定の実際　①　意識レベル・呼吸数・脈拍・体温	講義・演習	
4 5	バイタルサインの観察とアセスメント バイタルサイン測定の実際　②　血圧測定　(3時間)	講義・演習	
6	バイタルサイン測定の実際　③　技術チェック	技術チェック	
7	身体計測とは	講義・演習	
8	身体機能別のアセスメント:呼吸器系と循環器系①	講義・演習	
9	身体機能別のアセスメント:呼吸器系と循環器系②	講義・演習	
10	身体機能別のアセスメント:腹部	講義・演習	
11	身体機能別のアセスメント:筋・骨格系、神経系	講義・演習	
12	身体機能別のアセスメント:感覚器、外皮系、高次脳機能	講義・演習	
13	症状・徴候からのアセスメント①	講義・演習	
14	症状・徴候からのアセスメント②	講義・演習	
15	症状・徴候からのアセスメント③	講義・演習	
16	筆記試験(1時間)		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書・サブテキストを読んで講義に臨むこと 準備するもの:血圧計・聴診器(入学後購入予定)、秒針付き腕時計
評価方法	筆記試験:80点　課題:20点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	看護過程	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次7月
				時間数	30		

授業のねらい	看護実践の方法論である看護過程の意義、各段階の構成要素を学ぶ。そして、紙上事例を通し、看護過程の展開方法の実際を学び、対象の看護の問題を解決するための方法論を理解する。
テキスト 文献	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②（医学書院） 看護に役立つ検査辞典（照林社） ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン（照林社） NANDA-I 看護診断 定義と分類 2024-2026 （医学書院） 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント（学研メディカル） 疾患別看護過程の展開（学研メディカル） 看護に役立つ検査辞典（照林社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護過程の概要	講義	専任教員 （　）
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方	講義	
3	看護過程の各段階　アセスメント　情報収集とは　アセスメントの枠組み ゴードンの機能的健康パターンとは	講義	
4 5	看護過程の各段階　アセスメント　情報収集の方法　（3時間）	講義・演習	
6	看護過程の各段階　アセスメント　全体像の把握　一般病態関連図	講義	
7	看護過程の各段階　アセスメント　機能的健康パターン①	講義	
8	看護過程の各段階　アセスメント　機能的健康パターン②③	講義	
9	看護過程の各段階　アセスメント　機能的健康パターン④	講義	
10	看護過程の各段階　アセスメント　機能的健康パターン⑤～⑪	講義	
11	看護過程の各段階　問題の明確化　統合関連図	講義	
12	看護過程の各段階　問題の明確化　NANDA-I看護診断とは	講義	
13	看護過程の各段階　看護計画	講義	
14	看護過程の各段階　実施・結果	講義・演習	
15	看護過程の各段階　評価・修正	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書、サブテキストを読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：70点　課題：30点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	日常生活を支える技術環境	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	・感染成立の条件および院内感染防止の基本を学び、標準予防策、感染性廃棄物の取り扱い方法が習得できる。 ・環境を整える基本の技術を理解し、個別性を考慮した環境調整の技術を習得する。
テキスト 文献	基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ　　基礎看護学[3]基礎看護学Ⅱ（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護技術を学ぶにあたって	講義	専任教員 （　）
2	感染防止の技術　スタンダードプリコーション　感染経路別予防策	講義・演習	
3	感染防止の技術　感染経路別予防策	講義・演習	
4	感染防止の技術　感染性廃棄物取り扱い	講義・演習	
5	生活環境・病床環境とは	講義・演習	
6	病床に必要な条件－屋内環境条件・寝具	講義・演習	
7	病床環境のアセスメント（快適な療養環境の整備）	講義・演習	
8	環境整備の実際ーベッド周囲の清掃・環境調整 1	講義・演習	
9	環境整備の実際ーベッド周囲の清掃・環境調整 2	講義・演習	
10 11	ベッドメーキングの実際－マットレスパット～防水シーツまで （3時間）	講義・演習	
12	ベッドメーキングの実際ー上シーツ～枕まで	講義・演習	
13	ベッドメーキングの実際－臥床患者のシーツ交換　1	講義・演習	
14	ベッドメーキングの実際－臥床患者のシーツ交換　2	講義・演習	
15	臥床患者のシーツ交換（臥床患者のリネン交換）	技術チェック	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～14回）
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関での勤務経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	日常生活を支える技術 活動・休息	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②青木　秀爾	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	・人間にとっての活動・運動の意義、活動・運動への援助方法を理解する。 ・体位変換、体位の保持、移動時に看護師・対象者がともにボディメカニクスの原理を活用することによる効果を理解し、援助の実際を学ぶ。 ・睡眠の意義と睡眠をめぐる問題について理解を深め、睡眠障害の因子について学び、より良い睡眠への援助を理解する。
テキスト 文献	基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ（医学書院）　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）　リハビリテーション看護（医学書院） 看護形態機能学　生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会） フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	活動・運動の意義、基礎知識1　良い姿勢とは　ボディメカニクス	講義	専任教員 （　）
2	活動・運動の意義、基礎知識2　関節可動域（自動運動・他動運動）. MMT	講義・演習	外部講師 （青木）
3	活動・運動に関するアセスメントと援助方法	講義・演習	専任教員 （　）
4	活動・運動のための援助方法　歩行介助　筋力増強訓練	講義・演習	外部講師 （青木）
5	活動・運動のための援助方法－体位と安楽　同一体位の弊害1（褥瘡予防ケア）	講義・演習	専任教員 （　）
6	活動・運動のための援助方法－体位と安楽　同一体位の弊害2	講義・演習	
7	活動・運動のための援助方法－体位変換・移乗1（移乗介助）	講義・演習	
8	活動・運動のための援助方法－体位変換・移乗2（体位変換・保持）	講義・演習	
9	活動・運動のための援助方法 車椅子、ストレッチャー　スライディングシートの活用　1	講義・演習	
10	活動・運動のための援助方法 車椅子、ストレッチャー　スライディングシートの活用　2	講義・演習	
11	ボディメカニクスを活用した体位変換、移乗	技術チェック	
12	睡眠・休息の意義、基礎知識	講義	
13	睡眠・休息に関するアセスメント	講義	
14 15	睡眠・休息に関する援助方法（3時間）	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回、3回、5回～15回）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関での勤務経験を活かした授業展開をする。 ②理学療法士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	日常生活を支える技術 食事・排泄	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	食事・排泄行動の基本的知識を理解し、原理・原則に基づいて安全・安楽に実践できる技術と態度を習得する。 1 食事・排泄の意義について、生理的・心理的・社会的側面から考えることがで きる。 2 食事・排泄に関するメカニズムが理解できる。 3 食事及び栄養・排泄を調整する能力に関するアセスメントの方法がわかる。 4 食事介助の体験から安全で安楽な食事摂取方法がわかる。 5 排泄の援助方法の根拠と留意点がわかり、安全で安楽な援助方法を習得することができる。
テキスト 文献	基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド(照林社)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	食事・栄養の意義とアセスメント	講義	専任教員 (　)
2	食事・栄養の援助　：　基礎知識	講義・演習	
3 4	食事・栄養の援助の実際　：　食事介助(3時間)	演習	
5	食事・栄養の援助　：　経管栄養法・高カロリー輸液	講義	
6	食事・栄養の援助の実際　：　経管栄養法・高カロリー輸液 (経管栄養法による流動食の注入・経鼻胃チューブの挿入)	演習	
7	排泄の意義とメカニズム	講義	
8	排泄の援助　：　基礎知識・アセスメント	講義	
9	排泄の援助の実際　：　自然排泄を促す援助(トイレ・ポータブルトイレ)	講義・演習	
10	排泄の援助の実際　：　尿器・便器	講義・演習	
11	排泄の援助の実際　：　オムツ交換	講義・演習	
12	排泄の援助の実際　：　摘便	講義・演習	
13	排泄の援助の実際　：　浣腸	講義・演習	
14	排泄の援助　：　一時的導尿・持続的導尿	講義・演習	
15	排泄の援助の実際　：　一時的導尿・持続的導尿 (膀胱留置カテーテルの管理・導尿または膀胱留置カテーテルの挿入)	演習	
16	筆記試験　(1時間)		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験:100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	日常生活を支える技術 清潔・衣生活	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②安井　真奈美	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	人間にとって衣服を着ること、清潔を保つことの意義を多方面から理解する。健康障害時において安楽で快適な生活が送れる衣服について理解し,適切な衣類の選択と安全で安楽な着脱の技法を習得する。 身体の清潔の目的と方法が理解でき、身体各部位の清潔への基本的援助方法を習得する。また、既習学習(ﾎﾞﾃﾞｨﾒｶﾆｸｽ・安全安楽)を活用した援助ができ、患者に配慮した思いやりのある行動がとれる。
テキスト 文献	基礎看護学[3]基礎看護学Ⅱ（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	清潔・衣生活を整える意義	講義・演習	専任教員 （　）
2	清潔・衣生活を整える援助技術 （整容・顔の清拭）	講義・演習	
3	清潔・衣生活を整える援助技術 （口腔ケア）	講義・演習	外部講師 （安井）
4	清潔・衣生活を整える援助技術 （更衣・全身清拭1）	講義・演習	専任教員 （　）
5	清潔・衣生活を整える援助技術 （更衣・全身清拭2）	講義・演習	
6	清潔・衣生活を整える援助技術 （更衣・全身清拭3）	講義・演習	
7	清潔・衣生活を整える援助技術 （手浴・足浴1）	講義・演習	
8	清潔・衣生活を整える援助技術 （手浴・足浴2）	講義・演習	
9	清潔・衣生活を整える援助技術 （洗髪1）	講義・演習	
10	清潔・衣生活を整える援助技術 （洗髪2）	講義・演習	
11	清潔・衣生活を整える援助技術 （陰部洗浄）	講義・演習	
12	清潔・衣生活を整える援助技術 （入浴・シャワー浴）	講義・演習	
13	清潔・衣生活を整える援助の実際1	講義・演習	
14 15	清潔・衣生活を整える援助の実際2（3時間）	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読み、動画を視聴し講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②歯科衛生士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	呼吸・循環を整える技術	担当教員	専任教員☆ ①纐纈しほり 外部講師☆ ②今井隆紀	単位数	1	開講年次	1年次11月
				時間数	30		

授業のねらい	呼吸・循環機能を整えることの重要性を理解し、安全・安楽な呼吸・循環障害に対する援助ができる基礎的能力を養う
テキスト 文献	基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ（医学書院）　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社） 看護過程に沿った対症看護（学研メディカル）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	呼吸・循環機能を観察することの重要性	講義	専任教員 （纐纈）
2	意識状態の観察①　BLS1(緊急時の応援要請・一時救命処置)	校外研修	
3	意識状態の観察②　BLS2	校外研修	
4	急変時における初期対応（止血法含む）	講義	
5	安楽な呼吸を助ける技術①　酸素療法（酸素吸入療法の実施）	講義・演習	
6	安楽な呼吸を助ける技術②　排痰ケアの基礎知識	講義・演習	
7	安楽な呼吸を助ける技術③　排痰ケアの実際1（体位ドレナージ）	講義・演習	
8	安楽な呼吸を助ける技術④　吸入（ネブライザーを用いた気道内加湿）	講義・演習	
9 10	安楽な呼吸を助ける技術⑤　排痰ケアの実際2 （口腔内・鼻腔内吸引・気道内吸引・吸入）（3時間）	講義・演習	
11	安楽な呼吸を助ける技術⑥　人工呼吸療法・胸腔ドレナージの実際	講義・演習	外部講師 （今井）
12	安楽な呼吸を助ける技術⑦　人工呼吸療法・胸腔ドレナージを受ける患者の看護	講義・演習	専任教員 （纐纈）
13	安楽な循環を助ける技術①　体温管理の技術(体温調節の援助)	講義・演習	
14	安楽な循環を助ける技術②　末梢循環促進ケア1	講義・演習	
15	安楽な循環を助ける技術③　末梢循環促進ケア2	講義・演習	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書・サブテキストを読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②臨床工学士として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	治療・処置に伴う技術	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	・感染予防の意義・原則および清潔・不潔の概念を理解し、標準予防策に沿った行動、無菌操作が理解できる。 ・与薬技術の生体への影響と、援助方法を習得できる。 ・薬物療法における看護師の役割が理解できる。 ・各与薬法を選択する目的が理解できる。 ・薬物の効果が安全に生体に作用するための与薬に関する基礎的知識が習得できる。
テキスト 文献	基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 完全版 ビジュアル臨床看護技術ガイド（照林社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	感染防止の技術ー感染防止の基礎知識	講義	専任教員 （　）
2 3	感染防止の技術ー無菌操作/洗浄・消毒・滅菌(3時間) 感染防止のための技術の実際（ガウンテクニック、無菌操作など）	講義・演習	
4	包帯法・創傷処置	講義	
5	包帯法・創傷処置(創洗浄・創保護）の実際	演習	
6	薬物と看護 薬物療法実施の過程と看護師の役割と管理（点滴静脈内注射の概要含む）	講義・演習	
7	薬物適用（注射以外）の種類と基礎知識 与薬方法・援助方法(経口・点眼・点鼻・経皮・外用薬・直腸内与薬）①	講義・演習	
8	与薬方法・援助方法(経口・経皮・外用薬・直腸内与薬）②	講義・演習	
9	注射と看護 注射実施の過程と注射実施時の基礎知識と事故防止 （患者の誤認防止・針刺し事故防止）	講義・演習	
10	筋肉注射実施時の援助方法と観察点 手順と根拠・薬液の準備・筋肉注射の技術	講義・演習	
11	皮下、皮内注射実施時の援助方法と観察点 手順と根拠・薬液の準備・皮下、皮内注射の技術	講義・演習	
12	静脈内注射・採血実施時の援助方法と観察点 ① 手順と根拠・薬液の準備、静脈内注射の技術・採血の技術	講義・演習	
13	静脈内注射・採血実施時の援助方法と観察点 ② 手順と根拠・薬液の準備、静脈内注射の技術・採血の技術	講義・演習	
14	輸血の管理方法と観察点・点滴静脈内注射の管理方法と観察点① 静脈内留置針・中心静脈カテーテル留置の管理方法と観察点（留置の介助を含む）	講義・演習	
15	輸血の管理方法と観察点・点滴静脈内注射の管理方法と観察点② 静脈内留置針・中心静脈カテーテル留置の管理方法と観察点（留置の介助を含む）	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする

専門分野

授業科目	臨床看護総論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	看護の対象となる人々に看護援助を行ううえで、既習科目の基礎的な知識や技術をどのように統合しながら自分の看護実践として具現化していくのか、その際の学習の手がかりとする。
テキスト 文献	基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ(医学書院)　基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 臨床看護総論(医学書院) 治療薬マニュアル(医学書院) ビジュアル臨床看護技術ガイド(照林社) 看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント(学研メディカル) 疾患別看護過程の展開(学研メディカル)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	健康状態(健康レベル)の経過に基づく看護① 急性期、回復期(リハビリテーション期)	講義	専任教員 (　)
2	健康状態(健康レベル)の経過に基づく看護② 慢性期、終末期	講義	
3	主要な症状を示す対象者への看護①　ショック	講義	
4	主要な症状を示す対象者への看護②　認知や知覚に関連する症状	講義	
5	主要な症状を示す対象者への看護③　活動や休息に関連する症状	講義	
6	主要な症状を示す対象者への看護④　安楽に関連する症状	講義	
7	治療・処置を受ける対象者への看護①(放射線の被ばく防止策の実施)	講義・演習	
8	治療・処置を受ける対象者への看護②　(人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施)	講義・演習	
9	事例による看護実践の展開①	講義	
10	事例による看護実践の展開②	講義	
11	事例による看護実践の展開③	講義	
12	事例による看護実践の展開④(点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換)	講義・演習	
13	事例による看護実践の展開⑤	講義・演習	
14 15	事例による看護実践の展開⑥　(3時間)	講義・演習	
16	筆記試験(1時間)		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書・サブテキストを読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験:100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

地域・在宅看護論

考え方

おもに医療機関で行われていた看護が療養者の自宅で行われ、在宅看護が必要とされる時代となり、平成９年度より「在宅看護論」が看護基礎教育のカリキュラムに加えられた。更に令和４年度より「地域・在宅看護論」と科目変更となった。少子・超高齢社会の伸展、人口減少、なかでも生産 年齢人口の減少が大きな課題になっている現在、人口および疾病構造の変化に応じた医療提供体制の整備、地域包括ケアシステム・共生社会等の推進がすすめられている。看護師には、地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、社会の変化、地域のニーズ、あらゆる療養の場、生活の場で必要とされる看護を理解し、地域包括ケアシステム等のなかで、その役割を遂行することが求められるようになった。また、人々との関係も医療従事者主導ではなく、地域に暮らす人々が主体となり、「ともに暮らす」「ともに支える」「ともに成長する」といった、人々と保健医療従事者との「パートナーシップ」に基づく支援が求められている。病院中心の学習から、地域のなかで「ともに在る」ことを学び、地域包括ケアシステム等のなかで、その役割を遂行することが求められている。そのためにも地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、支える能力を強化することが必要である。

地域で療養する人々に対して、対象者が望む生活の質（ＱＯＬ）を維持・向上するためには、多職種・多機関と連携が重要であり、連携のあり方及び看護職の役割について理解する必要がある。また、専門科目と並行して、多職種連携に必要な基礎的能力を養う。

「地域・在宅看護論」は、基礎看護学の次に位置づけられる。地域に暮らす人々の看護は、看護の土台とも言えるものである。これまでの病院における看護を学習した後、その応用として在宅における看護を学習するのではなく、1 年生の早い時期から基礎看護学と並行して学習していく。基礎看護学で看護とは何かを学習し、看護に必要な技術を習得するのと並行して、地域・在宅看護論の学習を開始し、基礎看護学の近くにあって、地域での健康と暮らしを支える看護を学習内容とし、各年次で学びを積み上げていく。在宅療養者及び家族の看護の学習は、各領域の看護学が進んだ時期に学習する。

目的

地域で生活する人々および療養支援を要する人々と家族に対し、地域での生活を理解し、セルフケア能力を高め、生活の質（ＱＯＬ）を維持・向上させるための援助方法を学ぶ。

目標

１．地域・在宅看護の対象者の生活を理解する。
２．地域・在宅看護の歴史と現状をふまえ、地域・在宅看護の概念を理解する。
３．地域包括ケアシステム・共生社会および地域・在宅ケアを支える制度・社会資源を理解する。
４．あらゆる療養の場、生活の場で必要とされる看護を理解し、地域・在宅における生活支援の援助技術を学び、対象者の状態に応じた看護を理解する。
５．地域包括ケアシステム・共生社会のなかで、多職種・多機関、地域の人々と連携し、看護職の役割を遂行できる基礎的能力を養う。

地域・在宅看護論構成図

地域・在宅看護論

〈講義〉
5 単位
120 時間

〈実習〉
4 単位
120 時間

- 生活者を知る（1 単位（15 時間））
  - 生活・地域のとらえ方
  - 地域を知るためには
  - フィールドワーク
  - どのようなことを大切にして生活しているか
  - 地域・生活と健康の関係性
- 生活を支える看護Ⅰ（1 単位（30 時間））
  - 地域のアセスメント
  - 地域包括ケアシステム・共生社会
  - 地域包括支援センターの役割と機能
  - 地域包括ケアシステム・共生社会を支える職種・機関
  - 地域福祉について
  - 地域・在宅看護とは地域・在宅看護の基盤 役割・機能
  - 地域・在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件
  - 地域・在宅療養者と家族への支援
  - 地域における医療保健福祉の実際（共生型福祉施設）
  - 重度心身障がい者(児)の看護
  - 入所施設・通所施設における看護
- 生活を支える看護Ⅱ（1 単位（15 時間））
  - 地域・在宅療養を支える制度と社会資源（医療保険、介護保険、障がい者、難病、訪問看護制度）
  - 地域包括ケアシステム・共生社会を支える多職種・多機関連携
  - 退院調整の実際
  - 地域・在宅療養を支える制度と社会資源活用の実際
- 地域療養を支える技術（1 単位（30 時間））
  - 在宅での生活支援・医療処置に伴う援助技術の考え方・アセスメント
  - 在宅における日常生活援助技術の特徴
  - 在宅における日常生活援助技術（食事・排泄、清潔、住まい、生活環境、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、ﾌｯﾄｹｱ）
  - 在宅における医療処置（呼吸ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、呼吸管理（人工呼吸器）、食事・栄養管理、在宅薬剤管理、褥瘡管理、ｽﾄｰﾏ管理）
  - 在宅呼吸管理（在宅酸素療法）
- 地域療養を支える看護実践プロセス（1 単位（30 時間））
  - 地域・在宅看護と看護過程の特徴
  - 事例による看護過程の理解
  - 訪問事例を想定した訪問看護の理解
  - 状況別看護：災害時の看護
- 臨地実習（4 単位（120 時間））
  - 地域・在宅看護論実習Ⅰ
  - 地域・在宅看護論実習Ⅱ
  - 地域・在宅看護論実習Ⅲ

専門分野

授業科目	生活者を知る	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	看護の対象は、療養や介護の支援を要する人々のみでなく、地域で生活する人々全てが対象である。地域の生活の様子、また、生活の中でどのようなことを大切にしているのか理解する。また、それらを通して地域生活と健康との関係性についても考え、今後の看護の学習につなげる。
テキスト 文献	講師が配布する資料

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	生活・地域のとらえ方	講義・演習	専任教員 （　　）
2	地域を知るためには	講義・演習	
3	フィールドワーク	演習	
4	フィールドワーク（グループワーク）	演習	
5 6	フィールドワークの学び　発表・まとめ(3時間)	演習	
7	どのようなことを大切にして生活しているか	演習	
8	地域・生活と健康の関係性	講義・演習	

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	提出物等の取り組み状況：20点　　最終提出レポート：80点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	生活を支える看護Ⅰ	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②西村　和美	単位数	1	開講年次	2年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	地域でともに在ることを学び、地域包括ケアシステムの中で、その役割りを遂行するために、必要な基礎知識を学ぶ。 地域・在宅看護の変遷、機能と役割、地域・在宅看護の対象を支援する専門職種・機関について学ぶ。
テキスト 文献	地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア　（MCﾒﾃﾞｨｶ出版） よくわかる在宅看護（学研メディカル） 国民衛生の動向　（厚生労働統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1 2	地域のアセスメント(3時間)	講義・演習	専任教員 （　　）
3	地域包括ケアシステム・共生社会	講義	
4	地域包括支援センターの役割と機能	講義	
5	地域包括ケアシステム・共生社会を支える職種・機関	講義	
6	地域福祉について	講義	
7	地域・在宅看護とは 地域・在宅看護の基盤、役割・機能	講義	
8	地域・在宅看護の対象者	講義	
9	地域・在宅看護の対象者とサービス提供者側の条件	講義	
10	地域・在宅療養者と家族への支援	講義	
11	地域における医療・保健・福祉の実際　1 共生型福祉施設（高齢者・障がい者・子ども）	講義	外部講師 （西村）
12	地域における医療・保健・福祉の実際　2 共生型福祉施設（高齢者・障がい者・子ども）	講義	
13	重度心身障がい者（児）の看護　1	校外学習	専任教員 （　　）
14	重度心身障がい者（児）の看護　2	校外学習	
15	入所施設・通所施設における看護	講義	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～10回、13回～15回）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として共生型福祉施設での活動を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	生活を支える看護Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①高﨑　美保 ②細江　純子	単位数	1	開講年次	2年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	在宅療養者・家族の在宅での生活を支援するためには人的・物的・制度的社会資源の活用が必要である。看護師として訪問看護、介護保険制度、各種サービスについて理解する。 地域包括ケアシステム・共生社会を支える多職種・多機関連携と社会資源活用、それらにおける看護職の役割を理解する。
テキスト 文献	地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア （MCﾒﾃﾞｨｶ出版） よくわかる在宅看護 （学研メディカル） 国民衛生の動向 （厚生労働統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	地域・在宅療養を支える制度と社会資源(医療保険・介護保険)	講義	外部講師 （高﨑）
2	地域・在宅療養を支える制度と社会資源(障がい者・難病)	講義	
3	地域・在宅療養を支える制度と社会資源（訪問看護制度）	講義	
4	地域包括ケアシステム・共生社会を支える多職種・多機関連携	講義	
5	退院調整の実際	講義	外部講師 （細江）
6	地域・在宅療養を支える制度と社会資源活用の実際　1	講義	
7	地域・在宅療養を支える制度と社会資源活用の実際　2	講義・演習	
8	筆記試験（1時間）		外部講師 （高﨑）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～4回：60点、5回～7回：40点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	地域療養を支える技術	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②山之腰　由香　③嶋田　晃斗 ④田口　朱美　⑤坂﨑　康子	単位数	1	開講年次	2年次10月
				時間数	30		

授業のねらい	看護者は療養者・家族の価値観・生活習慣を尊重し、QOLを考え、その人・家庭にあった生活援助をしなければならない。また、在宅における医療処置の手続き、手順、注意事項、看護について理解し、在宅療養者・家族に教育・指導的に関わる役割がある。在宅における日常生活援助、医療処置など、療養者・家族が安心して在宅生活が送れるための具体的援助方法について学ぶ。
テキスト 文献	地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（MCメディカ出版） 在宅看護技術（メヂカルフレンド社） よくわかる在宅看護　（学研メディカル）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	在宅での生活支援・医療処置に伴う援助技術の考え方・アセスメント	講義	専任教員 （　　）
2	在宅における日常生活援助技術の特徴	講義・演習	
3	在宅における日常生活援助技術（食事・排泄） (床上・ポータブルトイレ・おむつ等)	講義・演習	
4	在宅における日常生活援助技術　（清潔）	講義・演習	
5	在宅における日常生活援助技術　（住まい・生活環境） 在宅ケアと福祉用具	講義・演習	
6	在宅における日常生活援助技術　（リハビリテーション）	講義・演習	
7	在宅における医療処置 呼吸管理（呼吸リハビリテーション）	講義・演習	外部講師 （嶋田）
8	在宅における医療処置 呼吸管理（人工呼吸器療法）	講義	外部講師 （山之腰）
9	在宅における医療処置　　食事・栄養管理（胃瘻・膀胱留置カテーテル）	講義	
10	在宅における医療処置　　在宅薬剤管理（麻薬・輸液）	講義・演習	
11	在宅における日常生活援助技術　フットケア	講義・演習	
12 13	在宅における医療処置 褥瘡のある療養者と家族の看護・ストーマのある療養者と家族の看護（3時間）	講義・演習	外部講師 （ 田口）
14	在宅における医療処置 ストーマのある療養者と家族の看護（ストーマ管理の実際）	講義・演習	
15	在宅呼吸管理　（在宅酸素療法）	講義・演習	外部講師 （坂﨑）
16	筆記試験（1時間）		専任教員 （　　）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：80点（1回～6回：40点、8回～11回：40点）　課題：20点（2回～6回）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として訪問看護ステーションに勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③理学療法士として訪問看護ステーションに勤務している経験を活かした授業展開をする。 ④皮膚・排泄ケア認定看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ⑤看護師・呼吸療法認定士としての経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	地域療養を支える 看護実践プロセス	担当教員	専任教員☆ ①	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	事例学習をとおし、地域で療養を必要とする対象の看護過程を学ぶ。 訪問看護の実際、在宅におけるコミュニケーション技法、マナー・心構えなどを演習によりイメージ化させ、実習の導入とする。
テキスト 文献	地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（MCメディカ出版） 在宅看護技術（メヂカルフレンド社） よくわかる在宅看護 （学研メディカル）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	地域・在宅看護と看護過程の特徴	講義	専任教員 （　　）
2	事例による看護過程の理解（事例紹介・情報の整理）	講義・演習	
3	事例による看護過程の理解①	講義・演習	
4	事例による看護過程の理解②	講義・演習	
5	事例による看護過程の理解③	講義・演習	
6	事例による看護過程の理解④	講義・演習	
7	事例による看護過程の理解（問題の明確化）	講義・演習	
8	事例による看護過程の理解（優先順位の決定・目標設定）	講義・演習	
9	事例による看護過程の理解（看護計画立案）	講義・演習	
10 11	事例による看護過程の理解（実施・評価）（3時間）	講義・演習	
12	訪問事例を想定した訪問看護の理解①	講義・演習	
13	訪問事例を想定した訪問看護の理解②	講義・演習	
14	訪問事例を想定した訪問看護の理解③	講義・演習	
15	状況別看護：災害時の看護	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：60点（1回～15回）　　課題：40点（1回～11回）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。

健康状態別看護

考え方

複数の教育内容を併せて、領域横断的な教育内容を教授するため、地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学の領域を横断し、健康状態に応じ、多角的に看護を実践できるように科目を設定した。

目的

対象の発達段階及び健康状態に応じた看護実践をするための知識・技術を身に付け、段階的に臨床判断を伴った看護実践能力を養う。

目標

１．ライフサイクル各期において、看護の対象となる人々の誕生から死までを連続してとらえ、その特徴を理解する。
２．健康生活におけるヘルスプロモーションや健康問題について理解し、個人の健康レベルの維持・増進のための看護の役割について理解する。
３．人々の健康と生活との関連性を理解し、健康回復と生活の再構築に向けた看護について理解する。
４．発達段階に応じた薬物療法の生体への影響と援助方法について理解する。
５．周手術期における対象の特徴を踏まえた回復促進のための援助方法について理解する。
６．ライフサイクル各期における終末期にある対象の QOL の維持・向上のための看護について理解する。
７．気づきを大切にし、場面に応じた臨床判断能力を身に付けることができる。

健康状態別看護の考えに基づく科目と専門領域別単位数

科目名／専門領域	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	単位数
ライフサイクルと健康 ＊演習含む	0.1	0.8	0.3	0.3	0.5	0	2
保健指導論	0.1	0.3	0	0.2	0.2	0.2	1
健康回復支援論	0.1	0.4	0.1	0.2	0	0.2	1
薬物療法と看護	0.1	0.3	0.1	0.1	0.1	0.3	1
周手術期と看護	0	0.6	0.2	0.1	0.1	0	1
終末期と看護	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	1
臨床判断能力	0.3	0.4	0.1	0	0	0.2	1
単位数	1	3	1	1	1	1	8

健康状態別看護構成図

- 健康状態別看護
  - ＜講義＞ 8単位 (225時間)
  - ライフサイクルと健康　2単位 (45時間)
    - ライフサイクルとは セルフケアモデル
    - 胎児期・新生児期の特徴
    - 乳児期・幼児期・学童期の特徴
    - 成人期の特徴
    - 女性の性周期や成熟期の身体的特徴(母性領域分)
    - 成人を取り巻く社会環境と生活
    - 老年期の特徴
    - ライフサイクルの理解（ライフストーリー）
  - 保健指導論　1単位 (30時間)
    - ヘルスプロモーションの考え方
    - ヘルスプロモーションの理論とその活用
    - 健康教育に必要な考え方
    - リプロダクティブヘルス／ライツ
    - リプロダクティブヘルスケア
    - 小児の健康、健康生活におけるヘルスプロモーション
    - 小児の保健指導
    - 精神の健康　現代社会の特徴
    - 心の健康課題とヘルスプロモーション
    - 地域のヘルスプロモーション　地域の力と健康
  - 健康回復支援論　1単位 (30時間)
    - 回復期にある対象とその家族の特徴の理解
    - 健康逸脱から回復を促す看護
    - 生活適応を支援する看護活動
    - 健康と心の変化
    - 健康と心の回復に向けた支援
    - 心身症と看護
    - 地域での治療と暮らしを支える外来看護の役割
    - 脳・神経機能障害を持ちながら生活する患者の看護
    - 回復過程にある子どもと家族の看護
    - アレルギー疾患にり患した子どもと家族の看護
  - 薬物療法と看護　1単位 (30時間)
    - 薬物療法の基礎知識
    - 成人期の特徴をふまえた薬物療法と看護
    - 老年期の特徴をふまえた薬物療法と看護
    - 化学療法と看護
    - がん性疼痛コントロールの実際
    - 小児期の特徴をふまえた薬物療法と看護
    - 周産期における薬物療法と看護
    - 抗精神薬の有害反応と薬剤管理に関する看護
    - 抗うつ薬・気分安定薬の有害反応と薬剤管理に関する看護
    - 睡眠薬・抗不安薬の有害反応と薬剤管理に関する看護
    - 抗てんかん薬の有害反応と薬剤管理に関する看護
    - 在宅における薬物療法と看護
  - 周手術期と看護　1単位 (30時間)
    - 周手術期の看護の概要と看護師の役割
    - 麻酔とは
    - 全身麻酔と局所麻酔の合併症
    - 術前の患者の看護
    - 術中の患者の看護
    - 手術侵襲と生体反応、術後合併症の理解
    - 術後の患者の看護
    - 手術を受ける高齢者とその家族への看護
    - 手術を受ける子どもとその家族への看護
    - 手術によりセクシュアリティの変調をきたす患者への看護
  - 終末期と看護　1単位 (30時間)
    - 終末期医療と看護
    - 倫理的課題、意思決定支援
    - エンドオブライフケア
    - 全人的（包括的）苦痛の緩和、心理過程
    - 緩和ケアとは
    - 地域での終末期
    - 各期のライフステージにおける終末期看護
    - 精神疾患と身体疾患を併せ持つ人の終末期
  - 臨床判断能力　Ⅰ単位 (30時間)
    - 臨床判断・推論とは、クリティカルシンキング
    - 呼吸困難のある患者の看護
    - 臨床判断モデル（事例検討）

健康状態別看護　　テキスト・文献一覧
領域を横断する科目のため以下の教科書を使用します。ただし、持参していただく教科書に関しては、授業の展開に応じて事前に指示します。

ライフサイクルと健康	ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・セクシュアルリプロダクティブヘルスと看護（MC メディカ出版） 小児看護学[1]　小児看護学概論/小児臨床看護学総論　（医学書院） 成人看護学[1]　成人看護学総論　（医学書院） 老年看護学　（医学書院） 看護のための人間発達学　（医学書院）
保健指導論	ヘルスプロモーション　メヂカルフレンド社 成人看護学[1]　成人看護学総論　（医学書院） 小児看護学[1]　小児看護学概論/小児臨床看護学総論　（医学書院） ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・セクシュアルリプロダクティブヘルスと看護（MC メディカ出版） 精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院）
健康回復支援論	成人看護学[1]　成人看護学総論　（医学書院） 成人看護学[7]　脳・神経　（医学書院） 老年看護学　（医学書院）　リハビリテーション看護（医学書院） 小児看護学[1]　小児看護学概論/小児臨床看護学総論　（医学書院） 精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院） 地域在宅看護論①　地域療養を支えるケア　（MCメディカ出版）
薬物療法と看護	成人看護学[1]　成人看護学総論　（医学書院） がん看護　様々な発達段階治療過程にあるがん患者を支える（南江堂） 老年看護学　（医学書院） 老年看護学　病態・疾病　（医学書院） 小児看護学[1]　小児看護学概論/小児臨床看護学総論　（医学書院） 小児看護学②　小児看護技術　（MCメディカ出版） 精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院） 在宅看護技術（メヂカルフレンド社） よくわかる在宅看護（学研メディカル）
周手術期と看護	人体の構造と機能[1]　解剖生理学　（医学書院） 成人看護学[1]　成人看護学総論（医学書院）　[5]消化器　（医学書院） 臨床外科看護総論　（医学書院）　臨床外科看護各論　（医学書院） 老年看護学（医学書院） 小児看護学[1]小児看護学概論/小児臨床看護学総論　（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド　（照林社） 看護過程に沿った対症看護　（学研メディカル）
終末期と看護	成人看護学④終末期看護エンドオブライフケア　（メヂカルフレンド社）
臨床判断能力	成人看護学[1]　成人看護学総論　（医学書院）[2]　呼吸器　（医学書院） 老年看護学　（医学書院）老年看護学　病態・疾病　（医学書院） 精神看護学[1]　精神看護の基礎　（医学書院） 精神看護学[2]　精神看護の展開　（医学書院） 臨床看護総論（医学書院） 看護過程に沿った対症看護　（学研メディカル） 地域在宅看護論①　地域療養を支えるケア　（MCメディカ出版）

専門分野

授業科目	ライフサイクルと健康	担当教員	専任教員☆	単位数	2	開講年次	1年次4月
				時間数	45		

授業のねらい	ライフサイクル各期において人間の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、看護の対象となる人々を理解するための基礎的能力を養う。また、人の一生を人の誕生から死までを連続して捉え、成長発達・健康・生活・環境の視点から理解することをねらいとする。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	ライフサイクルとは	講義	専任教員 （　）
2	胎児期・新生児期の特徴	演習	
3	新生児期の特徴	演習	
4	乳児期の特徴	講義	
5	幼児期の特徴（前期）	演習	
6	幼児期の特徴（後期）	演習	
7	学童期の特徴	講義	
8	成人期の特徴1　＊思春期含む	演習	
9	成人期の特徴2	演習	
10	成人期の特徴3	演習	
11	成人期の特徴4	講義	
12	女性の性周期や成熟期の身体的特徴（母性領域分）	講義	
13	成人を取り巻く社会環境と生活	講義	
14	老年期の特徴	演習	
15	老年期の特徴－高齢者疑似体験－	講義・演習	
16	老年期の特徴	講義	
17	ライフサイクルの理解（ライフストーリー）	演習	
18	ライフサイクルの理解（ライフストーリー）	演習	
19	ライフサイクルの理解（ライフストーリー）	演習	
20	ライフサイクルの理解（ライフストーリー）	演習	
21	プレゼンテーション	演習	
22	プレゼンテーション	演習	
23	まとめ（45分）	講義	

事前準備や 受講要件等	提示された課題に取り組みながら講義に参加すること
評価方法	小テスト：25点、成果物：45点　プレゼンテーションの総合評価：30点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	保健指導論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	2年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	・個人の健康レベルの維持・増進から、環境要因や、家庭・コミュニティ・地域、社会施策など幅広い視野で健康問題をとらえ、ヘルスプロモーションの考え方と看護について理解できる。 ・小児・成人のライフステージ、女性・精神・地域看護の各領域別に健康生活におけるヘルスプロモーション、健康問題と看護の役割について理解できる。 ・健康行動理論や危機理論活用方法を理解できる。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	ヘルスプロモーションの考え方 心と体の健康とは	講義	専任教員 (　　)
2	ヘルスプロモーションの理論とその活用 健康信念モデル	講義	
3	ヘルスプロモーションの理論とその活用 危機理論	講義	
4	ヘルスプロモーションの理論とその活用 レジリエンス、自己効力感、エンパワーメント	講義	
5	健康教育に必要な考え方（アンドラゴジー成人教育理論）	講義	
6	リプロダクティブヘルス／ライツ リプロダクティブヘルスケア　家族計画・人工妊娠中絶と看護	講義	
7	リプロダクティブヘルスケア　性感染症とその予防・喫煙女性の健康と看護	講義	
8	小児の健康、健康生活におけるヘルスプロモーション（乳幼児健診、予防接種）	講義	
9	小児の健康生活におけるヘルスプロモーション 学校保健、肥満、アレルギー、食育	講義	
10	小児の保健指導	演習	
11	地域のヘルスプロモーション　地域の力と健康	講義・演習	
12	精神の健康と現代社会の特徴	講義	
13	心の健康課題とヘルスプロモーション	講義	
14	地域ヘルスプロモーションの実際	演習	
15	地域ヘルスプロモーションの振返り・まとめ（1時間）	演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：80点　グループ学習への取り組み状況：20点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	健康回復支援論	担当教員	専任教員☆① 外部講師☆②樋口　貴則	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	人々の健康と生活との関連性を理解し、生じやすい健康上の課題を学ぶ。また、回復過程にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康回復に向けた治療と、生活を再構築するための支援について学習する。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	回復過程にある対象とその家族の特徴の理解	講義	専任教員 （　）
2	健康逸脱から回復を促す看護	講義	
3	生活適応を支援する看護活動	講義	
4	健康と心の変化	講義	
5	健康と心の回復に向けた支援	講義	
6	心身症と看護	講義	
7	地域での治療とくらしを支える外来看護の役割	講義	
8	脳・神経機能障害をもちながら生活する患者の看護 脳梗塞患者の看護1	講義	
9	脳梗塞患者の看護2	講義	
10	脳梗塞患者の看護3	講義・演習	
11	脳梗塞患者の看護4	講義・演習	外部講師 （樋口）
12	脳梗塞患者の看護5	演習	
13	回復過程にある子どもと家族の看護	講義	専任教員 （　）
14 15	アレルギー疾患に罹患した子どもと家族の看護　（3時間）	講義・演習	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	事前課題がある場合は取り組んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験 ： 90点（1回～10回、13回～15回）、課題 ：10点（11回・12回）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医療機関の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	薬物療法と看護	担当教員	外部講師☆ ①水谷　遥 専任教員☆ ②	単位数	1	開講年次	2年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	薬物の効果が安全に生体に作用するための与薬に関する基礎知識が習得でき、ライフステージに応じた薬物療法の目的と生体への影響と援助方法が理解できる。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	薬物療法の基礎知識 成人期の特徴をふまえた薬物療法と看護(薬剤等の管理)	講義・演習	専任教員 （　）
2	老年期の特徴をふまえた薬物療法と看護①	講義	
3	老年期の特徴をふまえた薬物療法と看護②	講義	
4	化学療法と看護（症状・副作用に対する看護）	講義	外部講師 （水谷）
5	化学療法と看護（外来における化学療法）	講義	
6	がん性疼痛コントロールの実際	講義	専任教員 （　）
7	小児期の特徴をふまえた薬物療法と看護①	講義	
8	小児期の特徴をふまえた薬物療法と看護②	講義・演習	
9	周産期における薬物療法と看護	講義	
10	抗精神薬の有害反応と薬剤管理に関する看護	講義	
11	抗うつ薬・気分安定薬の有害反応と薬剤管理に関する看護	講義	
12	睡眠薬・抗不安薬の有害反応と薬剤管理に関する看護	講義	
13	抗てんかん薬の有害反応と薬剤管理に関する看護	講義	
14 15	在宅における薬物療法と看護（3時間）	講義	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～3回、6回～15回）
☆担当教員の 実務経験	①医療機関のがん薬物療法看護認定看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	周手術期と看護	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②松友　寛和 ③小木曽　崇江	単位数	1	開講年次	2年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	周手術期にある対象とその家族の特徴と看護が理解できる。また、対象の回復を促進するための援助方法の実際を学ぶ。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割	講義	専任教員 （　）
2	麻酔とは 麻酔の種類と術前・中・後の管理	講義	外部講師 （松友）
3	全身麻酔と局所麻酔の合併症	講義	外部講師 （小木曽）
4	術前の患者の看護	講義	
5	術中の患者の看護	講義	
6	手術侵襲と生体反応 術後合併症の理解	講義・演習	専任教員 （　）
7	術後の患者の看護　1	講義	
8	術後の患者の看護　2	講義・演習	
9	術後の患者の看護　3	講義・演習	
10	術後の患者の看護　4 輸液ポンプ・シリンジポンプの管理	講義・演習	
11 12	術後の患者の看護　5　（3時間） 腹腔ドレーン管理、術後患者の早期離床看護	講義・演習	
13	手術を受ける高齢者とその家族への看護	講義・演習	
14	手術を受ける子どもとその家族への看護	講義	
15	手術によりセクシュアリティの変調をきたす患者への看護	講義	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	「ライフサイクルと健康」、「成人看護学概論」、「形態機能学」、「疾病治療学」を復習し講義に臨むこと 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 事前に教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点　（1回、6回～15回：70点、2回：10点、3回～5回：20点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③医療機関の手術看護認定看護師として勤務している経験を活かして授業展開をする。

専門分野

授業科目	終末期と看護	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②桂川　麻由	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	人生各期の終末期にある人とその家族のQOLの維持・向上を目指した看護について理解できる。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	終末期医療と看護	講義	専任教員 （　）
2	倫理的課題、意思決定支援	講義	
3	エンドオブライフケア	講義	
4	全人的（包括的）苦痛の緩和、心理過程	講義	
5	緩和ケアとは	講義	外部講師 （桂川）
6	緩和ケア（精神的安寧を保つ看護技術）	講義	
7	緩和ケア（臨死期の看護の実際）	講義	
8	緩和ケア（グリーフケアとビリーブメントケア）	講義	
9	地域での終末期（自宅での看取り）	講義・演習	
10	地域での終末期（施設での看取り）	講義・演習	
11 12	各期のライフステージにおける終末期看護　1（小児期）（3時間）	講義・演習	専任教員 （　）
13	各期のライフステージにおける終末期看護　2（成人期）	講義・演習	
14	各期のライフステージにおける終末期看護　3（老年期）	講義・演習	
15	精神疾患と身体疾患を併せ持つ人の終末期	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～4回、11回～15回：60点、5回～10回：40点　）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医療機関の緩和ケア認定看護師として勤務している経験を活かして授業展開をする。

専門分野

授業科目	臨床判断能力	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	臨床判断の概念が理解できる。 場面に応じた臨床判断を体験し、看護実践におけるその必要性を理解できる。 治療・看護の場における臨床判断を体験し、「気づき」の大切さを理解し、看護を振り返り、看護を意味付けすることができる。
テキスト 文献	健康状態別看護　テキスト・文献一覧参照

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	臨床判断・推論とは クリティカルシンキングとは	講義	専任教員 （　）
2	呼吸困難のある患者の看護1（臨床判断モデル）	講義	
3	呼吸困難のある患者の看護2（臨床判断モデル）	講義	
4	呼吸困難のある患者の看護3（臨床判断モデル）	講義	
5	呼吸困難のある患者の看護4（臨床判断モデル）	講義・演習	
6	呼吸困難のある患者の看護5（臨床判断モデル）	講義・演習	
7	事例で考えよう1（臨床判断モデル）	講義・演習	
8	事例で考えよう2（臨床判断モデル）	講義・演習	
9	事例で考えよう3（臨床判断モデル）	講義・演習	
10 11	事例で考えよう4（臨床判断モデル）（3時間）	講義・演習	
12	事例で考えよう5（臨床判断モデル）	講義・演習	
13	事例で考えよう6（臨床判断モデル）	講義・演習	
14	事例で考えよう7（臨床判断モデル）	講義・演習	
15	OSCE（客観的臨床能力試験）、まとめ	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。
評価方法	筆記試験：50点　OSCE（客観的臨床能力試験）：50点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

成人看護学

考え方

成人期は、人生の中で最も長期にわたる時期である。その中で、成長・成熟・老化という経過をたどる。精神的・社会的変化も激しく、各時期に生じる健康問題や健康のニーズも多様である。

また、自立した社会的存在であり、健康問題によって社会生活へ及ぼす影響は大きく、ストレスや加齢から健康障害を受けやすい時期である。よって健康障害をもつ対象の看護は重要である。しかしそれだけではなく、現代の生活習慣病といわれる慢性疾患の増加に伴い、疾病や障害と共存しながらもＱＯＬを向上させる看護も視点におかなければならない。更に、健康を保持・増進させるための看護にも取り組み、自分の健康は自分で守るという意識をもてるよう支援することが重要である。また、ここで学んだ知識・技術は、健康障害をもつ対象の看護の基盤とし、他の看護学へも発展できるものである。

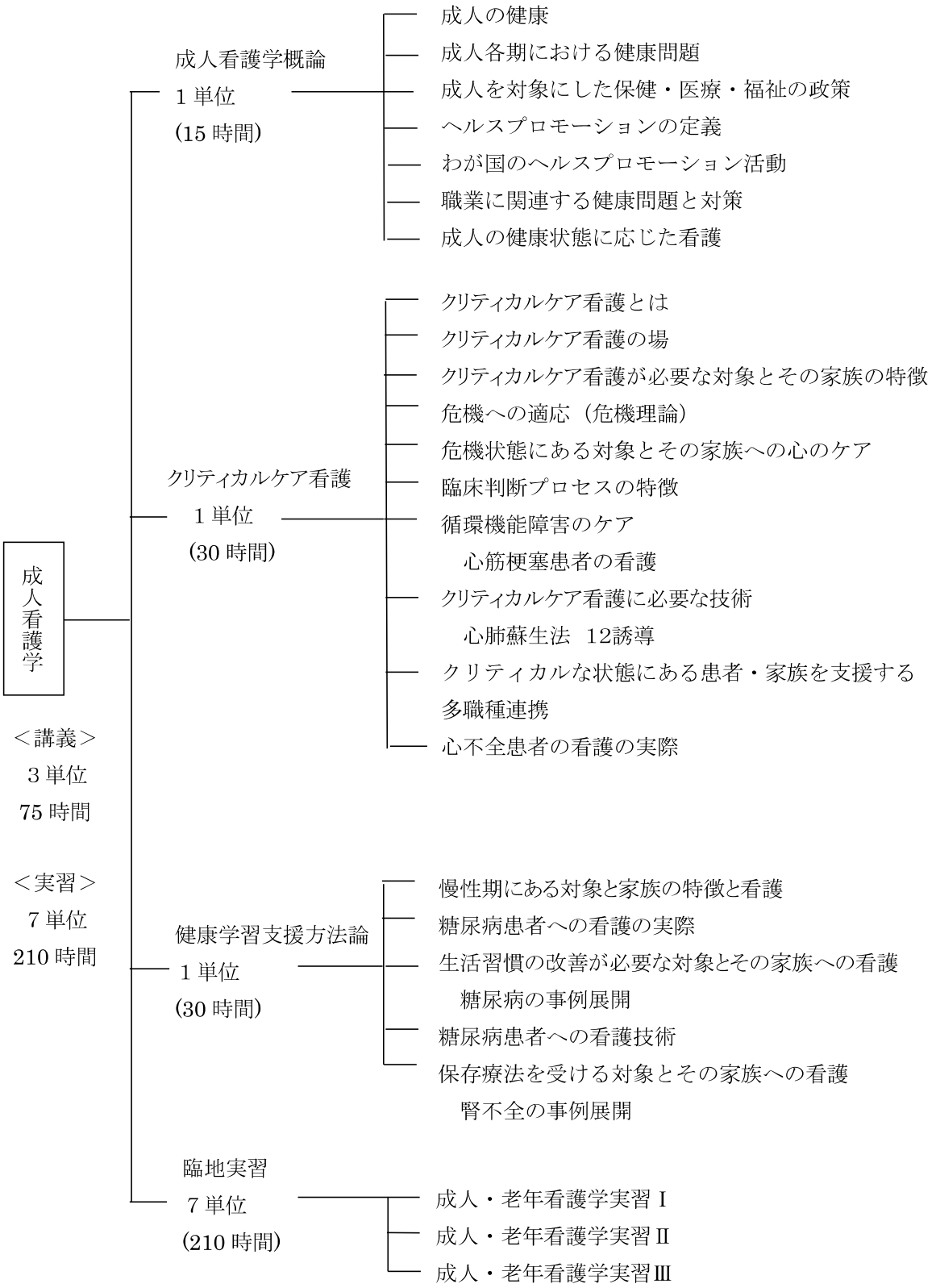
目的

成人期にある対象の特徴や健康問題を見据え､健康の保持･増進の重要性を理解し、あらゆる健康レベルに応じた看護を実践できる能力を養う。

目標

１．成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を総合的に理解する。
２．社会や環境が健康に及ぼす影響、成人保健の動向を理解し、健康教育の重要性や方法を学ぶ。
３．健康レベルに応じた看護の役割を理解し、必要な看護を実践できる。
４．健康障害時に生じる対象の諸問題を理解し、看護を計画・実施・評価できる。

成人看護学構成図


成人看護学
＜講義＞
3 単位
75 時間
＜実習＞
7 単位
210 時間
成人看護学概論
1 単位
(15 時間)
成人の健康
成人各期における健康問題
成人を対象にした保健・医療・福祉の政策
ヘルスプロモーションの定義
わが国のヘルスプロモーション活動
職業に関連する健康問題と対策
成人の健康状態に応じた看護
クリティカルケア看護
1 単位
(30 時間)
クリティカルケア看護とは
クリティカルケア看護の場
クリティカルケア看護が必要な対象とその家族の特徴
危機への適応（危機理論）
危機状態にある対象とその家族への心のケア
臨床判断プロセスの特徴
循環機能障害のケア
心筋梗塞患者の看護
クリティカルケア看護に必要な技術
心肺蘇生法 12誘導
クリティカルな状態にある患者・家族を支援する多職種連携
心不全患者の看護の実際
健康学習支援方法論
1 単位
(30 時間)
慢性期にある対象と家族の特徴と看護
糖尿病患者への看護の実際
生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護
糖尿病の事例展開
糖尿病患者への看護技術
保存療法を受ける対象とその家族への看護
腎不全の事例展開
臨地実習
7 単位
(210 時間)
成人・老年看護学実習Ⅰ
成人・老年看護学実習Ⅱ
成人・老年看護学実習Ⅲ

専門分野

授業科目	成人看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	1年次7月
				時間数	15		

授業のねらい	成人期にある対象の健康問題の特性を学ぶ。また、成人の健康管理の意義を考える。 健康の保持・増進・疾病予防のための看護を学ぶ。
テキスト 文献	成人看護学[1]成人看護学総論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	成人の健康	講義	専任教員 （　）
2	成人各期における健康問題 成人を対象とした保健・医療・福祉の政策1	講義・演習	
3	成人各期における健康問題 成人を対象とした保健・医療・福祉の政策2	講義・演習	
4	成人各期における健康問題 成人を対象とした保健・医療・福祉の政策3	講義・演習	
5	ヘルスプロモーションの定義 わが国のヘルスプロモーション活動	講義	
6	職業に関連する健康問題と対策	講義	
7	成人の健康状態に応じた看護 急性期・慢性期・回復期・終末期看護の考え方	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	「ライフサイクルと健康」を復習し講義に臨むこと 適宜提示する課題に対して期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：80点、グループ学習取り組み状況：15点、課題：5点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	クリティカルケア看護	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②加藤 美紀 ③石橋　津喜子	単位数	1	開講年次	2年次9月
				時間数	30		

授業のねらい	クリティカルケアを必要とする対象の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象とその家族に適切な看護援助のために、クリティカルケア看護の概念、特徴、対象の生命・生活を支える援助方法について学習する。
テキスト 文献	経過別成人看護学①　急性期看護：クリティカルケア（メヂカルフレンド社） 成人看護学[3]循環器（医学書院） 疾患別看護過程の展開（学研メディカ）　看護過程に沿った対症看護（学研メディカ）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	クリティカルケア看護とは クリティカルケア看護の場	講義	外部講師 （加藤）
2	クリティカルケア看護が必要な対象とその家族の特徴	講義	
3	危機への適応（危機理論）危機状態にある対象とその家族への心のケア	講義	専任教員 （　）
4	臨床判断プロセスの特徴	講義	
5	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護１（　心筋梗塞患者の看護　PCIの実際と看護　）	講義	
6	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護２（　医療情報の分析　重症度・緊急度　）	講義	
7	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護３（　クリティカル看護における思考プロセス１　）	講義・演習	
8	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護４　（　クリティカル看護における思考プロセス２　）	講義・演習	
9	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護５　（　クリティカル看護における思考プロセス３ バイタルサイン計画立案　）	講義・演習	
10	循環機能障害のケア 心筋梗塞患者の看護６　（　クリティカル看護における思考プロセス４ バイタルサイン計画発表　）	講義・演習	
11 12	クリティカルケア看護に必要な技術　心肺蘇生法（BLS）・12誘導（3時間）	講義・演習	
13	クリティカルな状態にある患者・家族を支援する多職種連携	講義・演習	
14	心不全患者の看護の実際1	講義	外部講師 （石橋）
15	心不全患者の看護の実際2	講義	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	「ライフサイクルと健康」、「形態機能学」、「疾病治療学」「臨床看護総論」を復習し講義に臨むこと 適宜提示する課題に対して期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回・2回：15点、3～13回：85点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医療機関でクリティカルケア認定看護師として勤務している経験を活かして授業展開する。 ③医療機関で慢性心不全看護認定看護師として勤務している経験を活かして授業展開する。

専門分野

授業科目	健康学習支援方法論	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②芥川　かおり ③今井　妃都美	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	慢性期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を理解し、対象とその家族に適切な看護援助のために、看護の概念、特徴、対象の生命・生活を支える援助方法について学習する。また、慢性疾患をコントロールのための健康教育として必要な行動変容のためのアプローチ方法がわかる。
テキスト 文献	経過別成人看護学③　慢性期看護（メヂカルフレンド社） 成人看護学[6]内分泌・糖代謝　[8]腎・泌尿器（医学書院） 疾患別看護過程の展開（学研メディカ）　看護過程に沿った対症看護（学研メディカ） NANDA-I看護診断定義と分類（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	慢性期にある対象と家族の特徴と看護	講義	専任教員 （　）
2	糖尿病患者への看護の実際	講義	外部講師 （芥川）
3	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開 1	講義	専任教員 （　）
4	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開2	講義・演習	
5	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開3	講義・演習	
6	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開4	講義・演習	
7	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開5	講義・演習	
8	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開6(食事指導)	講義・演習	
9	生活習慣の改善が必要な対象とその家族への看護 糖尿病の事例展開7(食事指導)	講義・演習	
10 11	糖尿病患者への看護技術 ①簡易血糖測定　②インスリン注射の実際（3時間）	講義・演習	
12	保存療法を受ける対象とその家族への看護 透析療法とは（血液透析、腹膜透析）	講義・演習	
13	保存療法を受ける対象とその家族への看護 透析療法を受ける患者と家族の看護1	講義・演習	
14	保存療法を受ける対象とその家族への看護 透析療法を受ける患者と家族の看護2	講義・演習	
15	保存療法を受ける対象とその家族への看護の実際 腎不全により透析療法を実施している患者と家族への看護	講義・演習	外部講師 （今井）
16	筆記試験（1時間）		専任教員 （　）

事前準備や 受講要件等	「ライフサイクルと健康」、「保健指導論」、「形態機能学」、「疾病治療学」を復習し講義に臨むこと 適宜提示する課題に対して期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：70点　（1回、3回～14回）　課題：30点
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医療機関で糖尿病看護認定看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。 ③医療機関で透析室の看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。

老年看護学

考え方

老年看護学は、老年期にある対象を統合された人間として理解し、その理解を踏まえて看護の方法について学ぶことを目的としている。

老年期にある対象を生物学的・社会学的な変化の中でとらえ、老いて生きる人々の生活とそれを取り巻く社会の視点でとらえる必要がある。また、老いることで衰退する機能と円熟する機能があり、その多様な面を理解することが必要である。その理解の上に立ち、様々な障害をもつ高齢者の健康と生活を支える看護を実践していくための基本的な考え方や知識、能力を身につける。

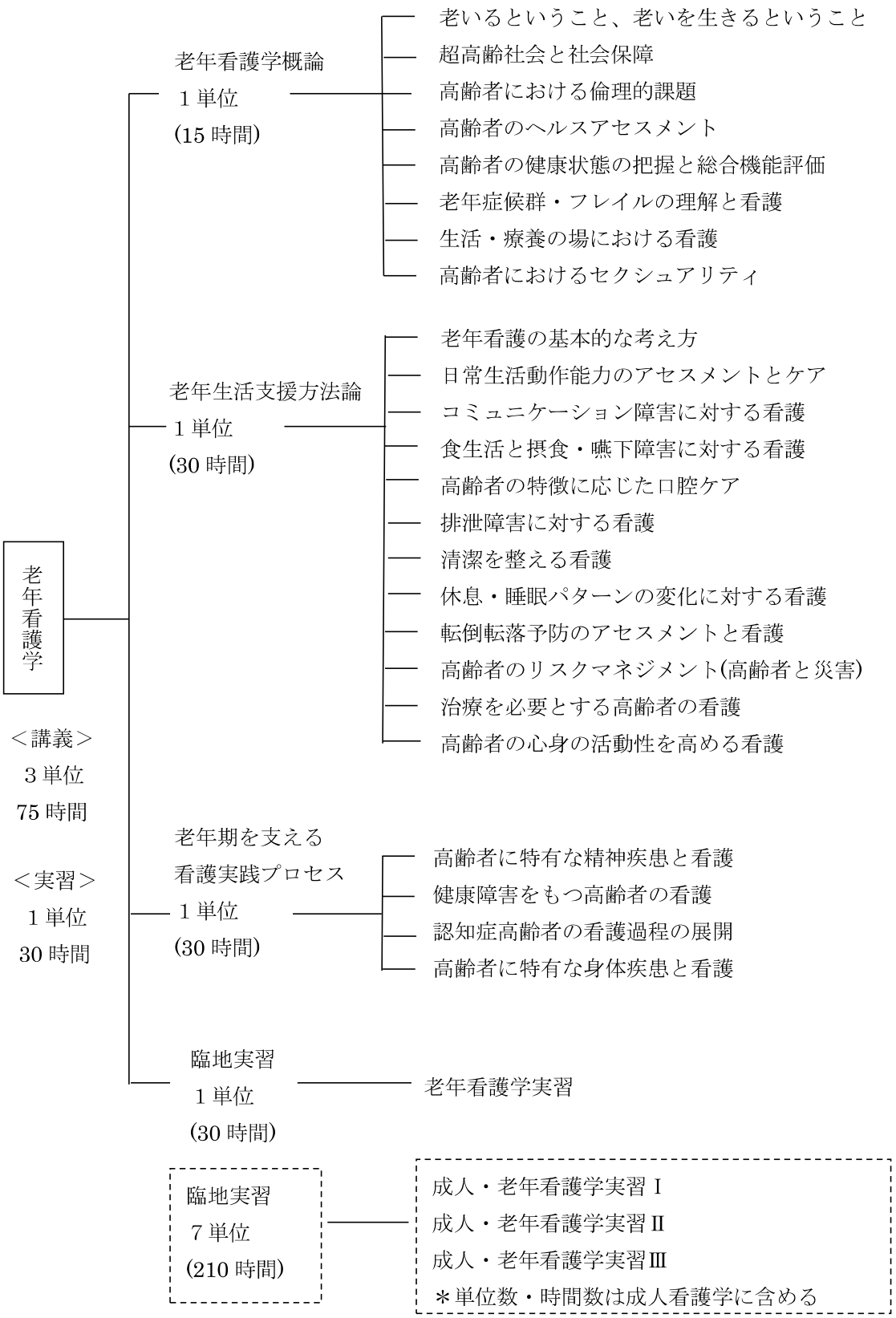
目的

老年期にある対象の発達段階・健康レベル・社会背景の違いを理解し、対象のセルフケア能力向上、QOL の向上に必要な看護について学びを得る。

目標

１．加齢現象による身体的・精神的・社会的変化を統合して理解する。
２．高齢化社会における保健・医療・福祉の各社会資源・システム・法律を理解する。
３．老年期の健康段階に応じた看護が展開できる看護過程を学ぶ。
４．生きている意味を学び、他者を認める態度を身につける。

老年看護学構成図


老年看護学
＜講義＞
3 単位
75 時間
＜実習＞
1 単位
30 時間
老年看護学概論
1 単位
(15 時間)
老いるということ、老いを生きるということ
超高齢社会と社会保障
高齢者における倫理的課題
高齢者のヘルスアセスメント
高齢者の健康状態の把握と総合機能評価
老年症候群・フレイルの理解と看護
生活・療養の場における看護
高齢者におけるセクシュアリティ
老年生活支援方法論
1 単位
(30 時間)
老年看護の基本的な考え方
日常生活動作能力のアセスメントとケア
コミュニケーション障害に対する看護
食生活と摂食・嚥下障害に対する看護
高齢者の特徴に応じた口腔ケア
排泄障害に対する看護
清潔を整える看護
休息・睡眠パターンの変化に対する看護
転倒転落予防のアセスメントと看護
高齢者のリスクマネジメント(高齢者と災害)
治療を必要とする高齢者の看護
高齢者の心身の活動性を高める看護
老年期を支える
看護実践プロセス
1 単位
(30 時間)
高齢者に特有な精神疾患と看護
健康障害をもつ高齢者の看護
認知症高齢者の看護過程の展開
高齢者に特有な身体疾患と看護
臨地実習
1 単位
(30 時間)
老年看護学実習
臨地実習
7 単位
(210 時間)
成人・老年看護学実習Ⅰ
成人・老年看護学実習Ⅱ
成人・老年看護学実習Ⅲ
＊単位数・時間数は成人看護学に含める

専門分野

授業科目	老年看護学概論	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②細江　廉	単位数	1	開講年次	1年次9月
				時間数	15		

授業のねらい	高齢者と高齢社会について学び、看護の対象となる高齢者を理解する。 高齢人口の推移や家族形態等の変遷を理解する事で、現在の超高齢社会における問題点を考える。 高齢社会における保健医療福祉制度や施策、施設看護活動について学ぶ。 老年看護の役割と機能、看護活動の場を理解する。
テキスト 文献	老年看護学 （医学書院） 老年看護　病態・疾患論 （医学書院） 看護のための人間発達学 （医学書院） 国民衛生の動向

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	専任教員 （　）
2	超高齢社会と社会保障 高齢者における倫理的課題	講義・演習	
3	高齢者のヘルスアセスメント	講義	
4	高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	講義	外部講師 （細江）
5	老年症候群・フレイルの理解と看護	講義	
6	生活・療養の場における看護①	講義・演習	専任教員 （　）
7	生活・療養の場における看護② 高齢者におけるセクシュアリティ	講義・演習	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～3回、6回・7回：80点、4回・5回：20点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②認知症看護認定看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	老年生活支援方法論	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②松井　司 ③安井　真奈美	単位数	1	開講年次	1年次11月
				時間数	30		

授業のねらい	加齢に伴う身体・精神・社会的変化を踏まえ、老年期にある人のQOL維持向上に向けた看護を考える。
テキスト 文献	老年看護学　（医学書院） 老年看護　病態・疾患　（医学書院） ※適宜　関連する解剖生理学、基礎看護学のテキストを使用

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	老年看護の基本的な考え方	講義	専任教員 （　）
2	日常生活動作能力のアセスメントとケア	講義	
3	コミュニケーション障害に対する看護	講義	
4	食生活と摂食・嚥下障害に対する看護①	講義・演習	外部講師 （松井）
5	食生活と摂食・嚥下障害に対する看護②	講義・演習	
6	食生活と摂食・嚥下障害に対する看護③	講義・演習	
7	高齢者の特徴に応じた口腔ケア 高齢者の歯の状況・義歯の手入れと管理・歯磨きの方法と介助法	講義・演習	外部講師 （安井）
8	排泄障害に対する看護	講義	専任教員 （　）
9	清潔を整える看護(入浴・シャワー浴の介助)	講義・演習	
10	休息・睡眠パターンの変化に対する看護	講義	
11	転倒転落予防のアセスメントと看護 高齢者のリスクマネジメント(高齢者と災害)	講義	
12	治療を必要とする高齢者の看護	講義・演習	
13	高齢者の心身の活動性を高める看護①	講義	
14 15	高齢者の心身の活動性を高める看護②（アクティビティケアの実際含む） （3時間）	講義・演習	
16	筆記試験（1時間 ）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～3回、8回～15回：80点、4回～6回：20点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ②摂食嚥下障害看護認定看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする ③歯科衛生士として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする

専門分野

授業科目	老年期を支える 看護実践プロセス	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②渡邉　博文	単位数	1	開講年次	2年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	老年期の健康段階に応じた看護が理解できる。 高齢者の特徴を踏まえ、対象の残存能力の維持・向上、QOLの向上を目指した看護過程の展開について理解できる。 看護過程の展開では、高齢者の衰退面・円熟面を踏まえて対象理解ができる視点を養う。
テキスト 文献	老年看護学 （医学書院） 老年看護　病態・疾患 （医学書院） ウェルネスの視点にもとづく老年看護過程（医歯薬出版株式会社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	高齢者に特有な精神疾患と看護①　認知症の基本	講義	外部講師 （渡邉）
2	高齢者に特有な精神疾患と看護②　認知症看護の実際	講義・演習	
3	高齢者に特有な精神疾患と看護③　認知症とうつ病	講義	
4	高齢者に特有な精神疾患と看護④　認知症とせん妄	講義	
5	健康障害をもつ高齢者の看護①　認知症高齢者の看護過程の展開	講義	専任教員 （　）
6	健康障害をもつ高齢者の看護②　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
7	健康障害をもつ高齢者の看護③　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
8	健康障害をもつ高齢者の看護④　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
9	健康障害をもつ高齢者の看護⑤　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
10	健康障害をもつ高齢者の看護⑥　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
11	健康障害をもつ高齢者の看護⑦　認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
12 13	健康障害をもつ高齢者の看護⑧ （3時間） 認知症高齢者の看護過程の展開	講義・演習	
14	高齢者に特有な身体疾患と看護①　呼吸器疾患のある高齢者の看護	講義	
15	高齢者に特有な身体疾患と看護②　神経疾患のある高齢者の看護	講義	
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読むこと、およびライフサイクル、老年看護学の既習内容を復習し臨むこと。
評価方法	筆記試験：80点（1回～4回：30点、5回～15回：50点）　課題：20点
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②認知症看護認定看護師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。

小児看護学

考え方

子どもは最も成長・発達の著しいときであり、心身ともに人間形成の基盤となる重要な時期にある。小児看護学では子どもを愛し、尊重し、一人の人格をもった人間として関わることができる姿勢を培ってもらいたい。その上で、子どもの成長・発達を理解し、子どもの健康レベルに応じて、健康を回復・維持・促進する援助ができ、さらに子どもの健やかな成長・発達を促していく能力を養う。また、親・きょうだいをはじめ家族も看護の対象であることを認識し、保健・医療・福祉チームや教育機関など関係職種の人々とも連携・協働する視点を養いたい。そして、様々な状況にある子どもと家族を継続的に支援する必要性を学ばせたい。

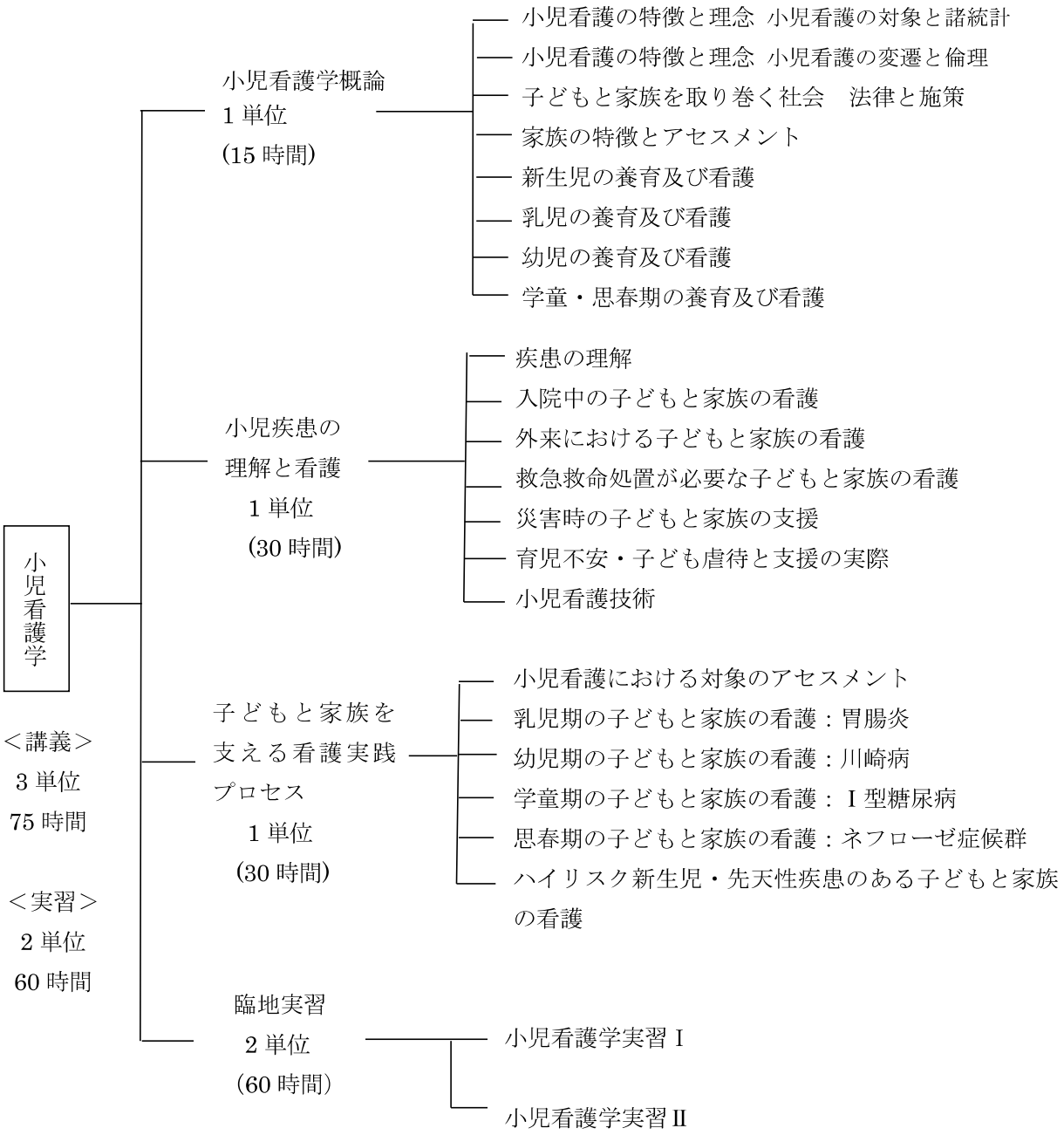
目的

小児保健や小児看護の動向を理解し、あらゆる健康レベルにある子ども及び家族に対して、個別的な看護を実践するために必要な、基礎的知識・技術・態度を修得する。

目標

１．小児と小児看護について基本的な考え方を理解する。
２．子どもの成長・発達を理解し、小児各期の特徴に適した生活と養護がわかる。
３．子どもを取り巻く社会的状況と動向および子どもの健康上の課題がわかる。
４．小児看護に必要な基本的な看護技術がわかる。
５．さまざまな健康レベルにある子ども及び家族に対し、子どもの健やかな成長・発達促進に向けて、病気の回復、健康の保持・増進をするために健康状態をアセスメントし、計画・実施・評価ができる
６．保健・医療・福祉・教育の連携するチームにおける小児看護の役割を知る。

小児看護学構成図


小児看護学
＜講義＞
3 単位
75 時間
＜実習＞
2 単位
60 時間
小児看護学概論
1 単位
(15 時間)
小児看護の特徴と理念 小児看護の対象と諸統計
小児看護の特徴と理念 小児看護の変遷と倫理
子どもと家族を取り巻く社会 法律と施策
家族の特徴とアセスメント
新生児の養育及び看護
乳児の養育及び看護
幼児の養育及び看護
学童・思春期の養育及び看護
小児疾患の
理解と看護
1 単位
(30 時間)
疾患の理解
入院中の子どもと家族の看護
外来における子どもと家族の看護
救急救命処置が必要な子どもと家族の看護
災害時の子どもと家族の支援
育児不安・子ども虐待と支援の実際
小児看護技術
子どもと家族を
支える看護実践
プロセス
1 単位
(30 時間)
小児看護における対象のアセスメント
乳児期の子どもと家族の看護：胃腸炎
幼児期の子どもと家族の看護：川崎病
学童期の子どもと家族の看護：Ⅰ型糖尿病
思春期の子どもと家族の看護：ネフローゼ症候群
ハイリスク新生児・先天性疾患のある子どもと家族の看護
臨地実習
2 単位
(60 時間)
小児看護学実習Ⅰ
小児看護学実習Ⅱ

専門分野

授業科目	小児看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	2年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	子どもの健やかな成長過程を支えるために、環境である家族や社会の現状を学び、子どもの健康課題や、子どもの生活を理解する。そして、子どもをひとりの権利を有する人として尊重してとらえつつ、さまざまな健康レベルの子どもが健やかに成長・発達していけるための支援及び最善のケアの基本を学ぶ。
テキスト 文献	小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学[2]　小児臨床看護各論（医学書院） 健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉（医学書院） 看護のための人間発達学（医学書院）、国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	小児看護の特徴と理念 　小児看護の対象、小児と家族の諸統計	講義	専任教員 （　）
2	小児看護の特徴と理念 　小児看護の変遷、小児看護における倫理、小児看護の課題	講義	
3	子どもと家族を取り巻く社会 　子ども・子育て支援のための法律と施策	講義	
4	子どもと家族を取り巻く社会 　子どもの健康・教育を支えるための法律と施策	講義	
5	家族の特徴とアセスメント、健康障害をもつ子どもと家族の特徴	講義	
6	地域における子育て支援の実際　1	講義・演習	
7	地域における子育て支援の実際　2	講義・演習	
8	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 事前課題に取り組み、提出期限を守ること
評価方法	筆記試験 ： 80点　　課題：20点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	小児疾患の理解と看護	担当教員	外部講師☆ ①中野　正大②中林玄一 ③長柄　俊佑④川上　広長 ⑤水野かおり 専任教員☆ ⑥	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	小児期に起こりやすい疾病と治療・検査・処置を学ぶ。子どもの基本的特性を踏まえて、病気や入院が子どもに及ぼす影響を知り、健康問題をもつ子どもの理解と必要な看護について学ぶ。また、状況に特徴付けられる子どもの特徴と看護を理解する。
テキスト 文献	小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論 （医学書院） 小児看護学[2]小児臨床看護各論 （医学書院） 小児看護学②小児看護技術 （MCメディカ出版） 小児看護技術　演習テキスト　学習ノート（へるす出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	疾患の理解：先天異常・ハイリスク新生児、低出生体重児	講義	外部講師 （ 長柄 ）
2	疾患の理解：代謝疾患・内分泌、免疫・アレルギー性疾患	講義	外部講師 （ 中林 ）
3	疾患の理解：感染症、呼吸器疾患	講義	
4	疾患の理解：循環器疾患、消化器疾患	講義	外部講師 （ 中野 ）
5	疾患の理解：血液・造血器疾患、悪性新生物	講義	
6	疾患の理解： 神経・筋疾患、運動器疾患	講義	
7	疾患の理解： 腎・泌尿器および生殖器疾患、 皮膚疾患、発達障害	講義	
8	入院中の子どもと家族の看護	講義	外部講師 （ 水野 ）
9	外来における子どもと家族の看護	講義	
10	救急救命処置が必要な子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の支援	講義	
11	育児不安・子ども虐待と支援の実際	講義・演習	外部講師 （ 川上 ）
12	小児看護技術　1　（3時間）（抱っこ・身体計測）	講義・演習	専任教員 （　）
13	小児看護技術　2　（バイタルサインの測定）	講義・演習	
14	小児看護技術　3　（環境調整）	講義・演習	
15	筆記試験 （1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 事前課題に取り組み、提出期限を守ること
評価方法	筆記試験 ： 100点 （1回：5点、2回・3回：15点、4回～7回：40点、8回～10回：20点、12回～14回：20点）
☆担当教員の 実務経験	①②③小児科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④児童相談所での実務経験を活かした授業展開をする。 ⑤⑥看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	子どもと家族を支える看護実践プロセス	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②清水　智美 ③河瀬　艶子	単位数	1	開講年次	2年次12月
				時間数	30		

授業のねらい	健康障害をもつ子どもとその家族を理解し、対象の成長発達や健康状態、心理・社会的側面に合わせた援助を実践するために、児・家族の療養行動やセルフケア能力を促進する援助、検査処置に伴う援助、きょうだいへの援助について学習する。また、児・家族がよりよい生活を送るために切れ目ない支援の実際や、看護の役割についても学習する。
テキスト 文献	小児看護学[1]小児看護学概論／小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学[2]小児臨床看護各論（医学書院） 小児看護学②小児看護技術（MCメディカ出版） 小児看護技術　演習テキスト　学習ノート（へるす出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	小児看護における対象のアセスメント　1	講義	専任教員 （　）
2	小児看護における対象のアセスメント　2	講義	
3	乳児期の子どもと家族の看護　：　胃腸炎　1	講義	
4	乳児期の子どもと家族の看護　：　胃腸炎　2	講義	
5	乳児期の子どもと家族の看護　：　胃腸炎　3	講義	
6	乳児期の子どもと家族の看護　：　胃腸炎　4（点滴の固定）	講義・演習	
7	幼児期の子どもと家族の看護　：　川崎病　1	講義	
8 9	幼児期の子どもと家族の看護　：　川崎病　2　（3時間）	講義・演習	
10	学童期の子どもと家族の看護　：　Ⅰ型糖尿病　1	講義	外部講師 （河瀬）
11	学童期の子どもと家族の看護　：　Ⅰ型糖尿病　2	講義	
12	思春期の子どもと家族の看護　：　ネフローゼ症候群　1	講義	専任教員 （　）
13	思春期の子どもと家族の看護　：　ネフローゼ症候群　2	講義	
14	ハイリスク新生児・先天性疾患のある子どもと家族の看護　1	講義	外部講師 （清水）
15	ハイリスク新生児・先天性疾患のある子どもと家族の看護　2	講義	
16	筆記試験（1時間）		専任教員 （　）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと 事前課題に取り組み、提出期限を守ること
評価方法	筆記試験 ： 100点 （1回～9回、12回・13回：80点、10回・11回：10点、14回・15回：10点）
☆担当教員の 実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②助産師として医療機関に勤務する経験を活かした授業展開をする。

母性看護学

考え方

少子高齢社会を迎えて、我が国の保健・医療・福祉はめざましく変化している。母性看護学は女性の一生を通して健康の維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。少子化傾向にありながら「子を産み、育てる」ことの価値観が変化してきており、生命誕生に関わる倫理観も多様である。母性としての役割、父性としての役割ひいては家族の考え方は時代とともに変化してきている。女性の労働人口が増加しつつあり、母性を取り巻く社会環境も変化し、母性としての意識や情緒面・行動面での表現も複雑な社会形態・価値観の変化に伴い刻々と変容している。

現代社会において、人間性豊かな活力ある社会を実現していくためには、次代の社会を支える子どもを心身ともに健やかに育てることが従来にもまして重要である。次世代が健やかに生まれ育ち、人類が健全に発展していくために、母性の役割を評価し、尊重し、親になる過程にある人への支援が必要になる。学習者のほとんどが、次世代を担う対象者であることから、親になることの支援を通して、女性の身体的、心理社会的特性について、その女性の生きてきた人生の中で全体論的に捉え、健康を護り、疾病の回復・予防に必要な看護を学習者自身のためにも学ぶ必要がある。

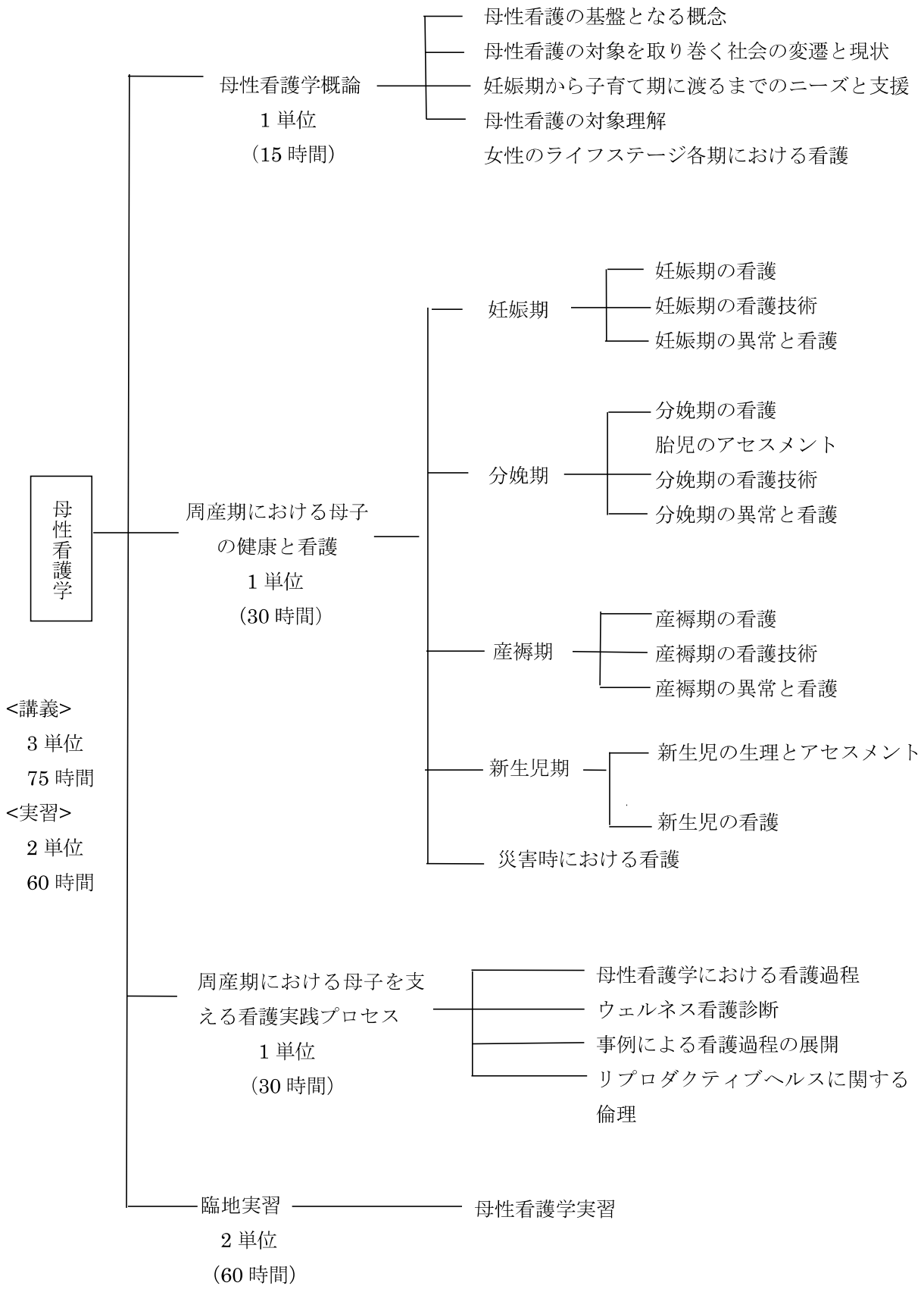
目的

母性看護学の対象は、セクシャル・リプロダクテイブヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利の概念）から種族保存だけでなく、母性の役割を広くとらえ、女性が健全なライフサイクルをおくるための看護を学ぶ。

目標

１．母性をとりまく社会の現状、課題を理解し母性看護の意義と役割を理解する。
２．女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康と看護について理解する。
３．妊娠・分娩・産褥期における母性および新生児の健康問題を解決するための援助方法を理解する。
４．系統的な問題解決の過程を用いて、周産期の母性に対して看護過程を展開するために必要な能力を身につける。
５．生命の尊厳と人間尊重の態度を身につけ、自己の母性・父性を認識し、自己概念を発達させる。

母性看護学構成図


母性看護学
<講義>
3 単位
75 時間
<実習>
2 単位
60 時間
母性看護学概論
1 単位
（15 時間）
母性看護の基盤となる概念
母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状
妊娠期から子育て期に渡るまでのニーズと支援
母性看護の対象理解
女性のライフステージ各期における看護
周産期における母子の健康と看護
1 単位
（30 時間）
妊娠期
妊娠期の看護
妊娠期の看護技術
妊娠期の異常と看護
分娩期
分娩期の看護
胎児のアセスメント
分娩期の看護技術
分娩期の異常と看護
産褥期
産褥期の看護
産褥期の看護技術
産褥期の異常と看護
新生児期
新生児の生理とアセスメント
新生児の看護
災害時における看護
周産期における母子を支える看護実践プロセス
1 単位
（30 時間）
母性看護学における看護過程
ウェルネス看護診断
事例による看護過程の展開
リプロダクティブヘルスに関する倫理
臨地実習
2 単位
（60 時間）
母性看護学実習

専門分野

授業科目	母性看護学概論	担当教員	外部講師☆ 早川　久恵	単位数	1	開講年次	2年次4月
				時間数	15		

授業のねらい	セクシュアルリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題等から対象を生理学的、病理学的に理解し、各期における女性の健康問題とその看護の基礎的知識について学ぶ。人間の性と生殖について理解し、母性看護における意義・生命倫理・看護倫理、責務、看護師の役割等について学ぶ。また母性看護の歴史的変遷と現状を母子統計、法律等から学び母性看護学の役割を理解する。
テキスト 文献	ナーシング・グラフィカ　母性看護学①　概論・セクシュアルリプロダクティブヘルスと看護（MCメディカ出版） 国民衛生の動向　（厚生統計協会）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	母性看護の基盤となる概念①	講義	外部講師 （早川）
2	母性看護の基盤となる概念②	講義	
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	講義	
4	妊娠期から子育て期に渡るまでのニーズと支援①　法律と政策	講義・演習	
5	妊娠期から子育て期に渡るまでのニーズと支援②　支援の実際	講義	
6	母性看護の対象理解 女性のライフステージ各期における看護①	講義	
7	母性看護の対象理解 女性のライフステージ各期における看護②	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に望むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出すること。
評価方法	筆記試験：100点
☆担当教員の 実務経験	助産師として産後ケアを実践している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	周産期における 母子の健康と看護	担当教員	外部講師☆ ①熊﨑佐代子 ②加藤恵子	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	妊娠・分娩・産褥各期における対象の身体的、心理社会的変化について理解し、それらの変化が円滑に適応するための必要な日常生活援助や安全安楽の援助方法を学ぶ。また、胎児の発育発達について妊娠の経過に沿って理解し、妊娠各期に応じた保健指導の必要性とその方法を学ぶ。妊娠・出産・産褥の一連の過程から新生児に至るまでの正常な経過と異常について学ぶことで、母子の健康を維持・促進し、新生児を家族の一員として迎え、親として適切に世話することができるように援助する方法を学ぶ。また、妊産褥婦・新生児に対するアセスメント及び援助を提供するための基礎的技術を学ぶ。
テキスト 文献	ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　（MCメディカ出版） ナーシング・グラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　（MCメディカ出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	妊娠期の看護 ① 妊娠の生理、胎児の発育と生理、妊婦と胎児のアセスメント	講義	外部講師 （熊﨑）
2	妊娠期の看護 ② 妊婦の健康健康管理・セルフケア支援、出産と育児の準備、親・家族役割支援	講義	
3	妊娠期の異常と看護 子宮外妊娠、流産・切迫流産、早産・切迫早産、悪阻、HDP、GDM、多胎、血液型不適合、感染症	講義	
4	分娩期の看護　① 分娩の経過、産婦の生理・心理・社会的変化、産婦と胎児のアセスメントと看護	講義	
5	分娩期の異常と看護 ① 産道の異常、娩出力の異常、附属物の異常	講義	
6	分娩期の異常と看護 ② 帝王切開術を受けた褥婦・新生児の看護	講義	外部講師 （加藤）
7	産褥期の看護　① 褥婦の全身状態の変化、生殖器の変化、褥婦と家族の心理社会的変化	講義	
8	産褥期の看護　② 褥婦のアセスメント、全身状態、乳房の状態、子宮復古、外陰部、心理社会的状態	講義	
9	新生児の看護 ① 新生児の生理、新生児のアセスメント、出生直後・24時間以内・退院に向けたケア	講義	
10	妊娠期の看護　③ 妊娠期の看護技術 レオポルド触診法、NST、児心音の聴取、妊婦疑似体験など	講義・演習	外部講師 （熊﨑）
11	分娩期の看護　② 分娩期の看護技術 産痛緩和、分娩時の呼吸法、分娩監視装置など	講義・演習	
12	産褥期の看護　③ 産褥期の看護技術 子宮復古の観察、母乳育児支援に必要な技術／授乳姿勢、ラッチオン、乳頭マッサージ	講義・演習	外部講師 （加藤）
13 14	新生児の看護　（3時間）　授乳、沐浴、更衣・おむつ交換	講義・演習	
15	災害時における看護	講義	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと。 適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出すること。
評価方法	筆記試験：100点（1回～5回、10回・11回：50点、6回～9回、12回～15回：50点）
☆担当教員の 実務経験	①②助産師として勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	周産期における母子を支える看護実践プロセス	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	周産期の対象の生理的変化と状態に応じた看護過程の展開および看護援助を理解する。その中で、ウエルネス志向に基づいた看護過程の展開を学ぶ。また、生命に関わる倫理的課題について考え、看護の役割について理解を深める。
テキスト 文献	ナーシング・グラフィカ　母性看護学②　母性看護の実践　（MCメディカ出版） ナーシング・グラフィカ　母性看護学③　母性看護技術　（MCメディカ出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	母性看護学における看護過程・ウェルネス看護診断	講義	専任教員 （　）
2	事例による看護過程の展開　事例紹介・アセスメントの視点	講義・演習	
3	事例による看護過程の展開　妊娠期	講義・演習	
4	事例による看護過程の展開　分娩期	講義・演習	
5	事例による看護過程の展開 産褥期のアセスメントの視点（①パターン：産褥復古）	講義・演習	
6	事例による看護過程の展開 産褥期のアセスメントの視点（②パターン：母乳栄養）	講義・演習	
7	事例による看護過程の展開 産褥期のアセスメントの視点（③パターン：親子関係）	講義・演習	
8	事例による看護過程の展開 産褥期のアセスメントの視点（④パターン：育児技術）	講義・演習	
9	事例による看護過程の展開 産褥期のアセスメントの視点（⑤パターン：子宮外生活の適応）	講義・演習	
10	事例による看護過程の展開　看護の明確化、計画立案　①	講義・演習	
11 12	事例による看護過程の展開　看護の明確化、計画立案　②（3時間）	講義・演習	
13	事例による看護過程の展開　帝王切開術を受けた褥婦・新生児の看護	講義・演習	
14	リプロダクティブヘルスに関する倫理　①	講義・演習	
15	リプロダクティブヘルスに関する倫理　②	講義・演習	
16	筆記試験　（1時間）		

事前準備や受講要件等	女性生殖器の構造と機能、正常な妊娠・分娩・産褥期と新生児の特徴と看護について事前学習をして講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：60点（1回～15回）　課題：40点
☆担当教員の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

精神看護学

考え方

複雑な社会情勢や時代の変化を反映し、ライフサイクルの各段階におけるこころの健康問題は、こころに障害を持つ人のみを対象とするだけではなくなってきている。あらゆるライフステージにある対象にもこころのフォローが必要であるというメンタルヘルスの考え方が注目され、ノーマライゼーションの考え方に基づいて、全ての健康レベルに応じた看護が求められている。こころの理解に重点をおき、人間関係の意味するものを考え自己洞察を行う中で、学生が対象及び自己の理解を通し、対象にとって必要な看護を考えることが重要である。そのため、社会・こころ・ライフステージの三側面から人を見つめ、あらゆる健康レベルに応じた看護について考えられるようになる必要がある。

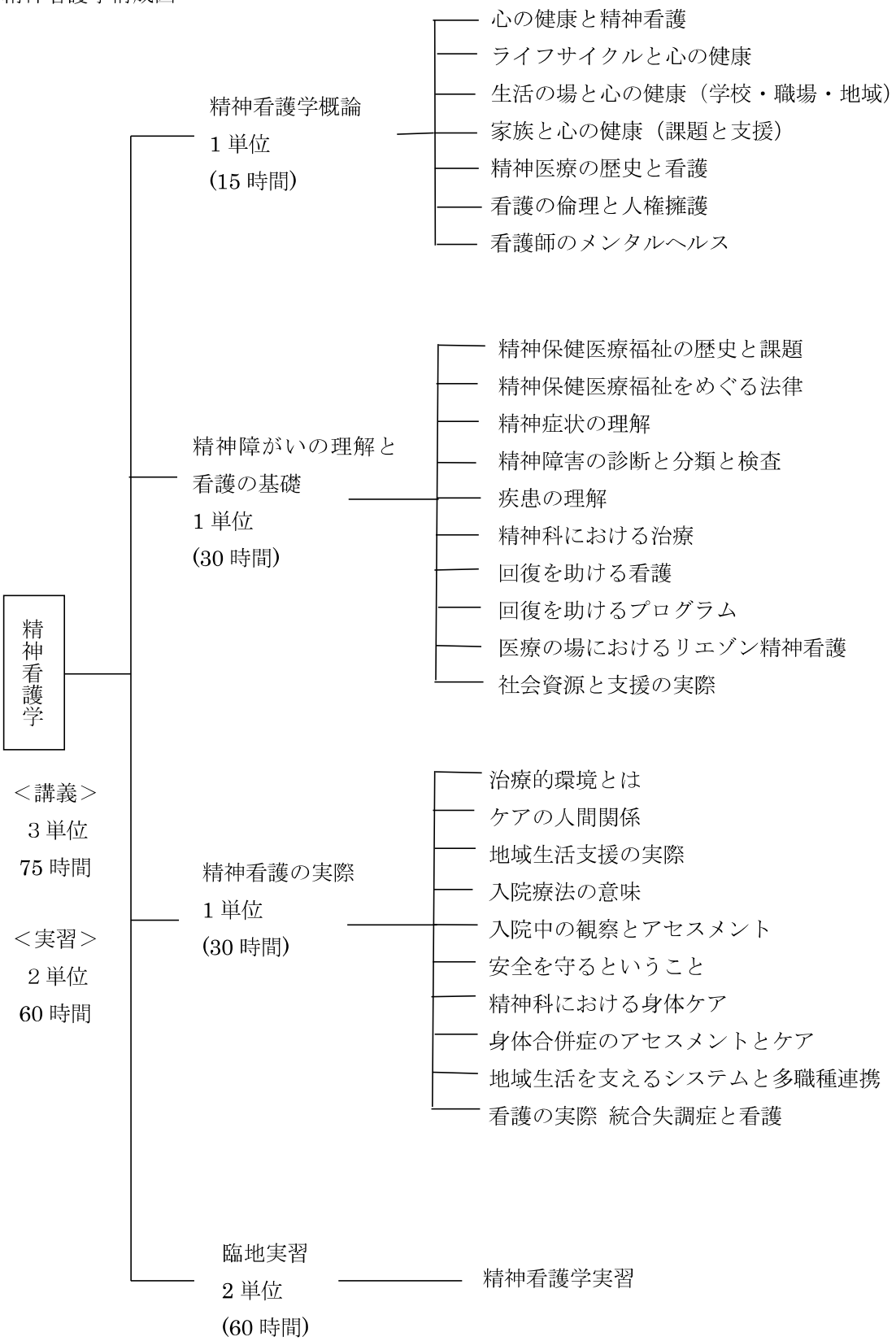
目的

あらゆるライフステージにある人間の健全なこころの発達と、それに影響を与える要因を理解し、現代社会における精神的健康の保持・増進及び危機的状態への援助に必要な知識・技術を学習し、その過程を通して自己洞察しうる態度を養う。

目標

1．こころとは何か、こころの発達、こころの健康の一般的な概念を学び、健康なこころの働きを維持・増進するために必要な知識を修得する。
2．学生自身のこころの健康、思考・感情・行動の傾向を振り返り自己理解を深める。
3．精神障害をもつ人とその家族を支援するための知識・技術を学び、共感・受容することの大切さを理解する。
4．看護過程を通し、家族背景や生活体験・成育歴、対象関係の中で生じてくる葛藤が人間の行動に及ぼす影響について理解し、心身両面から精神の健康問題を考える。
5．社会環境と個人の精神活動の関係を学び、健康な精神の保持・増進、「こころの病」の回復・社会復帰のために、ノーマライゼーション社会における課題を考える。

精神看護学構成図


精神看護学
＜講義＞
3 単位
75 時間
＜実習＞
2 単位
60 時間
精神看護学概論
1 単位
(15 時間)
心の健康と精神看護
ライフサイクルと心の健康
生活の場と心の健康（学校・職場・地域）
家族と心の健康（課題と支援）
精神医療の歴史と看護
看護の倫理と人権擁護
看護師のメンタルヘルス
精神障がいの理解と
看護の基礎
1 単位
(30 時間)
精神保健医療福祉の歴史と課題
精神保健医療福祉をめぐる法律
精神症状の理解
精神障害の診断と分類と検査
疾患の理解
精神科における治療
回復を助ける看護
回復を助けるプログラム
医療の場におけるリエゾン精神看護
社会資源と支援の実際
精神看護の実際
1 単位
(30 時間)
治療的環境とは
ケアの人間関係
地域生活支援の実際
入院療法の意味
入院中の観察とアセスメント
安全を守るということ
精神科における身体ケア
身体合併症のアセスメントとケア
地域生活を支えるシステムと多職種連携
看護の実際 統合失調症と看護
臨地実習
2 単位
(60 時間)
精神看護学実習

専門分野

授業科目	精神看護学概論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	15		

授業のねらい	人間の心の理解をふまえて精神の健康と障がいの考えかたを学び、精神看護のあり方を考える。 人間の発達とライフサイクルにおける心の特徴および健康問題発生要因と社会生活をを営む対象への看護の役割を考える。
テキスト 文献	精神看護学①情緒発達と精神看護の基本（MCメディカ出版） 精神看護学[1]精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学[2]精神看護の展開（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	心の健康と精神看護	講義	専任教員 （　　）
2	ライフサイクルと心の健康	講義	
3	生活の場と心の健康（学校・職場・地域）	講義	
4	家族と心の健康（課題と支援）	講義	
5	精神医療の歴史と看護	講義	
6	看護の倫理と人権擁護	講義	
7	看護師のメンタルヘルス	講義	
8	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験:100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	精神障がいの理解と看護の基礎	担当教員	外部講師☆ ①加藤 秀明 ②笠原 憲司 ③今井 杉雄 ④水谷 崇 ⑤飯塚 剛　⑥蒲 佳浩	単位数	1	開講年次	2年次6月
				時間数	30		

授業のねらい	精神保健福祉の歴史・法律、現状と課題について学ぶ。 精神疾患と症状を学び、精神障がいをもつ対象及び家族に必要な看護を考える。
テキスト 文献	精神看護学①情緒発達と精神看護の基本（MCメディカ出版） 精神看護学[1]精神看護の基礎（医学書院） 精神看護学[2]精神看護の展開（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	精神保健医療福祉の歴史と課題	講義	外部講師 （加藤）
2	精神保健医療福祉をめぐる法律	講義	
3	精神症状の理解①	講義	外部講師 （②～④）
4	精神症状の理解②	講義	
5	精神障害の診断と分類と検査	講義	
6	疾患の理解①	講義	
7	疾患の理解②	講義	
8	疾患の理解③	講義	
9	疾患の理解④	講義	
10	精神科における治療①	講義	
11	精神科における治療②	講義	外部講師 （飯塚）
12	回復を助ける看護	講義	外部講師 （　蒲　）
13	回復を助けるプログラム（IMR・SST　等）	講義	
14	医療の場におけるリエゾン精神看護	講義	
15	社会資源と支援の実際	講義	
	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（3回～11回：80点、12回～15回：20点）
☆担当教員の 実務経験	①②③④医療機関に医師として勤務している経験を活かして授業展開をする。 ⑤臨床心理士として医療機関に勤務している経験を活かして授業展開する。 ⑥精神科認定看護師として医療機関に勤務している経験を活かして授業展開をする。

専門分野

授業科目	精神看護の実際	担当教員	専任教員 ① 外部講師☆ ②大原　真須美 ③朝日　美賀	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	精神障がいをもつ人がその人らしく生きるための看護の実際を学ぶ。 精神障がいに関わる社会資源をを理解し,多職種連携における看護の役割を学ぶ。
テキスト 文献	精神看護学[1]精神看護の基礎(医学書院) 精神看護学[2]精神看護の展開(医学書院)

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	治療的環境とは	講義	専任教員 (　　)
2	ケアの人間関係	講義	
3	地域生活支援の実際①	講義	外部講師 (大原)
4	地域生活支援の実際②	講義・演習	
5	入院療法の意味	講義	外部講師 (　朝日　)
6	入院中の観察とアセスメント	講義	
7 8	安全を守るということ　(3時間) (災害に伴う看護・緊急事態に対処するための看護)	講義	専任教員 (　　)
9	精神科における身体ケア	講義	
10	身体合併症のアセスメントとケア	講義	
11	地域生活を支えるシステムと多職種連携	講義	
12	看護の実際　統合失調症と看護①	講義	
13	看護の実際　統合失調症と看護②	講義	
14	看護の実際　統合失調症と看護③	講義	
15	看護の実際　統合失調症と看護④	講義・演習	
16	筆記試験(1時間)		

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に対して、期限を厳守して提出する。 教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験:100点(1・2回、7回～15回(5・6回の内容含))
☆担当教員の 実務経験	①③看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②精神保健福祉士として社会福祉施設に勤務している経験を活かして授業展開をする。

看護の統合と実践

考え方

我が国の看護をめぐる環境は、急速な少子高齢社会、医療技術の進歩、度重なる医療制度改革、国民の医療安全に関する意識の向上など大きく変化している。また、このような状況下のもと、看護職に求められる知識、技術も高度化している。一方で、若者の基本的な生活能力、常識力の低下、対人関係の未熟さなど看護の基礎を学ぶ学生の質が変化している。そのため、就職しても自分の技術に自信が持てず、新人の早期離職が増加している現状がある。このため看護の統合と実践では、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容をより臨床実践に近い形で学習し、知識、技術を統合できる内容にした。これらの学びを臨床で実践し、チーム医療の中で多職種と協働できるようメンバーシップ、リーダーシップ、医療安全、看護マネジメントの基礎的能力を養う必要がある。

看護師として就職した後も看護の質を高めるために自己研鑽し、研究の基礎的知識を身に付けることで看護を探求し続ける必要性やその方法を学ぶ。また、災害看護、国際看護を学ぶことで、広い視野を持って看護を考えることができる能力を養う。

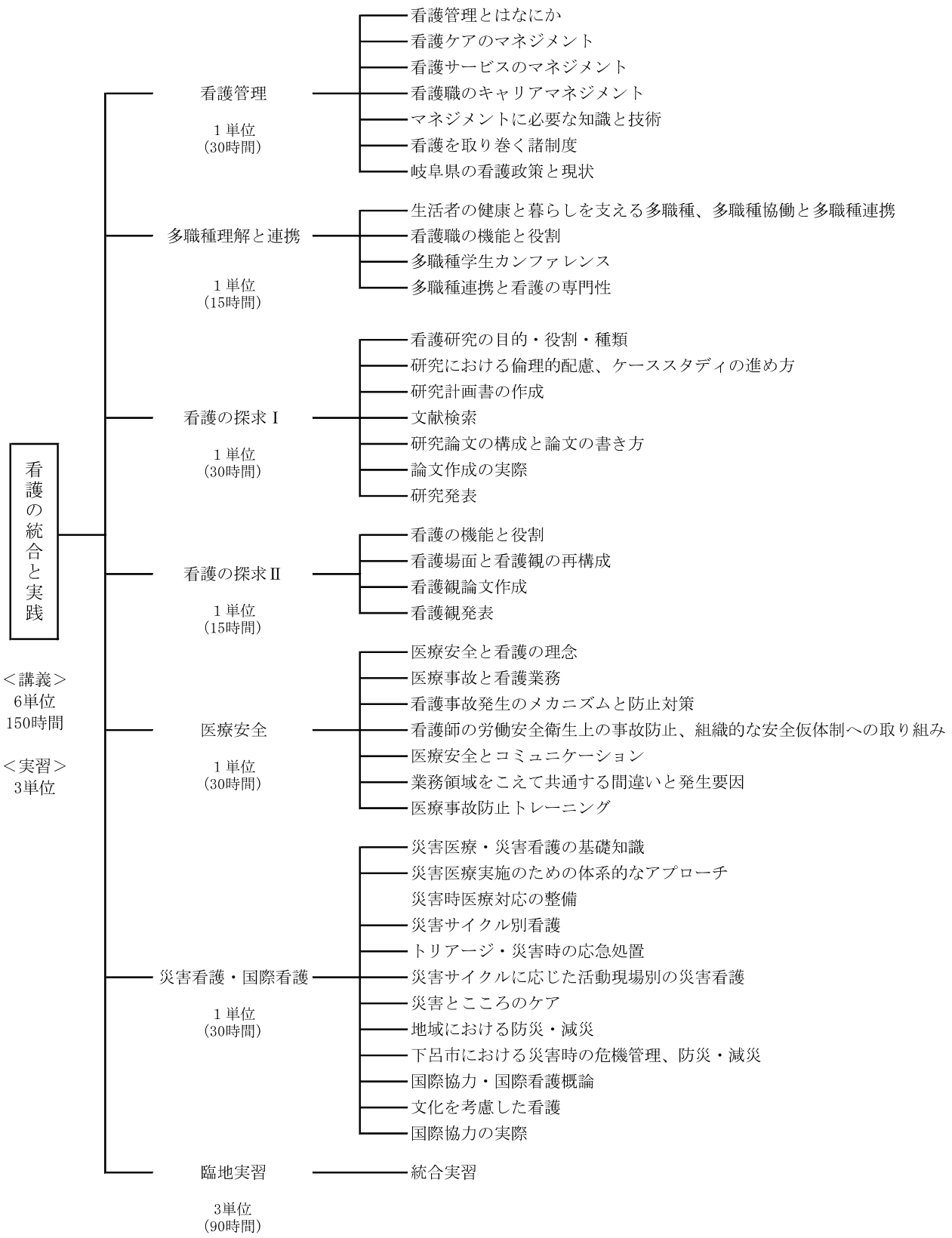
目的

看護の基礎的知識を深め、臨床判断を伴った看護実践能力を養う。また、職業倫理観や責任感を養い、多職種との連携の中で看護の役割を理解し、常に看護を探求し続ける姿勢を養う。

目標

1．チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。
2．看護をマネンジメントできる基礎的能力を養う。
3．医療安全の基礎的知識を身に付け、事故防止のための技術を身に付ける。
4．看護研究の基礎的知識を養う。
5．様々な災害時の状況下において必要な支援を行うための基礎的知識を身に付け、看護の役割について理解する。
6．諸外国の医療・看護の現状を学び、保健・福祉・医療の課題について幅広い視野で理解することができる。

看護の統合と実践構成図



専門分野

授業科目	看護管理	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②古瀬　智子　③上平　直子 ④山下　由起子 ⑤安江　大輔　⑥岩﨑　美幸 ⑦永田　陽子	単位数	1	開講年次	3年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	ここでは、これまで患者に集中していた視点を患者ケアのプロセス、組織、社会へと拡げられるよう、看護ケアおよび看護サービスのマネジメント、制度や政策の視点を学び、看護が行われる組織の中で、他者と協力し合って患者中心の看護を行える考え方と行動力を養う。
テキスト 文献	看護の統合と実践[1]看護管理（医学書院） 看護六法（新日本法規）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護管理とはなにか、なぜ看護基礎教育で看護管理を学ぶのか	講義	専任教員 （　　）
2	看護ケアのマネジメント　看護業務のマネジメント （看護業務基準、看護基準・手順、情報活用と管理、日常業務マネジメント）	講義	
3	看護ケアのマネジメント　看護業務のマネジメント （看護業務基準、看護基準・手順、情報活用と管理、日常業務マネジメント）	講義・演習	
4	看護ケアのマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （患者の権利・意思決定支援など）	講義	外部講師 （古瀬）
5	看護ケアのマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （チーム医療、看護職の責任と役割）	講義	外部講師 （上平）
6	看護ケアのマネジメント　院内感染対策の実際	講義	外部講師 （山下）
7	看護サービスのマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （組織目的達成のマネジメント、看護サービス提供の仕組みづくり）	講義	外部講師 （安江）
8	看護サービスのマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （人材マネジメント）	講義	
9	看護サービスのマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （組織・設備、物品、情報のマネジメント）	講義	
10	看護職のキャリアマネジメント　看護管理者の経験から学ぶ （看護職の教育制度、キャリア形成）	講義	外部講師 （岩﨑）
11	マネジメントに必要な知識と技術 （リーダーシップとマネジメント）	講義	専任教員 （　　）
12	マネジメントに必要な知識と技術 （組織の調整）	講義・演習	
13 14	看護を取り巻く諸制度 （看護職と法制度、看護職の法的責任、医療制度）（3時間）	講義	
15	岐阜県の看護政策と現状	講義	外部講師 （永田）
16	筆記試験（1時間）		専任教員 （　　）

事前準備や 受講要件等	事前に教科書を読み授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：90点（1～6回、10～14回：60点、7～9回：30点） 課題レポート「看護管理の授業を終えて（第15次後）」：10点
☆担当教員の 実務経験	①看護師としての管理経験を生かした授業展開をする。 ②③⑤⑥医療機関等の看護管理者として勤務した経験を活かした授業展開をする。 ④感染管理認定看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。 ⑦岐阜県医療福祉連携推進課看護対策監として勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	多職種理解と連携	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	3年次7月
				時間数	15		

授業のねらい	多職種の専門性と役割、職業倫理を学び、看護職と多職種の共通性、違いについて理解する。 多職種の養成制度、教育内容について学ぶとともに、看護職の養成制度、教育内容について多職種に伝えることができる。 事例検討をとおし、対象者の目標達成に向け、多職種とともに考えることができる。 多職種連携の意義、看護の専門性について考えることができる。
テキスト 文献	基礎看護学[1]看護学概論（医学書院） 看護の統合と実践[1]看護管理（医学書院） 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア（MCメディカ出版） 在宅看護技術（メヂカルフレンド社） 適宜、資料を活用

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	生活者の健康と暮らしを支える多職種、多職種協働と多職種連携	講義	専任教員 （　　）
2	看護職の機能と役割、倫理綱領、教育制度のまとめ①	演習	
3	看護職の機能と役割、倫理綱領、教育制度のまとめ②	演習	
4	看護職の機能と役割、倫理綱領、教育制度の発表に向けて	演習	
5	看護職の機能と役割、養成制度、教育内容、倫理綱領等の紹介	校外研修	
6	他の専門職の機能と役割、養成制度、教育内容、倫理綱領等の理解	校外研修	
7	多職種学生カンファレンス(1時間)	校外研修	
8	「多職種連携と看護の専門性」について意見交換・まとめ	講義・演習	

事前準備や 受講要件等	適宜提示する課題に取り組み、期限を厳守すること 1回～7回終了後、課題レポートのまとめを行い、8回の講義に臨む。
評価方法	課題提出　100点　テーマ「多職種連携と看護の専門性」
☆担当教員の 実務経験	看護師として医療機関に勤務していた経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	看護の探求Ⅰ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	2年次12月
				時間数	30		

授業のねらい	看護研究は看護実践の発展にとって重要であり、看護師としてその能力を身に付けることが必要であるため、看護研究の基本的な知識を身に付けケーススタディを行う。ケーススタディのプロセスを踏みながら実習を振り返り、自分が実践した看護を探求する。
テキスト 文献	基礎看護学④看護研究（MCメディカ出版）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護研究の目的・役割・種類	講義	専任教員 （　）
2	研究における倫理的配慮、ケーススタディの進め方	講義	
3	研究計画書の作成	講義・演習	
4	文献検索	講義・演習	
5	研究論文の構成と論文の書き方	講義・演習	
6	論文作成の実際1	演習	
7	論文作成の実際2	演習	
8	論文作成の実際3	演習	
9	論文作成の実際4	演習	
10	論文作成の実際5	演習	
11	論文作成の実際6	演習	
12	論文作成の実際7	演習	
13	論文作成の実際8	演習	
14	研究発表	演習	
15	研究発表	演習	

事前準備や 受講要件等	事前課題を行って授業に臨むこと
評価方法	作成論文及び取組状況をルーブリックで評価：100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	看護の探求Ⅱ	担当教員	専任教員☆	単位数	1	開講年次	3年次12月
				時間数	15		

授業のねらい	3年間学んだことを踏まえて、入学当初に考えていた看護と3年経った今考える看護とはどのように、なぜ変化したかを明確にする。自分の学んだ看護とは何かを論文としてまとめ、表現することを目指す。
テキスト 文献	やさしく学ぶ看護理論（日総研）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	看護の機能と役割	講義・演習	専任教員 （　）
2	看護場面と看護観の再構成1	講義・演習	
3	看護場面と看護観の再構成2	講義・演習	
4	看護観論文作成1	演習	
5	看護観論文作成2	演習	
6	看護観論文作成3	演習	
7	看護観発表	演習	
8	看護観発表（1時間）	演習	

事前準備や 受講要件等	1年次の基礎看護学概論の復習 課題を行いながら授業に参加する。
評価方法	作成論文及び取組状況をルーブリックで評価：100点
☆担当教員の 実務経験	看護師として勤務した経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	医療安全	担当教員	専任教員☆ ① 外部講師☆ ②佐橋幹也	単位数	1	開講年次	3年次5月
				時間数	30		

授業のねらい	看護・医療における「安全」を理解し、日常の看護・医療の場で発生しやすい事故について認識を深め、必要な安全対策の基礎的知識を身につけ、事故を予防するための対策が考えられる。また、リスクマネジメント、倫理的判断能力を養い、安全を保証する確かな技術に支えられた看護の提供方法を理解できる。
テキスト 文献	看護の統合と実践[2]医療安全（医学書院） ビジュアル臨床看護技術ガイド （照林社）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	医療安全と看護の理念	講義	外部講師 （ 佐橋 ）
2	医療事故と看護業務	講義	
3	看護事故発生のメカニズムと防止対策	講義	
4	看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み 1	講義	
5	看護師の労働安全衛生上の事故防止 組織的な安全管理体制への取り組み 2	講義	
6	医療安全とコミュニケーション	講義・演習	専任教員 （ ）
7	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 1	講義	
8	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 2	講義・演習	
9	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 3	講義・演習	
10	医療事故防止トレーニング 1(安全な療養環境の整備)	講義・演習	
11	医療事故防止トレーニング 2(インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告)	講義・演習	
12	医療事故防止トレーニング 3	講義・演習	
13 14	医療事故防止トレーニング 4（3時間 ）	講義・演習	
15	OSCE（客観的臨床能力試験）、まとめ		
16	筆記試験（1時間）		

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで授業に臨むこと
評価方法	筆記試験：60点（1回～5回：30点、6回～14回：30点） OSCE（客観的臨床能力試験）：40点
☆担当教員の 実務経験	①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②医療機関の看護師として勤務している経験を活かした授業展開をする。

専門分野

授業科目	災害看護・国際看護	担当教員	専任教員 ① 外部講師☆ ②山本泰大 ③髙木朗義 ④中村文穂 ⑤大嶋奈稔栄	単位数	1	開講年次	3年次4月
				時間数	30		

授業のねらい	看護師は災害時に被災地に出向き、被災者に適切な看護ができる能力が求められる。また、国際社会において、広い視野に基づき、諸外国との協力を考える力も求められている。ここでは災害時・救急時に被災者を支援するための基礎的知識と技術について学ぶ。さらに、多文化・異文化への理解を深め、世界の健康問題と看護の国際協力について考える。
テキスト 文献	系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　（医学書院）

回数	学習内容	授業方法	担当教員
1	災害医療・災害看護の基礎知識	講義	専任教員 （　　）
2	災害医療実施のための体系的なアプローチ 災害医療対応の整備	講義	
3	災害サイクル別看護	講義	
4 5	トリアージ・災害時の応急処置（3時間）	講義・演習	外部講師 （山本）
6	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護　1	講義	
7	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護　2	講義・演習	
8	災害とこころのケア	講義・演習	専任教員 （　　）
9	地域における防災・減災　1	講義	外部講師 （髙木）
10	地域における防災・減災　2	講義	
11	下呂市における災害時の危機管理、防災・減災	講義	外部講師 （中村）
12	国際協力・国際看護概論	講義	外部講師 （大嶋）
13	文化を考慮した看護	講義	
14	国際協力の実際1	講義	
15	国際協力の実際2	講義・演習	
16	筆記試験（1時間）		専任教員 （　　）

事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと
評価方法	筆記試験：100点（1回～5回、8回：60点、12～15回：40点）
☆担当教員の 実務経験	①看護師として臨床で勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②看護師として災害後の医療現場での活動を活かした授業展開をする。 ③防災の専門家としての活動を活かした授業展開をする。 ④下呂市の職員として災害の現場での活動経験を活かした授業展開をする。 ⑤看護師として災害・国際看護の現場での活動経験を活かした授業展開をする。

看護技術マトリックス
卒業時の到達レベル
＜演習＞
Ⅰ：モデル人形もしくは学生間で単独で実施できる。
Ⅱ：モデル人形もしくは学生間で指導の下で実施できる。

項目		技術の種類	基礎	地域在宅	領域横断	成人	老年	小児	母性	精神	統合	卒業時到達度
												演習
環境調整技術	1	快適な療養環境の整備	○							○		Ⅰ
	2	臥床患者のリネン交換	○									Ⅰ
食事の援助技術	3	食事介助（嚥下障害のある患者を除く）	○									Ⅰ
	4	食事指導				○						Ⅱ
	5	経管栄養法による流動食の注入	○									Ⅰ
	6	経鼻胃チューブの挿入	○									Ⅰ
排泄援助技術	7	排泄援助（床上・ポータブルトイレ・おむつ等）	○	○								Ⅰ
	8	膀胱留置カテーテルの管理	○		○							Ⅰ
	9	導尿または膀胱留置カテーテルの挿入	○									Ⅱ
	10	浣腸	○									Ⅰ
	11	摘便	○									Ⅰ
	12	ストーマ管理		○								Ⅱ
活動・休息援助技術	13	車いすでの移送	○									Ⅰ
	14	歩行・移動介助	○		○							Ⅰ
	15	移乗介助	○		○							Ⅰ
	16	体位変換・保持	○		○							Ⅰ
	17	自動・他動運動の援助	○									Ⅰ
	18	ストレッチャー移送	○									Ⅰ
清潔・衣生活援助技術	19	足浴・手浴	○									Ⅰ
	20	整容	○									Ⅰ
	21	点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換	○									Ⅰ
	22	入浴・シャワー浴の介助					○					Ⅰ
	23	陰部の保清	○									Ⅰ
	24	清拭	○									Ⅰ
	25	洗髪	○									Ⅰ
	26	口腔ケア	○				○					Ⅰ
	27	点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換	○		○							Ⅰ
	28	新生児の沐浴・清拭							○			Ⅰ
呼吸・循環を整える技術	29	体温調節の援助	○									Ⅰ
	30	酸素吸入療法の実施	○									Ⅰ
	31	ネブライザーを用いた気道内加湿	○									Ⅰ
	32	口腔内・鼻腔内吸引	○									Ⅱ
	33	気道内吸引	○									Ⅱ
	34	体位ドレナージ	○									Ⅰ
創傷管理技術	35	褥瘡予防ケア	○		○							Ⅱ
	36	創傷処置（創洗浄・創保護・包帯法）	○		○							Ⅱ
	37	ドレーン類の挿入部の処置			○							Ⅱ
与薬の技術	38	経口薬（バッカル錠・内服薬・舌下錠）の投与	○									Ⅱ
	39	経皮・外用薬の投与	○									Ⅰ
	40	坐薬の投与	○									Ⅱ
	41	皮下注射	○			○						Ⅱ
	42	筋肉内注射	○									Ⅱ
	43	静脈路確保・点滴産静脈内注射	○									Ⅱ
	44	点滴静脈内注射の管理	○									Ⅱ
	45	薬剤等の管理（毒薬・劇薬・血液製剤、抗悪性腫瘍薬含む）	○	○	○							Ⅱ
	46	輸血の管理	○									Ⅱ
救命救急処置技術	47	緊急時の応援要請	○			○					○	Ⅰ
	48	一次救命処置	○			○						Ⅰ
	49	止血法	○									Ⅰ

項目	技術の種類		基礎	地域在宅	領域横断	成人	老年	小児	母性	精神	統合	卒業時到達度
												演習
症状・生体機能管理技術	50	バイタルサインの測定	○					○	○	○		Ⅰ
	51	身体計測	○					○	○			Ⅰ
	52	フィジカルアセスメント	○		○							Ⅰ
	53	検体（尿、血液）の取り扱い	○									Ⅰ
	54	簡易血糖測定				○						Ⅱ
	55	静脈採血	○									Ⅱ
	56	検査の介助	○									Ⅰ
感染予防技術	57	スタンダードプリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	○		○							Ⅰ
	58	必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	○		○							Ⅰ
	59	使用した器具の感染防止の取り扱い	○									Ⅰ
	60	感染性廃棄物の取り扱い	○									Ⅰ
	61	無菌操作	○		○							Ⅰ
	62	針刺し事故の防止・事故後の対応	○									Ⅰ
安全管理の技術	63	インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	○								○	Ⅰ
	64	患者の誤認防止策の実施	○								○	Ⅰ
	65	安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）	○								○	Ⅰ
	66	放射線被ばく防止策の実施	○									Ⅰ
	67	人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施	○		○							Ⅱ
	68	医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニター、酸素ボンベ、人工呼吸器等）の操作・管理	○			○						Ⅱ
安楽確保の技術	69	安楽な体位の調整	○									Ⅰ
	70	安楽促進・苦痛の緩和のためのケア			○							Ⅰ
	71	精神的安寧を保つためのケア			○							Ⅰ

二〇二六年度　教育課程

岐阜県立下呂看護専門学校